

2019年度メディア芸術連携促進事業

マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進
実施報告書

令和2年2月

メディア芸術コンソーシアムJV

マンガ・アニメーション・ゲーム・メディアアート産学官民コンソーシアム /
一般社団法人マンガ・アニメ展示促進機構 / 大日本印刷株式会社

学校法人 京都精華大学国際マンガ研究センター /

京都国際マンガミュージアム 他

目次

第1章 事業概要	3
1.1 事業の目的	3
1.2 今年度事業の目的.....	3
1.3 実施体制.....	3
1.4 実施内容.....	5
第2章 成果・課題・評価.....	6
2.1. 成果.....	6
2.2. 課題.....	7
2.3. 評価.....	8
第3章 実施内容	9
3.1. 連携機関によるマンガ原画の〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉	9
3.1.1. 京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター	9
3.1.2. 明治大学 米沢嘉博記念図書館.....	10
3.1.3. 北九州市漫画ミュージアム	11
3.1.4. 一般財団法人パピエ	12
3.2. 「マンガ原画アーカイブネットワーク」(仮)構築に向けた会議の開催.....	12
3.3. 「マンガ原画アーカイブマニュアル」の作成及び公開の準備(「付録1」参照)	13
3.4. 「マンガ原画アーカイブネットワーク」(仮)構築に向けたアンケート調査.....	13
3.5. 「国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」との合同シンポジウム.....	14
3.6. マンガ原画支持体・画材研究.....	23
3.7. 「あしたのジョー」ラストシーン原画の保存状態調査	24
付録	25

目次

1.	「マンガ原画アーカイブマニュアル」	25
2.	「『マンガ原画アーカイブ』に関する調査」関連資料	83
2.1.	調査票	83
2.2.	調査結果.....	87
3.	合同シンポジウム「マンガが先か!?!原画が先か!?! 「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて」資料	96
3.1.	報告「マンガ原画アーカイブに関するアンケート調査報告」	96
3.2.	報告「三原順原画の整理と活用」	102
3.3.	報告「マンガ原画修復について」	112
3.4.	報告「マンガ原画アーカイブネットワーク」／「マンガ原画アーカイブセンター」の構想」	123
3.5.	シンポジウムチラシ	129

第1章 事業概要

1.1 事業の目的

ポピュラーカルチャーにおいて重要な位置を占めるマンガ作品に関する史資料は、〈原画／原稿〉とそれを基に複製大量印刷された〈雑誌・単行本〉という、二つの主要な資料群から構成される。後者に関しては、図書館のような施設の所蔵品や個人のマンガファンのコレクションが、潜在的なアーカイブを担ってきたとも言えよう。ところが、この世に1点しか存在しない〈原画〉に関しては、そうした形態でのアーカイブは存在しにくい。それどころか〈原画〉は、いわば出版過程における中間生成物であり、過去には廃棄対象や読者プレゼントとなっていたケースすらある。

そのマンガ〈原画〉の価値が、近年、文化資源として、様々な側面から見直されるようになっていく。しかしながら、その一方で、戦後マンガを支えてきたマンガ家の逝去や長引く出版不況の影響で、遺族によって廃棄されたり、出版社が管理できなくなったりするなど、従来の〈原画〉の保管基盤がここ数年急速に崩壊しつつあるのが現実である。さらに、国内での価値付けがなされていない〈原画〉は、公共の文化資料として評価し理解される機会を得ることがないため、何の対策も講じられぬままマンガ原画が美術作品と見なされている欧米諸国や中国など一部のアジア諸国へ流出してしまい、かつての浮世絵と同様の状態を招く可能性が高まっている。実際、2018年5月に、手塚治虫「鉄腕アトム」の1枚の原画が、フランスのオークションにおいて3,500万円で落札されたというニュースが流れ、関係者に大きな衝撃を与えた。

こうした背景のもと、貴重なマンガ原画の保管やその整理による人材育成においてノウハウを蓄積している「京都国際マンガミュージアム」を中心に国内連携機関等とともに、文化資源としてのマンガ〈原画〉の価値付けを試みつつ、産・学・館・民・官等の連携・協力による柔軟なネットワークの構築と、〈原画〉のアーカイブ環境の整備を今年度も継続して実施することとする。

1.2 今年度事業の目的

本事業では、上記の事業を継承・発展する形で、マンガ〈原画〉のアーカイブ——〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉を継続実践し、将来的な原画アーカイブの発展についてのマイルストーンを作成し、関係機関と認識を共有することを主な目的とする。

さらには、過去4年間の事業を通じて積み上げてきた、原画アーカイブの手法、人材育成プログラム、受入れモデル等をふまえ、連携機関同士のネットワーク構築とそのためのハブとなる拠点を確立し、公的にその存在を可視化することで、ますます要求が高まるマンガ原画の収蔵や活用を推進する体制を整える。具体的には、2019年度にリニューアルオープンした「横手市増田まんが美術館」内に設置される「マンガ原画アーカイブセンター（仮称）」の活用について検討していく。また上記施設に続く、アーカイブ拠点としての国内施設候補選定についても併せて検討していくこととする。

1.3 実施体制

本事業は、「京都国際マンガミュージアム」/「京都精華大学国際マンガ研究センター（京都MM/IMRC）」、「明治大学 米沢嘉博記念図書館（米ト）」、「北九州市漫画ミュージアム（北九州MM）」、

第1章 事業概要

「一般財団法人パピエ（パピエ）」、「横手市増田まんが美術館（横手MM）」、「学校法人専門学校 東洋美術学校（東洋美術学校）」の連携により実施された。

各連携機関がそれぞれに行うマンガ原画の〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉とは別に、本年度の事業内容の詳細に応じて、「マンガ原画アーカイブネットワーク検討部会」（責任者：大石卓）、「マンガ原画アーカイブマニュアル部会」（責任者：ヤマダトモコ）、「マンガ原画アーカイブネットワークアンケート部会」（責任者：日高利泰）、「シンポジウム準備部会」（責任者：伊藤遊）、「マンガ原画支持体・画材研究部会」（責任者：小野慎之介）の5部会を設置し、メンバーがそれぞれいずれかの部会に属して研究や事業の推進が図られた。

コーディネーター	伊藤遊	京都精華大学国際マンガ研究センター研究員
オブザーバー	吉村和真	京都精華大学マンガ学部教授・副学長
メンバー	倉持佳代子	京都国際マンガミュージアム研究員
	ユウ・スギョン	京都精華大学国際マンガ研究センター研究員
	雑賀忠宏	京都精華大学国際マンガ研究センター研究員
	市川圭	京都国際マンガミュージアム／日本アспектコア
	大石卓	横手市 まちづくり推進部 文化振興課
	安田一平	一般財団法人横手市増田まんが美術財団
	ヤマダトモコ	明治大学米沢嘉博記念図書館
	伊藤真由子	明治大学米沢嘉博記念図書館／日本アспектコア
	鈴木紀成	明治大学米沢嘉博記念図書館／日本アспектコア
	遠藤尚子	日本アспектコア
	田中里香	日本アспектコア
	米津雅代	日本アспектコア
	表智之	北九州市漫画ミュージアム専門研究員
	柴田沙良	北九州市漫画ミュージアム学芸員
	石井茜	北九州市漫画ミュージアム学芸員
	米澤伸弥	一般財団法人パピエ
	菊田樹子	一般財団法人パピエ
	原正人	一般財団法人パピエ
	小野慎之介	東洋美術学校
	日高利泰	京都大学ほか非常勤講師

第1章 事業概要

1.4 実施内容

① 連携機関によるマンガ原画の〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉

各連携機関（京都 MM/IMRC、米ト、北九州 MM、パピエ）が、それぞれに管理しているマンガ原画について整理・保存のための作業、それらの原画の活用、また状況に応じて新たな原画の収集を行った。

② マンガ原画アーカイブネットワーク検討部会

2019年10月25日、26日の2日間、横手市増田まんが美術館において「アーカイブネットワーク会議」を催し、「マンガ原画アーカイブセンター」及び「マンガ原画アーカイブネットワーク」の次年度以降の具体的な活動についてメンバー間の意見交換を行った。

③ マンガ原画アーカイブマニュアル部会

過去4か年の文化庁メディア芸術連携促進事業の中で得られた知見を広く共有することを目的とし、暫定的な「マンガ原画アーカイブマニュアル」としてまとめた。

④ マンガ原画アーカイブネットワークアンケート部会

2019年8月～9月、日本国内の博物館・美術館・文学館等約1,200施設を対象としたアンケート調査を実施した。約650件の回答があり、調査結果は中間報告会（10月15日）、合同シンポジウム（12月17日）で発表されたほか、マンガ原画ネットワーク会議（10月25日、26日）の資料としても用いられた。

⑤ シンポジウム準備部会

2019年12月17日、DNP五反田ビルにて「国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」（刊本事業）との合同シンポジウム「マンガが先か!?原画が先か!? 「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて」を開催した。

⑥ マンガ原画支持体・画材研究部会

カラー原画（谷口ジロー作品2点）及びアルコールマーカの耐光性試験を行い、展示の照明環境が作品に与える影響について検討した。またこれとは別に、大英博物館のマンガ展（5～8月）に貸し出されていた「あしたのジョー」ラストシーン原画の保存状態調査を行った。

第2章 成果・課題・評価

2.1. 成果

① 連携機関によるマンガ原画の〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉

各連携機関（京都 MM/IMRC、米ト、北九州 MM、パピエ）が、それぞれに管理しているマンガ原画について整理・保存のための作業、それらの原画の活用、また状況に応じて新たな原画の収集（あさぎり夕、内山亜紀、松本るい、もとやま礼子、等）を行った。新規収集原画の整理・保存については、これまでのやり方での作業に加えて新しい方法の模索も同時に行われた。

② マンガ原画アーカイブネットワーク検討部会

増田まんが美術館の運営に当たっている横手市増田まんが美術財団が「マンガ原画アーカイブセンター」の事業主体となることに加えて、原画保存の受入れ窓口業務や各地域の施設とのネットワーク化、各地域でアーカイブ業務に携わる人材の育成事業に取り組むことが確認された。これらの事業のため、3名の専門職員が新たに配置される予定である。

③ マンガ原画アーカイブマニュアル部会

「マンガ原画アーカイブマニュアル」としてマンガ原画アーカイブの意義や具体的な整理作業の進め方について約 60 ページの分量にまとめた。同マニュアルは、原画収蔵施設間でノウハウを共有すると共に、今後原画の収集・保存を行いたいと考えている施設や現在マンガ原画を保管している個人（作家本人や作家遺族等）も対象とした内容である。

④ マンガ原画アーカイブネットワークアンケート部会

日本国内の博物館・美術館・文学館等約 1,200 施設を対象としたアンケート調査では約 650 件の回答があり、約 300 館がマンガ原画の収蔵・展示に関心を持っており、このうち約 150 館がマンガ原画の収蔵に前向きであるという結果が得られた。

⑤ シンポジウム準備部会

刊本事業との合同シンポジウム「マンガが先か!?!原画が先か!?! 「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて」では、本事業の各部会の成果が報告されたほか、原画事業と刊本事業が連携して今後のアーカイブをいかに進めていくべきかについて、作家、研究者、収蔵施設それぞれの立場から活発な意見交換がなされた。

⑥ マンガ原画支持体・画材研究部会

谷口ジロー作品のカラー原画に対して LED 光源を用いた耐光性試験を実施したところ、国際照明委員会 (CIE) の示すガイドラインに基づくならば、照度 50 lux で年間 300 時間以内の展示が推奨されるという結果が得られた。アルコールマーカーについても同様の試験を行い、色ごとに耐光性に大きな違いがあることが明らかとなった。「超低耐光性色」が使用された原画につい

第2章 成果・課題・評価

ては、上記 CIE のガイドラインに基づいた年間積算照度が設定できないため、展示に際しては複製を利用するなどの対策が今後必要である。また「あしたのジョー」のラストシーン原画の保存状態を調査したところ、肉眼では分からなかったものも含めて複数の保存上の問題点が判明した。

2.2. 課題

① 連携機関によるマンガ原画の〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉

各連携機関（京都 MM/IMRC、米ト、北九州 MM、パピエ）における成果を整理し、汎用性のある項目と独自性のある項目を分類するなど、今後の連携先の拡充に向けた事例報告を発信する準備を進める必要がある。とりわけ収集に関しては、これまで受動的だったケースも目立っていたが、今後は能動的なあり方を検討する必要がある。

② マンガ原画アーカイブネットワーク検討部会

「マンガ原画アーカイブセンター」の事業主体として確認された横手市増田まんが美術財団との協議を進め、各種業務内容と実施体制・予算の確保による、センターの実装化が最大の課題となる。全国的な取り組みに発展することを視野に、関連施設とのネットワーク構築や専門人材の育成事業などが、重点課題として確認されている。

③ マンガ原画アーカイブマニュアル部会

今年度取りまとめた「マンガ原画アーカイブマニュアル」を活用・普及すべく、原画収蔵施設間での連絡調整と情報共有を図るとともに、それぞれのケーススタディやトライ&エラーを集積し、定期的なマニュアルの更新作業を進めることが求められる。

④ マンガ原画アーカイブネットワークアンケート部会

今年度のアンケート調査結果をふまえ、例えば、マンガ原画の能動的な収蔵主体となるのか、原画展示の利用だけに留めるのかといった、より詳細なニーズの分析を進め、実態に応じた協力体制の構築に着手する。その際、美術館・博物館・文学館の機能の違いに加え、所管の自治体や立地条件の地域性なども考慮する必要がある。

⑤ シンポジウム準備部会

刊本事業との合同シンポジウム「マンガが先か!原画が先か!」での成果をふまえ、将来的な「マンガのアーカイブ」が「ありたい」「ありうる」「あるべき」姿を丁寧に見定めるべく、事業全体の動向と各部会の活動をふまえ、毎年度のさらなる充実が果たせるシンポジウムの実施準備に計画的に取り組む。

⑥ マンガ原画支持体・画材研究部会

合同シンポジウムでも高い注目を集めた本部会の成果を次年度以降も手法や対象を拡張して発

第2章 成果・課題・評価

展させるとともに、すでに得られた知見については広く社会に発信・共有する機会を持つことが重要である。そのための出版企画やサイト構築についての協議を進めたい。

2.3. 評価

まず2019年度に関しては、各事業・部会とも当初の計画に基づきながら、およそ計画以上の成果を得ていることから、それぞれの連携機関と所属メンバーによる協力の結果として高く評価したい。同時にそこには、美術館・博物館・文学館へのアンケート回答率の高さも示すように、マンガ原画のアーカイブに対する国内外の注目度の高まりもあるだけに、原画アーカイブセンターとネットワークという制度の構築、アーカイブマニュアルや画材研究といった手法の共有が、ますます緊密なテーマとして連動していくことが期待できる。

また五年間の総括としても、本連携促進事業開始前に比べ、明らかに国内のマンガ原画アーカイブに関する関係施設間の連携が進んだことで、それぞれの知見や方法が共有され、全体のレベルアップを推進することができた。その実態は、マンガ家本人や関係者による各施設への原画の寄贈・寄託の数、あるいはそれを活用した展示等への動員数などが示す通りである。特に横手市増田まんが美術館のリニューアル決定からオープンまでの期間と重なったことで、そこをハブにマンガ原画アーカイブを巡る諸課題を具体的かつ実践的な形で発見・共有・解決まで導くことができた成果は大きい。事業開始にあたり、全体に通じる要素として、「緊急性・具体性・持続性・協働性・価値創造性」の5点を予め挙げていたが、いずれも期待以上の対応が目に見える形で提示されたと言えよう。

国内のみならず国外でもますます関心が高まる「マンガ原画アーカイブ」の将来に大きく影響する事業として、より綿密な計画と信頼ある連携に基づく継続・発展を大いに期待したい。

第3章 実施内容

3.1. 連携機関によるマンガ原画の〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉

各連携機関（京都 MM/IMRC、米ト、北九州 MM、パピエ）が、それぞれに管理しているマンガ原画について整理・保存のための作業、それらの原画の活用、また状況に応じて新たな原画の収集を行った。マンガ原画の整理・保存とは、モノとしての原画を一定のルールで分類し中性紙袋に詰めなおし、併せて写真撮影・スキャンによって原画の画像データを作成することで初出情報を含むメタデータと共に管理する一連の作業を指す。保存環境を整備することに加え、活用面での利便性を高めることができる。

3.1.1. 京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター

同館/同センターでは、4作家の原画作品及び関連資料を〈収集〉〈整理・保存〉した。本年度は、前年度までとは異なる二つの体制で〈整理・保存〉作業を行うという実験も行った。また、1作家の作品を元に精巧な複製原画「原画'（ダッシュ）」を作成し、原画の〈活用〉の準備をした。

〈収集〉

内山亜紀作品の原画約 20 箱分他、松本るい作品の原画段ボール約 10 箱分他、もとやま礼子作品の原画段ボール 3 箱分他、あさぎり夕作品の原画約 17,000 点他の寄贈を受け、「けいはんなオープンイノベーションセンター」における、精華町が管理している「SEIKA クリエイターズインキュベーションセンター」の一角に移管した。

〈整理・保存〉

松本るい作品の原画約 2,500 点の管理用写真を撮影の上、それぞれの初出情報などの作品データを作成した。同作業は、「SEIKA クリエイターズインキュベーションセンター」において行われたが、「株式会社ワンビリング」が担い、京都国際マンガミュージアム/京都精華国際マンガ研究センターのスタッフと連携を取りながら、地元精華町からアルバイトを雇う形で実施した。

また、あさぎり夕作品の原画 6,000 点の管理用写真を撮影の上、それぞれの初出情報などの作品データを作成した。この作業は、同原画を管理していた「ユウプロダクション」が担い、整理された資料を、「SEIKA クリエイターズインキュベーションセンター」に移管した。作画も担当したプロダクションスタッフが作業を行ったため、通常ではなかなか知り得ない、原画の支持体・画材情報も、メタデータとして得ることができた。

〈活用〉

忠津陽子作品の原画を借用し、精巧な複製原画「原画'（ダッシュ）」各 34 点を作成、原画活用の準備を行った。あさぎり夕作品の原画の一部は、「創刊 65 周年記念 なかよし展」（於・弥生美術館、2019 年 10 月 4 日～12 月 25 日）で展示された。

第3章 実施内容

3.1.2. 明治大学 米沢嘉博記念図書館

館所蔵の鈴木光明原画及び関連資料の〈整理・保存〉活動を中心に進めた。さらに三原順に関しては、入力データを再確認し、不備や漏れの修正作業を行った上で、原画と関連資料を全て権利者に返却した。

〈整理・保存〉

まず、鈴木光明原画及び関連資料の整理保存活動を行った。今年度は代表作「もも子探偵長」の原画を中心に整理した。鈴木光明原画は全体枚数 1,536 枚のうち 761 枚を整理。昨年整理分を合わせ、全ページの整理作業がデータの入力を含めほぼ完了した。また、原画相当関連資料約 176 点分の整理も進め、基礎となるデータの入力を終えた。この場合の原画相当関連資料とは、雑誌切り抜き・ふろく・単行本などだが、既に原画の存在しないものがほとんどであり、原画相当資料とした。原画資料は中性紙の箱（内寸 45.0×33.0×6.0cm）14 箱、原画相当関連資料は 8 箱となった。

さらに、昨年度まで原画をお預かりしていた三原順資料に関しては、入力データの再確認をしたところ不備が相当数見つかったため、修正作業を行った上で、全て権利者に返却した。アーカイブデータのみ当館でも保管し、運用のサポートを行っていく予定である。

〈活用〉

三原順原画の活用が続いた。まず、昨年までのアーカイブ作業のおひろめとして、今年度事業が始まる前の 2019 年 6 月 21 日～8 月 26 日まで、当館で「三原順カラー原画展 ～札幌からようこそ～」を開催した。

さらに「はみだしっ子」舞台化第 3 弾が公演されチラシ等で原画データが利用された。また、原画データを使った三原順の絵本『かくれちゃったのだからだ』(復刊ドットコム) 新装版の刊行が実現した（この絵本は復刊ドットコムの最初の復刊本であり、社の創立 20 周年の記念本として新装再刊行された）。さらに、本事業での原画整理の集大成となる画集『三原順 All Color Works』が、三原順のホーム出版社である白泉社から刊行されることが、事業期間中に決定し発表された。また、札幌文化芸術交流センターSCARTS での「令和 2 年公募企画」に通り、同施設で、2020 年 6 月 3 日～6 月 14 日（※10 日休館日）に三原順の展示が開催されることが決定した。三原順の地元北海道での初の個展が実現するのである。

また事業の活動を通して、認知が進んだ結果、御縁があった作家からの原画類をお預かりすることになった。当館では、スペースや管理の問題もあり積極的に収集活動を行っていない。しかし、御縁があり、本事業の範疇外ではあるが段ボール 35 箱程度の原画類をお預かりした。中にはアナログの原画や、デジタルで最終原画を作成するための中間的原画もある。今後、本事業での方法論を生かしつつ、新しい整理法を模索しながら整理保存活動を行っていく予定である。

※当館の三原順原画アーカイブ活動に関しては 3.5.のシンポジウムでの当館の発表、及び本報告書

第3章 実施内容

付録の同シンポジウム資料部分も参照のこと。

3.1.3. 北九州市漫画ミュージアム

今年度は、3作家の新規受入れを行った。また、受入れに向けての協議も2作家について行っている。今年度に実施した原画整理作業は、新規受入れ原画の仕分とリストアップを優先させる見地から、デジタルスキャニングでなく、撮影台を使用してのサムネイル撮影を行っている。また、収蔵・受入れ原画の館内活用に本格的に着手し、常設展内のコーナーを新たに設けたほか、3つの展覧会（うち1つは3月開催予定）を企画した。

〈収集〉

国友やすゆき作品の原画約4万点（推定）、畑中純のマンガ作品原画と版画作品版木計約2万点（推定）、神江里見作品の原画約3万点（推定）を新たに受け入れた。いずれも寄託または寄贈を想定しての受入れであり、整理及び諸条件の確認を経て正式に収蔵される。

また、メカニックデザイナーの村田護郎について、作品原画及びデータ・資料群の受入れに向けて協議を実施。現在は、故人である作家本人に代わって、その活動に詳しい知己の方が遺品整理を行っており、仕分後の作品・資料については2020年度をめどに受け入れる予定。

さらにもう1作家から、マンガ及びイラストレーション作品の整理を兼ねた受入れの依頼があった。この作家については、包括的な寄託ないし寄贈の意思決定を急ぐのではなく、まずは少しずつでもお預かりして整理しながら協議を進める形を想定している。

〈整理・保存〉

国友やすゆき原画については本事業の中で業務委託を行い、専従のスタッフが整理作業に従事した。この専従スタッフは、博物館施設での学芸業務に準ずる勤務経験があり、学芸員資格取得見込みの専門人材で、昨年度の作業従事者でもある。

国友原画推計約4万点のうち、18,532点について、状態確認からサムネイル撮影・リスト入力・中性紙の封筒及びボックスへの整頓までの一連の整理作業を完了している。それ以外の新規受入れ原画未整理分については、原画の状態や元の保存環境、館のスペースの事情などを鑑みて、収蔵庫・収蔵庫前室・倉庫に適宜分けて仮置きし、基本的には安定した環境下で保管している。今後、整理や燻蒸〔くんじょう〕などを進めつつ、収蔵庫内へ集約していく予定。なお、畑中純の版画作品版木については、乾燥防止の見地から最優先で収蔵庫へ入れ、庫内で保管している。

〈活用〉

今年度より館内での展示活用を強化した。関谷ひさし原画については開館時より館内に専用コーナーを設けていたが、陸奥A子原画についても専用コーナーを新設した。また、常設展内ミニギャラリーでは、「新規収蔵原画展―国友やすゆき―」（2019年11月9日～2020年1月9日）、「収蔵原画名品展～陸奥A子～」(2020年1月11日～3月26日)の2つの展覧会を企画し開

第3章 実施内容

催した。さらに企画展示室では2020年3月20日より、「関谷ひさしとスポーツマンガの時代—もうひとつの少年マンガ史—」の開催を予定している。

館外での活用では、「アジア MANGA サミット北九州大会」において開催された作品展（2019年11月30日～12月1日）に関谷ひさし・陸奥 A 子原画のスキニングデータを提供し、高精度印刷による複製原画展示が行われた。

3.1.4. 一般財団法人パピエ

マンガ家谷口ジローの全著作物の著作権者である一般財団法人パピエは、昨年度に引き続き、原画のスキャン・デジタル化、原画の整理・リスト化を行う一方、出版、展示で活用の事例を積み上げた。また、「マンガ原画支持体・画材研究」のために、連携機関である東洋美術学校に谷口ジローのカラー原画2点を提供した。

〈収集〉

パピエは谷口ジロー作品の著作権者だが、一部の作品が出版社等に保管されており、先年来これらの原画の収集に努めている。昨年末時点で9割超の回収を終え、当財団が所有・管理する原画の数は約15,000点にのぼる。

〈整理・保存〉

谷口ジロー原画約15,000点のうち、長編『青の戦士』280点のスキャン・デジタル化を行った。現在展示等で貸出し中の20点を除き、整理を行い、Excelのシートに状態を入力した。

〈活用〉

2019年9月に双葉社から『描くひと 谷口ジロー』が発売された。もともと2012年にフランスで発売されたバンド・デシネ原作者ブノワ・ペータースによるインタビュー本の日本語版で、谷口ジローの死後に発表された関係者の対談や寄稿など、日本語版独自の様々な増補がなされている。原画を新たに撮影した図版が多く掲載されているほか、巻末には谷口ジロー作品の日本語版・海外版のリストも収録されている。パピエは写真撮影用の原画とリストを提供している。

谷口ジローの故郷でもある鳥取県鳥取市のギャラリー「鳥たちのいえ」で、「谷口ジローの世界1～狩撫麻礼との80年代～」展（2019年10月1日～10月20日）が開催された。『青の戦士』の原画が20点ほど展示されたほか、ポスター、チラシの制作に際して同作の原画を使用した。

3.2. 「マンガ原画アーカイブネットワーク」（仮）構築に向けた会議の開催

2019年10月25日、26日の2日間、横手市増田まんが美術館において「アーカイブネットワーク会議」を催し、「マンガ原画アーカイブセンター」及び「マンガ原画アーカイブネットワーク」の次年度以降の具体的な活動についてメンバー間の意見交換を行った。

第3章 実施内容

〈概要〉

- ・横手市が「原画アーカイブセンター」の受入れ自治体となることは市役所内で合意が得られた。
- ・増田まんが美術館の運営に当たっている横手市増田まんが美術財団が事業主体となることのほか、原画保存の受入れ窓口業務や各地域の施設とのネットワーク化、各地域でアーカイブ業務に携わる人材の育成事業に取り組む計画。
- ・これらの事業のため、3名の専門職員を新たに配置する予定。
- ・5年後に自主事業として採算が取れるように将来的な人員計画と段階的な事業計画を立てるべき。
- ・ネットワーク内での役割や事業への参画度合いに応じて、施設を色分けする必要がある。大きくは各地域で中核的な役割を果たす施設、アーカイブ事業への参加意思を持つ施設、原画を活用した展示会の巡回のみを希望する施設に分かれると想定される。
- ・ネットワーク事業で各地の施設が原画の整理や保管までこなせる体制に持っていくには、各施設で業務を担当する人材の育成も含め、かなりの時間やエネルギーが必要になると予想される。
- ・地域ブロック構想の実現については、次年度以降より一層具体化させるべき。
- ・ネットワーク参加施設の掘り起こしという意味もあるアンケート調査の継続的实施が必要。
- ・原画事業、刊本事業が連携した形での拠点整備を考えなければならない。

3.3. 「マンガ原画アーカイブマニュアル」の作成及び公開の準備（「付録1.」参照）

過去4か年の文化庁メディア芸術連携促進事業の中で得られた知見を広く共有することを目的とし、暫定的に60ページほどの分量にまとめた「マンガ原画アーカイブマニュアル（2019年度）」は、原画収蔵施設間でノウハウを共有すると共に、今後原画の収集・保存を行いたいと考えている施設や現在マンガ原画を保管している個人（作家本人や作家遺族等）も対象とした内容となっている。

マニュアルの章立ては以下の通りである。詳細については別途「マンガ原画アーカイブマニュアル（2019年度）」参照のこと。

- 1章 なぜ原画のアーカイブが必要か…p.2
- 2章 マンガ原画の劣化…p.5
- 3章 マンガ原画の整理…p.20
- 4章 マンガ原画の受入…p.42
- 5章 マンガ原画の活用…p.44

3.4. 「マンガ原画アーカイブネットワーク」（仮）構築に向けたアンケート調査

（「付録2.」参照）

2019年8月から9月に掛けて、日本博物館協会（うち総合、郷土、美術、歴史カテゴリに属する）、美術館連絡協議会、全国文学館協議会の加盟館及び京都MMの案内状発送先施設、日本国内の計1,174施設（重複を除く）を対象として、マンガ原画の収蔵・展示への関心の有無、「マンガ原画アーカイブネットワーク」への関心の有無等を問うアンケート調査を実施した。調査票の様式等については付録

第3章 実施内容

参照のこと。

最終的には10/7到着分までを集計対象とし、有効回答数は計652件（回収率56%）。当初の想定よりも回収率が高く、マンガ原画に対する全国的な関心の高さが伺える結果となった。調査結果を簡単にまとめると、以下の通りである。日本国内の主要な博物館・美術館・文学館等の文化施設約1,200館のうち、約300館がマンガ原画の収蔵・展示に関心を持っており、このうち約150館がマンガ原画の収蔵に前向きである。展示への関心の内実としては、地方の施設を中心に低予算での巡回展等への要望が目立った。ただし、収蔵に前向きと言ってもその積極性にはかなり温度差があり、またいずれの施設においても恒常的なリソース不足が深刻であるため、大規模なマンガ原画の受入れが直ちに可能なわけではない点に注意が必要である。本事業の「マンガ原画アーカイブセンター」及び「マンガ原画アーカイブネットワーク」は、全国規模の支援体制の確立という意味でも非常に重要な役割を果たすことが期待される。

3.5. 「国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」との合同シンポジウム

「マンガが先か!原画が先か!」 「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて」

開催（「付録3」参照）

日時：2019年12月17日（火）13時00分～17時00分

場所：大日本印刷株式会社 DNP 五反田ビル 1F ホール

登壇者

- 全体司会 吉村和真
- 原画事業 日高利泰・ヤマダトモコ・小野慎之介・大石卓・伊藤遊（進行）
- 刊本事業 表智之・橋本博・柴尾晋・松岡星・鈴木寛之（進行）
- ディスカッサント 赤松健・森川嘉一郎・伊藤遊・鈴木寛之 ※敬称略

■趣旨説明（吉村和真）

近年、マンガ・原画のアーカイブに対する注目度が高まっている。国内外の様々なマンガ・アニメ関係施設、展示、議論の場が設けられるほか、災害などにより貴重な資料が消失する緊急性の高い事象にも直面している。原画がなければマンガは存在せず、マンガの流通・人気・評価によって原画の価値が変わっていくため、原画と刊本（雑誌・単行本）の両アーカイブ事業は表裏一体である。これまで本事業で進めてきた5年間の成果と総括を共有するとともに、次の5年間に向けた課題と展望を共に考える場としたい。

■第1部：「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進」事業報告

【マンガ原画アーカイブに関するアンケート調査報告】（日高利泰）

第3章 実施内容

2019年夏、約1,200館の博物館・美術館・文学館に対して、マンガの原画の収集や展示に関心があるかを調査するアンケートを行い、652件（回収率56%）の回答があった。

Q1「マンガ原画（関連史資料）の収集・展示に関心があるか」への回答は、YESが171件、NOが363件。NOと答えた理由には、館の収集方針にそぐわないとの回答が多かった。

Q2「すでにマンガ原画を収集・収集しているか。または収集する計画はあるか」への回答は、YESが55件あったが、「計画がある」との回答はなかった。また、Q1とQ2の回答から、集めるつもりはなかったが結果的に持っている場合もあると分かった。

Q3「原画をどのような経緯で受け入れたか」への回答は、マンガ専門施設ではなくとも、何らかのイベントを行った際に作家が描いた色紙などを収集しているケースがあるようだ。

Q4「将来的にマンガ原画の収集を行いたいと考えているか」への回答は、YESが139件、このうちQ2で「すでに収集している」と回答した重複34件を除くと105件。NOと答えた中の「地元ゆかりの作家であれば、受入れを検討しないでもない」と消極的な受入れ表明のあった20件を合計すれば約130件となる。

Q5「マンガ原画（関連史資料）を収集する目的および収集を行う上での課題」への回答は、空間、予算、専門人材、どれも足りないとの回答が最も多かった。

Q6「要望・質問等について」に対しては、地方の館を中心に「低予算での巡回展をやってほしい」との要望のほか、「原画を扱う専門的なノウハウが不足しているので、研修等をやってほしい」との要望が、既に原画を収集している施設からも多くあった。

以上の結果から、マンガ原画の収集に前向きな施設は約160件と考えられるが、コミットメントの度合いにばらつきがあるため、収集に積極的なのは約1/3と考えた方がいいだろう。リソース面から各館で大規模な受入れが直ちに可能なわけではなく、支援体制の整備が必要不可欠であり、本事業で構想するマンガ原画アーカイブセンター及びマンガ原画アーカイブネットワークが非常に重要な役割を果たすと考えられる。

【三原順原画の整理と活用】（ヤマダトモコ）

明治大学米沢嘉博記念図書館が本事業内で三原順原画のアーカイブ化を進めることになったきっかけは、『はみだしっ子』『Sons』などの代表作を持つ三原順氏の没後20年展（2015年）を開催した際、来館者の多くが原画を前に涙する姿を目にし、彼女が早世を惜しまれる大切な作家だと認識したことだった。原画の所有者は保管場所やコスト面で困っていたが、当館で原画を預かり調査と整理を進めることで、原画活用の機会が増やせると考えた。

事業3年目までは、原画及び原画関連資料のアーカイブ作業を進めた。割り当てたIDとともに原画をスキャンし、プリントアウトしたものを作品カードとして使用する。そしてExcelに必要なデータを入力する。なお三原順原画はあくまでお預かりしたものであるため、著作権を鑑みて複製できない精度（300dpi）の画像しか残さないことにした。また、原画の附属物散逸を防ぐためにOPP袋で保存しているが、それがよりよい保管法かどうか、今後も検討が必要だ。

4年目には、札幌にある原画の状態確認と所在不明原画の探索を行ったところ、三原氏の友人が

第3章 実施内容

所蔵しているカラー原画 18 枚の状態確認をすることができた。また、三原順原画整理作業の実践から得た知見をまとめた報告書『マンガ原画整理に関する報告書 三原順原画を中心に』（明治大学米沢嘉博記念図書館 2019 年 3 月 20 日発行）を作成した。

今年度 5 年目には、前年度整理しきれなかったデータの整理作業をした後、原画・資料類全件数 6,337 点を所有者に返却した。ただし、アーカイブデータは共有保管し、今後も運用のサポートをしたい。

三原氏のホーム出版社と言える白泉社から文庫『三原順作品集 LAST PIECE』が刊行されるタイミングで三原順氏の没後 20 年展を開催したが、展示を契機に発見された原画もあり、様々に利活用されている。『はみだしっ子』の舞台化（スタジオライブ）、『総特集 三原順』（河出書房新社）、原画を使用して新装復刊した絵本『かくれちゃったのだからだ』（復刊ドットコム）、2020 年には当館原画事業の集大成となる全カラーイラスト掲載予定の『三原順 All Color Works』（白泉社）が刊行される。

本事業での整理作業は利活用の支援に貢献できたと考える。産官学共同事業の一例として、メディア芸術の文化史資料保存を考える際の参考にしていただければ幸いである。

【マンガ原画修復について】（小野慎之介）

マンガ原画の資料的・芸術的価値が再認識される中で、長期保存対策の構築が求められている。大がかりな修復処置等が必要になる前に、劣化要因をコントロールする予防保存対策と、マンガ原画の健康状態を診断する聴診器の開発、つまりマンガ原画を取り扱う際に参照すべき基準の作成が必要不可欠である。

昨年度までは、横手市増田まんが美術館に収蔵されている原画 311 点の非破壊強度予測に取り組み、さらに制作年との相関関係を確認した。

今年度からは、カラー原画の耐光性について調査を進めている。カラー原画に光を直接当てて変色させることはできないため、目立たない箇所に約 0.4mm の照射径の光を当ててピンポイントで計測。ISO 準拠の染色布「ブルーウール」を変色度合いの比較対象とした。

谷口ジロー氏の原画で評価を行ったところ、ブルーウール・スタンダード 2 級相当、制作年の違うものについても 2 級相当との結果になり、国際照明委員会のガイドラインでは、年間の累積照度 15,000 ルクスアワー（照度 50 ルクスで 10 時間×30 日間）に抑えて展示すべきと指標が設定されている。また、コピック等のアルコールマーカーは、色によって安定性に大きな違いがある。カラー原画・画材は光に対して敏感なものが多く、これらのデータを基に照度や展示期間を設定しなくてはならない。

アート作品として可能な限りきれいに保存したい、物に付随する歴史の積み重ねを保存したいなど、様々な価値観によって最適な保存・修復のあり方は変化する。このタイミングでマンガ原画の価値を問い直す必要があるだろう。

【マンガ原画アーカイブネットワーク/マンガ原画アーカイブセンターの構想】（大石卓）

第3章 実施内容

横手市増田まんが美術館に原画保存相談の窓口となるアーカイブセンターを実装するべく、本年度は具体的な協議を重ねてきた。当館は、国内外合わせて作家数 179 人、23 万点以上の原画を収蔵しており、2019 年 5 月にまんが美術館単体の施設としてリニューアルした。

2017 年からは、作家が生涯を懸けて生み出した原画をお預かりしてアーカイブし、まちづくりに生かす取り組みを始めている。原画データを入力する専用ソフトの開発、1,200dpi の高解像度によるスキャニングのほか、原画の酸性化を抑制する中性紙素材の封筒や箱で保管。ガラス張りの「マンガの蔵展示室」は、収蔵やアーカイブ作業の様子を外から見ることができる。倉庫中は紙資源の保存に最も適した温湿度で 24 時間管理されている。

2019 年 4 月 1 日からは、地元出身のマンガ家と横手市が共同出資した一般財団法人横手市増田まんが美術財団が指定管理者制度で公設民営型の施設として運営を始め、横手市と財団で原画相談の窓口となる合意がなされた。

センターとしての業務は、出版社やマンガ家、展示施設関係者からの原画保存・処理に係る様々な相談を受け、カルテ作りを進めていく。相談者の希望に合う解決策を一緒に見だし、全国の関連施設に対して収蔵を働き掛け、その結果をまたマンガ家や権利者に戻していく仕事の主になると想定している。さらに原画の寄贈・譲渡、企画展での活用などを関連するネットワークの施設で行い、緊急処置が必要な原画・資料に関しては、一度プールすることも必要な業務になる。また、アーカイブ専門人材の育成、運営の自立化、収益性のある活用なども担っていく必要があるだろう。

横手市増田まんが美術館の収蔵キャパシティ 70 万件は早々に限界に達することが容易に想像できるため、全国に拠点を設けながらブロック単位でネットワークを強固にし、オールジャパンで原画の保存に取り組んでいきたい。

■第2部：「国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」事業報告

【マンガ史資料アーカイブに関するアンケート調査報告】（表智之）

日本図書館協会加盟館から公立図書館 1,474 件を抽出して、マンガ史資料アーカイブに関するアンケートを郵送したところ、696 件（回収率 47%）の回答があった。

「マンガ単行本・雑誌の収蔵に関心があるか」への回答は、YES が 71%、NO が 28%。消極的な回答の理由は、スペースが足りない、選書の基準がない、人員の問題、資料収集方針にマンガがない、住民の理解が得られない、地域書店とのすみ分け等があった。

「既に収蔵しているか」への回答は、YES が 79%だった。単行本の収蔵数は、1 万冊以上が 29 件、1,000 冊～9,999 冊が 238 件、100 冊～999 冊が 221 件、100 冊以下が 29 件、計測不能の館が 40 件だった。雑誌の収蔵数は、定期タイトル 10 誌以上が 24 件、10 誌未満が 28 件。冊数は、1,000 冊以上が 17 件、100 冊以上が 14 件、100 冊未満が 9 件だった。

「収蔵している単行本の主な作家・作品名」への回答は、やはり手塚治虫や長谷川町子など評価の固まった歴史的な作家、あるいは学習性の高い作家に集中している。

「選書の基準について」への回答は、郷土資料、「文化芸術基本法」に基づいて収集、地域課題の

第3章 実施内容

入門書として利用できる本のほか、性や暴力に関する本は入れない等があった。

「将来的に収集を行いたいのか」への回答は、YESが19%、NOが33%だったが、未回答が半分を占めている。課題としては、スペース、選書、予算、方針、理解、ニーズ、装丁が収集向きではない、絶版で手に入らない、利用者のマナーが落ちる等があった。

「収集する理由・目的」への回答は、ヤングアダルトに読書を推進する、郷土資料、市民サービスとして情報を提供する、外国人が日本語学習に使う等があった。

「収集を行う上での課題」への回答は、スペース、選書、予算のほか、寄贈の受入れの基準が難しくなる、損耗で入れ替えようにも絶版のものがある等があった。

「複本プールから受入れが可能か」へは、不可能・困難との回答が314件と多いものの、希望ありも165件あった。スペース、送料などの問題があるようだ。

「共同保管倉庫に寄贈いただける本の有無」も、雑誌・単行本ともに困難との回答が多く、理由は「フリーマーケット等で住民に還元すべき」「自治体の判断による」だった。

「ご希望・ご質問等」への回答では、日本文化の一環としてマンガの収集・保存の重要性へ理解を示していただいたほか、相互貸借や実際に取り扱うための研修を望む声があった。

図書館行政の厳しい現状が見られる回答文ではあったが、本プロジェクトが今後パートナーシップを締結していくに当たり期待の持てる結果であった。

【「共同保管倉庫（複本プール）」の構想と展望】（橋本博）

NPO 法人熊本マンガミュージアムプロジェクト（クママン）は、次世代に残すべきマンガ文化資料の選別・保管を進めてきたが、大量に発生する複本（ダブリ本）の処理が課題となり、全国から集まる複本を整理・提供する事業を立ち上げることになった。

クママンが所蔵する12万冊の資料に加えて、京都国際マンガミュージアム、北九州市漫画ミュージアム、明治大学米沢嘉博記念図書館及び現代マンガ図書館から送られる本を番号順に組み合わせ、寄贈先・提供先の様々な事情を考慮した「パッケージ」を作成する。かなりの時間とコストが掛かるが、同時に知見やスキルが積み重なった人材が育成されており、今後広がる関連施設に相談役・スタッフとして派遣することも可能だ。

複本プールを担う森野倉庫はアーカイブ施設として機能していないため、西合志議会棟跡を改装して、精査された資料を保管・展示できるアーカイブの拠点としたい。熊本が拠点を持つことで、全国のネットワーク構想にもつながっていくと考えている。

複本のアウトプットがインプットに追い付いておらず、20万冊のキャパシティを持つ森野倉庫が破綻する危惧があるため、熊本市内の廃校にスポーツマンガに特化した施設を作る予定。その他、様々な街の施設のスペースにもプールとしてマンガを配置している。

有名コレクターから貴重なコレクションをまとめてオファーされることもあるため、受入れ窓口業務のほか、マンガに特化した学芸員やアーキビストを育成できるカリキュラムの作成を、熊本大学などと連携して行いたいと考えている。

今後は、アーカイブする複本の選定基準も大きな課題となる。また、現在は文化庁事業の一環と

第3章 実施内容

して支えていただいているが、次の5年間は自走化を目指したステップへ進みたい。

【国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業について】（柴尾晋）

本事業は、これまでの「国内外の機関連携によるマンガ雑誌・単行本資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」で得られた知見と経験を継続し、産学官民・自治体等の連携によるマンガ史資料の収集・保存・活用を実践、その成果を検証して作業手法の深化・開発を図る。また、連携型アーカイブ構築のためのアーキビストを育成、マンガ文化保存の意義を広く一般に啓蒙普及させていくことを目指している。最終目標は、マンガ雑誌・単行本アーカイブの将来構想検討、連携機関のネットワーク構築と持続可能な拠点の形成、マンガ史資料の専門的人材の育成である。

本年度は、明治大学、京都精華大学、北九州市漫画ミュージアムの3機関が連携をして、送付するマンガ資料の選択と収集を行い、送付準備ができたマンガ資料を熊本の森野共同倉庫へ移送。熊本マンガミュージアムプロジェクトでは、選別及びセット化とパッケージ化をして国内外連携機関へ移送するとともに、OJTによる人材育成を行っている。

国内連携としては、中間発表会や省察会議等を通して各連携機関と知識の共有と連携を図り、昨年度マンガ資料を移送した湯前まんが図書館と八代マンガミュージアムを視察。

国外連携としては、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、中国にマンガを送付した。コロンビアのエアフィット大学ではマンガに関連したシンポジウムが開催されたほか、送付したマンガは学生にも利用されている。本年度はトータルで約1,500冊を海外に送付予定。

複本が中心であるため資料の傷みがあること、海外へ送付する際の内容の精査、森野倉庫のスペースなどの問題があり、今後は熊本以外にも拠点が必要となるだろう。アーキビスト育成は、大学におけるカリキュラムや認定制度構築のほか、雇用先の確保が重要だ。

データ作成業務の請負や人材育成講師など、運営資金の安定的な確保とビジネスモデルの構築も検討しなくてはならない。

【マンガ史資料のパッケージについて】（松岡星）

まず連携機関から森野倉庫へ送付された40～50冊の本が入っているコンテナを運搬、開封して、本棚に並べた後、『シティーハンター』や『ドカベン』などタイトルごとの小集団でセットを作成。全巻そろっているものを完全セット、そうでないものを準セットと呼ぶことにしている。

セットが完成後、送付用のパッケージにまとめるために、手書きで書誌データを取ってリストを作成し、セットを元の箱やコンテナに詰め戻していく作業になる。セットの書誌データは、レーベル、出版社、判型が分かるように細かく取っている。

パッケージは、送付先のニーズに応じてセットを組み合わせたものだ。実際にパッケージを作成する前には、ヒアリング、インターネットでの検索、現地に詳しい人からのアドバイスを参考にしている。また、海外の送付先にとっては初めての日本のマンガであるため、特に大御所と言われる

第3章 実施内容

ような作家のマンガを集めたパッケージなども作成。セットをパッケージ化していく際、箱詰めしたタイトルのリストを送付用に Excel で作成している。

「アニメ化されていないマンガは手に取られない」「マンガ愛好家はインドア派が多いためスポーツマンガに関心が低い」のほか、クママンで収蔵している本の特性上、大半が 2000 年代以前の作品であるため、「最近の人気作品が欲しい」との意見があった。全ての要望に応えることは難しいが、受け手に価値を理解してもらえる作品を選ぶ必要があるだろう。

パッケージ化作業に携わる上で、選書に必要なマンガの知識、図書資料の扱いに関する知識を、早い段階から体系的に学ぶ機会があれば望ましいと感じた。

■第3部：ディスカッション

・これまでの 5 年間を振り返ると、事業の枠組みや予算の規模で可能なことはかなり実現できていると感じている。刊本や原画の利活用に力を発揮できる人材育成が次の目標になるが、スポット派遣などの実証実験を通して、人材のポスト創出を試みるのが重要だろう。次の 5 年間で避けて通れないデジタル原画は複数枚のレイヤーで描かれており、古典的なアナログ原画とまったく違う整理方法を要することを見据えておかねばならない。日本に影響を与えた海外作品、逆に日本から影響を受けた海外作品も、日本のマンガを捉える上で重要だ。現在は戦後のマンガを主に扱っているが、戦前のマンガも対象とするなら、どのような範囲をアーカイブ対象とするのか議論する必要がある。(森川)

・1980 年代は原稿のスクリーントーンや写植が剥 [は] がれるような扱いが横行していたが、本事業の丁寧な保管方法に感動した。マンガ原画の耐光性については、知識のない現場の者にとって貴重な研究だ。ネットで公開すれば大きな反響を呼ぶだろう。(赤松)

→報告集としてはあるが、まだ公表できる段階には至っていない。(吉村)

・収益性があれば、所有者から原稿を寄託されるインセンティブになり、施設の永続的な運営にも寄与するはずだ。(赤松)

→明治大学の事例では、展覧会などが開催されるときに無償で即貸し出す条件で寄託された作品がある。(森川)

・日本にある全ての生原稿の収蔵を目指すことはできないか。また、作品の知名度などに関わらず網羅的に集めていくのか。(赤松)

→横手のキャパシティ 70 万点に対して、全原画は概算で 5,000 万点だ。(吉村)

→基本的にはフラットに考えていくべきだが、取捨選択と価値評価をしなくてはならない葛藤がある。研究が進む中で経済的な価値も変化していく可能性もある。(伊藤)

→全て残すべきだが物量的に限界がある。郷土資料館を前身とする合志マンガミュージアムは、郷土ゆかりの作家の作品を文化的事業として残す方向もあり得る。(鈴木)

第3章 実施内容

- ・エロマンガなど公序良俗の議論がある作品も収蔵していくのか。(赤松)
- 公的な施設と私的な施設で役割分担をイメージしている。(伊藤)

- ・昨今マンガ原画などが海外のオークションで高値を付ける事例がある。先手を打ってアーカイブ施設の魅力を訴えていかなければ、浮世絵の二の舞になってしまう。(赤松)
- オークションの動向によって、議論の前提が変わる可能性はある。(森川)
- 想定より早く作品の価値が国内外で大きく揺らぎ始めている。作家、編集者、遺族等も視野に入れておき、積極的な意見交換をしたい。(吉村)

- ・メディア芸術ナショナルセンター構想は、各分野の拠点機能及び国立国会図書館の支部機能を持たせ、既存施設で網羅的なアーカイブを行い、民間が担う収益機能のある施設を併設するビジョンだと聞いている。(森川)
- メディア芸術の各事業によって進捗の違いはあるが、マンガ原画アーカイブのネットワーク構想は実装化を進めている。今後、ハブとしての拠点が東京などにできれば、広い意味でアーカイブをなし得ると考えている。(吉村)
- センターが原画保存などの相談窓口を担う際、横手で全て担うわけにはいかないが、絵や本の保存に多大なノウハウを持った館が仲間になる可能性が見えてきた。(伊藤)
- 熊本では、地域活性化のために廃校の利用、集客のためにサービスエリアへのマンガ配置を進めている。マンガを必要としている施設で連携したい。(鈴木)

- ・きちんと管理されていれば、昔の作品を掘り起こし、さらに収益化することもできる。保存のみに集中する人と、それを収益化していく両輪で推進していけないか。(赤松)
- ・収益性を追求する次の5年間では、時代を閉じ込めたタイムカプセルでもある雑誌について、展示や利活用に結び付けることを考えたい。(鈴木)
- ・原画自体がなくとも、画像データさえあればマネタイズを考える人もいる。画像データの使い方を検討するためにも、当初は並走していたデータベース事業ともう一度統合していく必要があるだろう。(伊藤)
- 利活用が強調される中では一体化が不可欠になってくるが、保存方法やアーカイブのあり方も改めて問われることになるだろう。(吉村)

- ・人材派遣のビジョンは、専門的な技能を持つ人材が、マンガ展示に関心のある館へ出向し、その技能に見合った給料が支払われ、公共性の高いミッションを成し遂げていくことだ。(森川)
- ・著作権者不明の孤児著作物はどのような位置付けとなるのか。(赤松)
- 拠点ができて収益化の可能性が開ける。ある特定のマンガの1コマがネットミームとして人気を博した場合、その1コマをTシャツにして売れる手軽な仕組みを作れば、死んだ作品が大きな収益を生む構造となる。賛否両論あるだろうが、オークションなどで無軌道に行われる価値

第3章 実施内容

付けを調整・保証できる機能をアーカイブ施設が持てば、ネットミームとは逆方向の収益化も可能だろう。(森川)

→アーカイブのスキルとは違った、プロデュースできる人材が必要だ。(吉村)

・人材派遣の実証実験は具体的な提言として参考にしたいが、その人材が仮にナショナルセンターから派遣される場合と、私立大学の施設から派遣される場合だと、受入れやすさが違って来る。どこにどういうポストを作るのかも今後の課題だ。(伊藤)

・大学が絡むのであれば、文化行政という枠でアーカイブに携わる人材を育成する必要があるだろう。(鈴木)

・Pixiv や Twitter に掲載されたマンガ等もアーカイブ対象となるのか。また、データベース化された際は、一般市民が自由に画像データを使える可能性はあるか。(会場)

→デジタルとアナログは単純に二分化できない問題もはらんでいるが、視野に入れている。次の事業では自由利用のモデル化も進める予定だ。(吉村)

・過去作品の当時の熱量を残し、伝え、よりプロデュースする流れを考えてほしい。(会場)

→各年代の文化資源としての価値創出が次の課題だろう。過去作品に目を向けてもらえる関係を作りたい。(鈴木)

→展覧会も、既に熱量を持った人ばかりをターゲットにしているのは先細りしてしまう。熱量に巻き込み、その作品を知らなくても来てもらえるようにしたい。(伊藤)

→自治体関わって何かをやる時には、市民のために説明するロジックが難しい。現場の声と理念を突き合わせる作業が始まってくると考えている。(吉村)

・5,000万点の原画を200人でスキャンするとすれば、37年の期間と約700億円掛かる計算になるため、どこかで収益を考える必要があるだろう。また、スキャナーの選択肢が減ってきていることも考えなければならない課題だ。(会場)

・マンガ家の描いたライトノベルの表紙や挿絵など、他のプロデュースで描かれた資料群の取扱いについて伺いたい。(会場)

→人気マンガ家あさぎり夕氏は、BL小説を書き、御自身で挿絵も描かれている。なるべく固まりで集めて、総合的な研究が必要だと実感している。(伊藤)

・二次創作の同人誌はアーカイブの視野に入っているのか。(会場)

→マンガ家になるルートとして、同人誌で有名になってスカウトされるケースが増えており、マンガ研究においても同人誌は重要なものとして認識されている。(森川)

・マンガ原画が美術品として捉えられてしまうことに危機感を覚えている。また、保存管理の方法

第3章 実施内容

を広く発信していけるものがあれば望ましい。(会場)

- ・相続の際、作品を破棄・売却されないように率先して取り組むべきだ。(赤松)
- ・この場で挙げた問題意識は政治的な側面も持っているため、MANGA 議連から働き掛けてもらうことが適切だろう。マンガ原画が美術品のように展示される機会もあり得るため、所有者から意見を聞く機会も設けたい。(森川)
- ・具体的な課題も多く挙げられた。タイトルを「マンガのアーカイブ」としたのは、「アートの」ではないという思いも込めている。マンガにおける価値を巡る問題と向き合うため、知見と経験、そして覚悟が問われることを共有したい。(吉村)

3.6. マンガ原画支持体・画材研究

原画展などの形で活用される機会が増えているマンガ原画だが、展示における照明環境が作品に与える影響についてはいまだ十分な検証がなされていない。しかしカラー原画を中心に、長期間の展示の結果として変色、褪色 [たいしょく] した事例も多数報告されており、今後更なる活用の形を模索していく中で取り組むべき一つの課題となっている。特に使用画材の判然としない作品に対しては、非破壊かつその場計測の可能な耐光性評価のシステムが必要である。そこで近年、文化財保存の分野で利用されている微小域での耐光性試験として Microfading Tester (MFT) を利用することにした。光源には昨今の展示環境を考慮して LED を採用し、平凸レンズ 2 枚を使い照射径を 0.4mm に集光した上で、照度 80 万 lux の条件において 15 分間の MFT を実施することにした。30 秒間隔で分光反射スペクトルを計測し、ここから変色量としての色差 ΔE (CIE76) を算出することで色材の耐光性を評価する。調査対象には、連携機関であるパピエより谷口ジローのカラー原画 2 点をお借りした。その結果、両原画ともに ISO Blue Wool Standard (BWS) の 2 級相当の耐光性であることが明らかとなり、国際照明委員会 (CIE) の示すガイドライン (CIE157:2004) に従えば、照度 50 lux で年間 300 時間以内の展示が推奨される結果であった。

これと並行し、カラー原画の制作で利用されることの多いアルコールマーカの耐光性についても同様の評価を実施した。その結果、色ごとに耐光性に大きな違いがあることが明らかとなり、BWS1 級以下のものが数多くあることも分かってきた。これら「超低耐光性色」が使用された原画については、上記 CIE のガイドラインに基づいた年間積算照度が設定できないため、展示に際しては複製を利用するなどの対策が今後必要になってくると思われる。

3.7. 「あしたのジョー」ラストシーン原画の保存状態調査

「あしたのジョー」のラストシーン（図1）について保存状態の調査を実施した。様々な光学調査を行ったところ保存上の問題点が幾つか明らかとなった。図2は作品表面の凹凸を可視化する仰角（ θ ）画像である。これはRTI（Reflectance Transformation Imaging）技術を利用し、半球状の作品全方位から距離が等しくなるように光を照射し、それぞれについて撮影した158枚の画像を基に、各ピクセルが3次元空間上のどこを向いているのか（法線）を求めたものである。このとき各ピクセルの法線が水平面（ 0° ）との間に作る角度を仰角 θ として算出し画像化している。平面作品であることを考えると、多くの点はカメラ方向を向いた 90° に近い仰角を持っていることが予測されるが、作品表面に凹凸や変形などが存在するとその部分に小さい角度の仰角が伴うこととなり、これが明暗となって表面形状が可視化される。図2では明るい輝度値ほど 90° に近く、暗くなるほどに仰角が小さくなっていることを示している。通常の照明（図1）では分かりにくいのが、作品中央には大きな山折りが存在していることや、それ以外にも無数の皺〔しわ〕や折れが存在している様子が確認できる。中央部は固定されておらず温湿度変化に対して比較的自由に動くことができるが、周囲はテープにより拘束されているため、このときに発生する内部応力の違いや、重ねられるなど外部からの圧力が直接中央部へ伝わることで、このような小さな皺や変形を作る一つの要因になっているものと考えられる。また原稿用紙が非常に薄く、実際にテープで貼り込んだ際にも周囲に皺などが発生している。

さらに、昨年度実施したFT-IRによる原稿用紙の非破壊強度予測を適用したところ、横手市増田まんが美術館に収蔵される同年代の原画に比べ物性値（特にセルロース重合度や引張強度、耐折回数など）が低いことが予想される結果となり、重合度の低下に伴い単繊維強度が低下している可能性が考えられる。

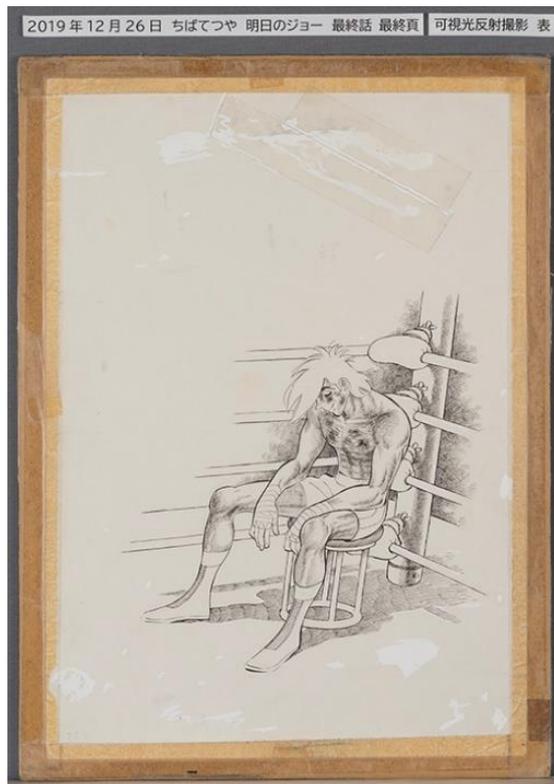


図1 可視反射画像（前面）



図2 RTIによる仰角（ θ ）画像

付録

1. 「マンガ原画アーカイブマニュアル」

マンガ原画アーカイブマニュアル (2019 年度)

作成：マンガ原画アーカイブマニュアル部会
ヤマダトモコ、小野慎之介、日高利泰

目次

1. なぜマンガ原画のアーカイブが必要か…p.2
2. マンガ原画の劣化…p.5
 - ① 劣化の要因とその対策…p.5
 - ② MFT (Microfading Tester) を用いた耐光性評価法…p.9
3. マンガ原画の整理…p.20
 - ① 作業フロー (共通) …p.20
 - ② 簡易な整理・保存 (個人向け) …p.21
 - ③ 通常の整理・保存 (施設向け) …p.22
 - (1) 仕分…p.22
 - (2) 照合…p.23
 - (3) 撮影…p.24
 - (4) 入力…p.26
 - (5) 格納…p.30
 - ・ OPP 袋方式 (モノクロ原画) …p.30
 - ・ OPP 袋方式 (カラー原画、カット類) …p.32
 - ・ 間紙方式…p.41
4. マンガ原画の受入…p.42
5. マンガ原画の活用…p.44
 - ① 借用書 (サンプル) …p.46
 - ② 仮受領書 (サンプル) …p.48
 - ③ 返却関係書類 (サンプル) …p.49
 - ④ 契約関係書類 (サンプル) …p.51

1. なぜマンガ原画のアーカイブが必要か

マンガ原画は、長らく印刷物に対する中間生成物と考えられており、固有の価値を認められてこなかったとされる。しかし、アシスタント等の手が加わっているにしても基本的には作家自身の手になる作品であることは間違いなく、直感的にはそこに価値が見出されるはずである。事実、原画展という形で美術館や百貨店の催事場に展示されたり、オークション等原画そのものを売買する機会も近年増加しており、総じてマンガ原画それ自体の経済的価値は高まっているといえるだろう。

その一方、経済的価値が高まった結果として美術品のように投機的な売買の対象になると、マンガ原画は課税対象となることが避けられない。価値がなければ保存の必要もないが、価値が出すぎてもそれはそれで困った事態を引き起こす。また個別の作品の価値づけをめぐっては、権威化による選別という従来の美術が前提とするようなシステムが、マンガという対象にとって適切なのかという別種の問題も生ずる。

今後どのように位置づけられるのかは未知数だが、少なくとも書籍の再版や原画展等での利用が見込まれる以上、当面はマンガ原画を保存しておく必要がある。商業的な利用が前提でなくとも、マンガ文化全体のためにはマンガ原画（また原画以外の資料群も含めて）が文化資源として収集・保管の対象となることが望ましい。にもかかわらず、マンガ原画のアーカイブは（先行する文化財保護と比較すれば）まだ始まったばかりで十分な知見が確立されているとはいえない。そこで、過去4ヶ年の文化庁メディア芸術連携促進事業の中で得られた知見を暫定的なマニュアルとして共有し、マンガ原画のよりよい保存に資することを目指したい。

過去のある時点までは、多くの出版関係者にとって原稿＝マンガ原画は単なる版下であり、作家へ返却しなければならぬものとは認識されていなかった。雑誌連載からの単行本化というビジネスモデルが一般化して以降はそう簡単に廃棄処分されることもなくなったが、出版社が預かって保管するにしても作家自身が返却されたものを保管するにしても、多くの場合それほど丁寧に扱われていたわけではない。制作過程の便宜上、原稿は通常エピソード単位（1回分の掲載ページ）で封筒に入れられ移動している。作家の元に返却される時もその封筒がそのまま送られてくるので、作家の側で特別な整理作業を行わなければそれらの封筒が束になった状態か段ボール箱にまとめられた状態で山と積まれているのが一般的である。とにかく物量が多いので自宅で保管するならば屋根裏や押入れ等に置いておくしかないのだが、これは保管環境としては決して良好ではない。

こうした現状は二つの面から好ましくない。一つは単純に物性的な問題である。押入れ等の多湿環境は紙そのものによくないだけでなく、カビや害虫の発生リスクも高める。紙そのものも実はわれわれが思っているほど耐久性の高いものではない。適正な保存環境を整え

付録

ていなければ、モノとしての劣化が進み、後に残るのは膨大な可燃ゴミということになりかねないのである。もう一つは活用の利便性の問題である。未整理の原画がいくらあっても目的のものがすぐに取り出せないような状態では活用はおぼつかない。何らかの活用を前提として整理作業を行うこともあり得ないわけではないだろうが、そのためにわざわざ人手と時間を割くことができるという状況はあまり現実的ではない。整理まではしないにしても、単に目的のものを探索するというだけでも精神的・肉体的負担が生じることは避けがたく、結果として利用の機会を逸してしまうことになる。

紙の束である以上マンガ原画の物量についてある程度は想像できると思われるが、もう少し実感を持ってもらうためにいくつかの試算を提示したい。例えば月刊誌の連載を15年休まず続けたとすると、 $32\text{p} \times 12\text{ヶ月} \times 15\text{年} = 5760\text{枚}$ となり少なくとも約6000枚の原稿が存在する計算になる。サイズはまちまちなので一概にはいえないが仮にB4サイズ(257 x 364 mm)のやや厚手の紙だったとして、厚み0.15mmなら6000枚を積み上げて高さ90cm、100サイズの段ボール箱3個分相当となる。また1枚10gとすると6000枚あれば60kgになる。ただし、これは単純に原稿用紙しか考慮していない数値なので実際にはもう少しかさばるし、重量も増すはずだ。また6000枚というのも比較的少なく見積もった数字に過ぎない。週刊連載を長年続けているような作家であれば、もう一桁多い枚数の原画が存在するだろう。

さらに日本のマンガ文化全体を考えるなら、アナログ原稿の総量としては5000万点以上という推計がある¹。先の計算を引き継げば、少なくとも段ボール箱2.5万個、総重量500t以上の物量となる。これら全ての原画を整理しようとするならば、仮に1点あたり500円として、ざっと250億円のコストが予想される。これは単純に整理作業を行うだけの経費であり、整理したものを保管するための費用は含まれていない。こうした試算からも、マンガ原画のアーカイブがいかに膨大な作業かをうかがい知ることができるだろう。

当たり前のことだが、原画を整理したり保存したりするには手間と経費がかかる。マンガ原画の収集や保存に積極的な文化施設も増えてきてはいるものの、それでも5000万点をカバーできるような状況には程遠く、文化行政への予算配分が削減されるばかりの昨今の

¹ 加藤泰三・池川佳宏・秋田孝宏の調査によれば、日本国内で刊行されてきたマンガ雑誌(明治期の風刺漫画を含む)の総数は5500種類(雑誌の誌名を集計)14.5万冊(各誌が刊行した全号数を累計)だという(日本マンガ学会2016年度大会 研究報告『『メディア芸術データベース(開発版)』の制作経緯と活用についての報告』より)。各雑誌のページ数は時代やジャンルに応じてばらつきがあるものの、平均した数値を400ページと試みに設定するならば、 $14.5\text{万冊} \times 400\text{ページ} = 5800\text{万}$ となる。マンガ雑誌といってもマンガ以外のページもあるのでこのすべてに対応する原画が存在するわけではないだろうが、それでもマンガ原画の総量としてはおおよそ5000万枚以上と推定されている。

付録

風潮からすれば今後も見通しは明るくない。ただでさえ少ない予算と人員の中では、既存の文化施設がマンガ原画を受け入れてくれる場合にも、受け入れ側の論理としては既に価値を認められているものや既にある程度整理されてリスト化されているものを優先せざるを得ない。たとえ簡易なものであったとしても整理されているものの方が、公的施設での受け入れのハードルが下がるし、活用のハードルも下がる。いいかえれば現時点での有名／無名、売れてる／売れてないといった作品の評価とはあまり関係なく、きちんと整理され保存の対策を施されたものが 50 年後 100 年後にまで残る可能性が高いと考えるべきである。適切な保存を行わなければ長期的に物理的な形態を維持することができないともいわれており、放っておけばどんどん劣化が進む。活用の機会がないということは人目に触れる機会が減るということでもあり、どんなに素晴らしい作品であっても忘れ去られてしまう。そうなるとう用の機会自体が減少するという負の循環に陥って、作品は歴史の闇に埋もれたまま物理的にも修復不可能なレベルにまで劣化して文字通り消滅してしまう。個人レベルでもできることから少しでも整理を進めることがマンガ原画を長期的に残していくために必要な第一歩であることを多くの人に共有してもらいたい。

2. マンガ原画の劣化

① 劣化の要因とその対策

ここまでマンガ原画とはそもそも何を指し示すのかを曖昧なままにして、漠然と共有されているイメージがあることを前提として話を進めてきた。保存の対象となるマンガ原画の指示範囲をここで明確に定めることは存外難しい。

マンガ原画の構成要素としてまず思い浮かべられるのが、紙とインクであろう。しかし、多くの原画は紙とインクだけでできているわけではない。黒ベタに用いられる墨汁、ホワイトと呼ばれる修正液、彩色のため用いられた各種絵具、スクリーントーンやフキダシ内に貼り付けられた写植、トレーシングペーパー、このほか装飾的に使用される様々な添加物。仮に原画という言葉を狭く解釈するならば作家自身の手によって描かれたものという意味になる。この場合、作家の指示に従って編集者によって貼り付けられたセリフ等の写植は、第三者によって付け加えられたものであり、原画には含まれないことになる。ところが、写植の剥ぎ取られた状態の原画はわれわれが目にしてきた作品の姿とは異なるものであり、本来そこにあるべきものを欠いている状態という印象を与えるだろう。だとすると、写植はあくまで原画の一部として捉えて維持した方がよさそうだ。しかし、不純物とみなして積極的に排除することはしないにしても、自然に剥落したり紛失したりしたものを後から貼り直したり新たに貼り付けたりしてよいのかと考えると、これもそう簡単には答えが出ない。編集者が貼り付けたものは、第三者によるものといっても制作過程の一環として行われた加工である。これに対して全く事後的に第三者が原画に加工を施すことは作品に対する過剰な介入にも思える。一方、写植をあくまで交換可能な付属物とみなすのであれば、それほど大きな問題でもないということになる。ちなみに展示等で原画を使用する際には、原画への影響を考慮しつつ写植の貼り直しを行うというのが一般的だが、この是非については改めて考える必要がある。

このように原画とはなにかというそもそも論もあるにはあるのだが、さしあたって紙の問題を主に考えるならば、一般的に劣化の要因として以下のようなものが挙げられる。

付録

温度	・激しい温度変化によるダメージ
湿度	・シワ、ヨレの原因、カビ発生の原因 ・乾燥・湿潤の繰り返しによるダメージ
光	・退色の原因（紫外線（UV）は排除の必要） ・強い光や長時間の露光によるダメージ
カビ	・発生個所へのダメージ ・カビ痕は簡単には除去できない
虫	・シミ、チャタテムシ、ゴキブリ等による食害
化学物質	・セロハンテープ等の粘着物質、環境中の有害ガス ・紙の酸性化問題

また過年度報告書にも掲載された内容から保存科学の専門家からのコメントをいくつかの事例について紹介すると以下のようなものがある。

トレーシングペーパーについて

トレーシングペーパーには、紙を半透明にするための加工方法で幾つかの種類が存在する。そのうち、硫酸紙と呼ばれるものは硫酸によりセルロースを部分的に膨潤・溶解しているため、紙のpHが酸性に偏る傾向がある。酸性紙と接していると、酸が原画用紙に移行する可能性もあるため、その場合は取り外して別置保管することが良いと考えられる。

ペーパーセメントについて

ペーパーセメントの成分について詳細が分からないが、武蔵野美術大学が画材についてまとめた「MAU 造形ファイル」によれば、成分は天然ゴムと有機溶剤ということである。劣化試験等のデータはないものの、経年による天然ゴムの褐色化と脆弱化が予想される。そこで写植の再貼付に際しては原稿用紙や写植紙を水分で膨潤させることがない溶剤型修復用接着剤の使用を推奨する。修復用接着剤は成分が明らかな上に劣化試験のデータなども豊富に存在し、経年後の変化についてある程度の予想を立てる

ことができる。また写真用包材としての適合性を判定する PAT 試験 (Photographic Activity Test) を通過した粘着テープなども市販されており使用を検討できる。

間紙 (あいし) について

1 話単位で管理されることの多い原画に中性紙の間紙を挟み、劣化原因となる物質 (酸性物質や粘着物質など) の遷移や相互作用を低減するよう努めることは予防保存の観点からも重要といえる。但し「中性紙」とは曖昧な表現で、酸性紙を中和したものや、僅かにアルカリを含むアルカリリザーブ紙、ノンバッファ紙なども全てこの範疇にくられる。資料に直接触れる間紙にはアルカリリザーブを含まないノンバッファ紙を使い、その上でこの 1 話分をアルカリリザーブを含んだ中性紙で包み、外部由来の酸や紙自体が放出する酸性物質の吸着と中和を図るよう設計されることが望ましい。

マンガ原画の保存に関しては専門的な議論が始まったばかりでまだまだよくわかっていないことも多く残されているが、マンガに限らず紙資料一般については、酸性紙問題が特に深刻であることは既に明らかなことである。簡単にいうと、近代的な製紙過程において用いられていた酸性の化学物質 (硫酸アルミニウム、通称・硫酸バンド) が紙の劣化を促進してボロボロにしてしまうため、酸性の紙は放っておくと 100 年ももたないということ。日本で酸性紙問題が注目されるようになったのは 1980 年代のことで、これ以前の洋紙は基本的に酸性と考えてよく、重大なリスクを抱えているのである。とはいうものの、現時点ではマンガ原画全般に対して酸性化を防ぐための脱酸性化処理や酸化を防ぐための酸素の遮断といった処置を施すことはあまり現実的ではない。上記の引用部分で述べられているように、間紙を挟んでおくとかアルカリリザーブ紙による中和、中性紙の封筒や保存箱の利用等が現実的な対処と考えられている。ただし、既に劣化が進行しているものについては、RP システム (脱酸素剤とガスバリア袋を利用した保護システム) を用いた無酸素保存環境も提案されている。

その他の劣化要因についてもすべてを完全に排除できるわけではないのだが、よりよい保存環境を整えることでなるべくモノの寿命を延ばすように努力が積み重ねられている。資料保存を前提とした施設では 24 時間の温湿度管理 (20℃、55%を目安として) が行われている。空調設備がない場合これと同じことはできないが、除湿や小まめな換気を行い可能な範囲でカビ対策や害虫対策を行ってほしい。また収蔵環境全ての温湿度管理が難しい場合でも、中性紙材で作られた「保存箱」と呼ばれるストレージボックスに収めることができれば、温湿度変化に対する緩衝作用を期待できる。図 1 は「クライモグラフ」と呼ばれる、

付録

ある場所の一日の温度と相対湿度変化の関係を示したグラフである。この日の外気の温度変化幅は 12.1℃あり、相対湿度変化幅は 62%であった。室内の温度変化幅は 10.2℃で相対湿度変化幅が 22.9%であったのに対し、保存箱の中では温度変化幅が 6.9℃、相対湿度変化幅が 7.6%にまで抑えられていた。温湿度の急激な変化は原画を構成する様々な素材の劣化を進行させるし、衝撃や圧力など物理的や、酸性物質などの化学的要因など、その他の「外在的劣化要因」に対しても保存箱を利用した保存管理は有効である（図2）。

光については保管時よりも展示等で外に出ているときの問題である。特にカラー作品に顕著なことだが、光に曝されることによって退色が進むという事実は経験的にもよく知られている。例えば北九州市漫画ミュージアムでは展示の照明として UV カットフィルムをつけた LED 照明（カラー原画なら 50 lx、それ以外なら 100~150 lx）を用いている。しかし、どの程度の明るさ（光の強さ：照度）でどの程度の時間展示した場合にどのくらいの退色が見られるといった具体的なデータの蓄積があるわけではない。そこで 2019 年度からは原画の耐光性（どのくらいの光ダメージに耐えられるのか）についての研究が開始された。この点についても今後の研究結果を踏まえてガイドラインの策定がなされねばならない。

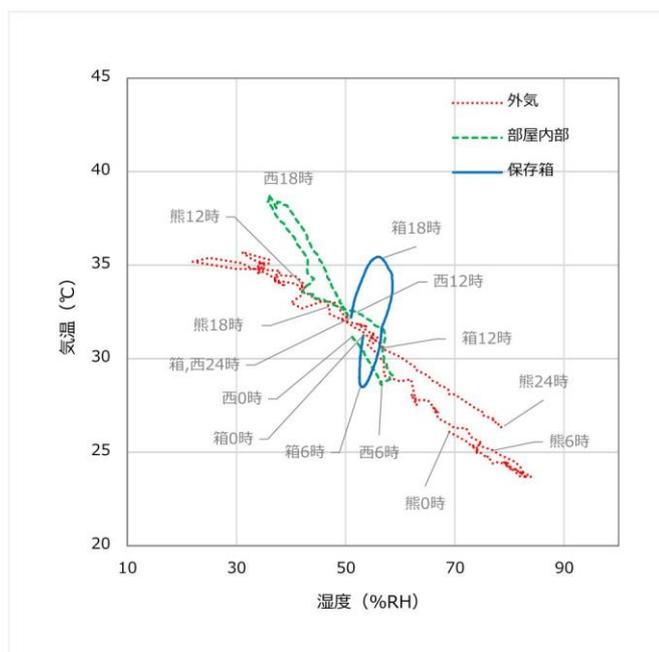


図1：保存箱・部屋内部・外気のクライモグラフ

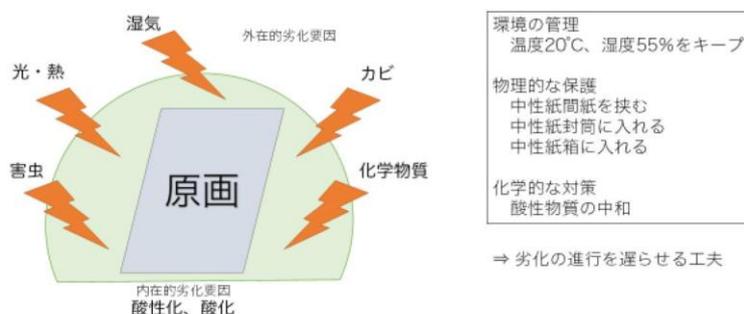


図2：原画の劣化に及ぼす内在的・外在的要因

② MFT (Microfading Tester) を用いた耐光性評価法

作品を鑑賞するには照明（光）が必要であるが、光は作品に対しての外在的劣化要因でもあり、展示に際しては鑑賞に支障がない範囲での制限が求められる。例えば国際照明委員会（CIE）では作品を構成する素材の耐光性に応じた展示条件として、制限照度（lx）と年間限界露光量（lx・hr/yr）が定められている（表1）。

表1：博物館展示物の光放射による損傷の抑制（CIE157:2004）

光に対する応答度	高応答度			中応答度			低応答度			応答度なし
ISO-BWSの級数	1	2	3	4	5	6	7	8	8以上	
知覚できる色差までの 積算照度(Mlx・hr) ※UVを含む	0.22	0.6	1.5	3.5	8	20	50	120		
知覚できる色差までの 積算照度(Mlx・hr) ※UVを含まない	0.3	1	3	10	30	100	300	1100		
制限照度(lx)	50			50			200			無制限
年間限界露光量 (lx・hr / yr)	15,000			150,000			600,000			無制限

※「知覚できる色差」とは、CIE L*a*b*表色空間における $\Delta E=1.6$ とする。

付録

もしある作品の耐光性が知りたければ、ある光に照らされた作品表面が、同様に照らされた ISO Blue Wool Standards (ISO-BWS)などの標準染色布と比較し、どの等級と同じレベルにまで変色が進行したかを計測する必要がある。しかし通常の耐光性試験を作品全体に対して行うことができないため、できるだけ目立たない微小エリアにおいて、短時間にこれを実行しようとしたのが「MFT」である。レンズを使って集光された光が作品表面で 1mm 以下の照射径を作ると、照度は数十万～数百万 lx (ルクス) にも達する。このエリアをピンポイントで数分から数十分間計測し、一定間隔で分光反射スペクトルを得ることができれば、照射開始時からの $L^*a^*b^*$ 値の変化量を色差 ΔE (デルタ・イー) として求め、これを ISO-BWS の結果と比較することが可能になる。今回は図3のようなセットアップを組み、入射光には昨今の展示環境を考慮し、図4にある分光放射束を持つ LED 光源を採用した。集光照射された光の直径は 0.4mm となり、全光束 0.1 lm (ルーメン) の光により照らされた計測エリアの照度は約 80 万 lx となる。この照射条件の下、色サンプルに対しては計測時間を 30 分間、実作品については ΔE を確認しながら 15 分間の MFT を実施した。

※1 lx=1 lm/m²

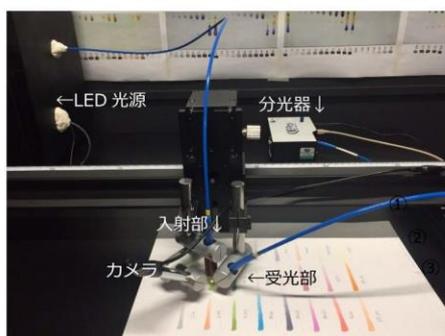


図3：MFTのセットアップ

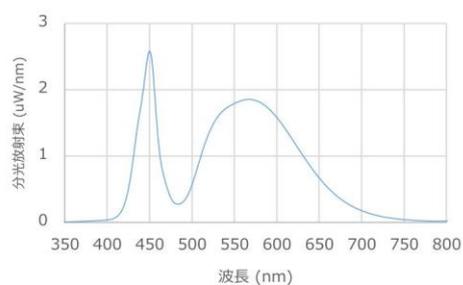


図4：光源に利用したLEDの分光放射束

付録

計測例として谷口ジロー作のカラー原画 2 点について、印刷範囲外にはみ出た色を対象に MFT を実施した。その結果、両作品とも ISO-BWS の 2 級相当の耐光性を有していることが明らかとなった。この結果は、CIE157 では「高応答度」資料に分類され、制限照度は 50lx、年間の限界露光量（積算照度）は 15,000lx・hr/yr が推奨される（表 1）。これは仮に 1 日 10 時間の展示を行った場合の 30 日間分に相当し（50 ルクス×10 時間×30 日）、もし同様の展示を 67 回開催すると、人が知覚できる $\Delta E=1.6$ 程度の変色が引き起こされる積算照度 1Mlx・hr（※M=100 万）に到達することを示している。

また予てより要望の多かった原画描画材のアルコールマーカーについても、色サンプルを作成し MFT による耐光性試験計を実施した。幾つかの製品が市場には流通しているが、その中でも特に普及率の高い株式会社トーマーカークプロダクツの商品「コピック」を調査対象とした。コピックには全 358 色が展開されているが、これらは様々な「色素」を組み合わせ製造されている。そこで薄層クロマトグラフィー(TLC)による分画実験を行い、各色の色素構成を可視光線反射画像と 365nm に極大波長を持つ UV ライトによる紫外線蛍光画像より確認をした。図 5 はその中で色記号[RV]に帰属した結果の一部である。各色は「色記号+色系統番号+明度番号」により管理されているが、例えば[RV11]と[RV13]は同じ色記号[RV]と色系統番号[1]を持ち、明度の異なる色と解釈できる。しかし TLC の結果からも明らかのように、実際には使用されている色素構成も異なっている。このように、褪色挙動に違いが想定される色素構成の異なる色サンプルを抽出し、それぞれについて MFT による耐光性試験を実施した。サンプル作成のために使用した原稿用紙はデリータの「漫画原稿用紙 A4 135kg A タイプ」で、図 3 にある様に各色を段階的に塗り重ねながらグラデーションを作り、場所により濃淡の異なる試料を作成した。

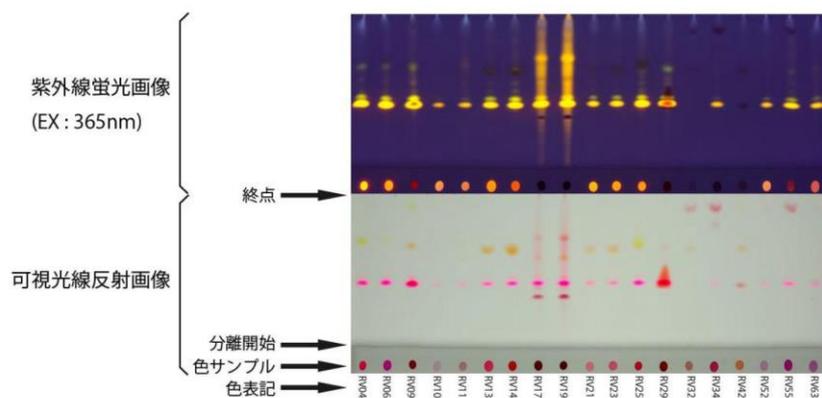


図 5 : TLC による「コピック」の分画実験

本システムを使って評価できる ΔE 値の最小値を確認するため、標準白色版を利用した計測実験を行った。LED 光源は温度変化により出力が変動するが、30 分間の計測時間において、計測時間毎の光源の安定性 (ΔE 変化) と 5 回計測時の ΔE の標準偏差 (σ) から、次式を用いて検出限界を求めた。

$$\Delta E \text{ の検出限界} = 5 \text{ 回計測時の光源の} \Delta E \text{ 平均値} + (5 \text{ 回計測時の} \Delta E \text{ 標準偏差} \times 3.29)$$

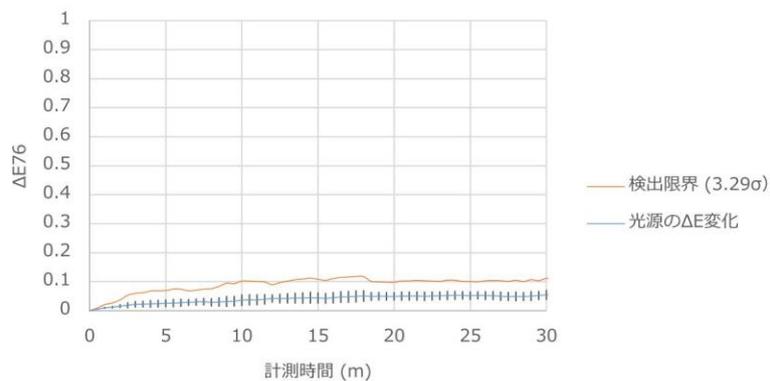


図 6 : 光源の安定性と ΔE の検出限界

付録

表 2 に参考値としてコピックに対する計測結果を示す。図 6 の結果より、本システムによる 15 分間と 30 分間での MFT による ΔE の検出限界は 0.1 である。計測は各色サンプルの中で最も色の濃い場所で行った。濃度と ΔE の関係は構成する色素の組み合わせにより変化するが、基本的には色素密度が高くなるほど変色量としての ΔE を計測しやすくなる傾向にある（表 2 の V04 の計測結果を参照）。 $[L^*]$ 、 $[a^*]$ 、 $[b^*]$ の値は試験前の CIEL*a*b* 色空間上のある点の位置で、ここから 15 分および 30 分後に色空間上のどの方向にどの程度点が動いたか（変色したか）を $[\Delta L]$ 、 $[\Delta a]$ 、 $[\Delta b]$ が示している。 $[\Delta E]$ はこのときの 2 点間の移動距離（変色量）に相当する。ISO-BWS の 1 級から 3 級については各 5 回計測しているので、計測値のバラつきを標準偏差 $[\sigma]$ に示す。 $[TJ]$ のイニシャルがついたサンプルは谷口ジロー氏の原画に対する結果であるが、画材には主に透明水彩絵具が使用されている。また $[\Delta E]$ 列は値の大きさにより塗り分けられており、色が濃くなるほど数値が大きくなっている。

ISO-BWS の 1 級を超えるような「超高応答度」の色材については、CIE157 にある展示条件をそのまま適用できない。変退色の大きさは露光量（照度×照明時間）で決まるので、鑑賞に支障がない照度として 50 lx 以下を設定することが難しいとすれば年間限界露光量（展示期間）を制限することが必要となる。ただ現状では MFT での露光量をそのまま実際の展示環境へ換算することはできないため、より実際の照明環境に近い形での調査を並行して行い、MFT による計測値を年間限界露光量へ換算するための関数を明らかにしていく必要がある。

表 2：MFT によるコピックの耐光性試験 ※参考値

サンプル名	L*	a*	b*	ΔL	Δa	Δb	ΔE	σ	ΔL	Δa	Δb	ΔE	σ
				(15m)	(15m)	(15m)	(15m)	(15m)	(30m)	(30m)	(30m)	(30m)	(30m)
BWS 1 級	57.6	-6.9	-34.4	0.8	-1.3	2.5	2.8	0.2	1.4	-1.9	4.2	4.6	0.3
BWS 2 級	54.0	-6.3	-28.9	0.3	0.1	0.8	0.7	0.1	0.5	0.1	1.4	1.3	0.1
BWS 3 級	37.6	13.6	-47.6	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.4	0.1	0.3	0.3	0.1
TJ1-1	86.2	-7.2	3.8	0.6	0.1	-0.8	1.1	-	-	-	-	-	-
TJ1-2	74.1	-1.9	4.0	-0.8	0.2	-0.3	0.9	-	-	-	-	-	-
TJ1-3	83.3	-1.0	11.3	-0.1	0.1	-0.5	0.5	-	-	-	-	-	-
TJ1-4	40.9	-0.1	4.4	-0.1	0.0	-1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
TJ1-5	67.9	-10.0	5.9	0.2	0.1	-0.1	0.2	-	-	-	-	-	-
TJ2-1	87.5	-2.8	-12.8	0.2	0.2	-0.5	0.6	-	-	-	-	-	-
TJ2-2	89.6	-9.9	-7.7	-1.1	0.3	-0.1	1.2	-	-	-	-	-	-
TJ2-3	94.3	-6.6	-1.0	0.0	0.2	-0.4	0.5	-	-	-	-	-	-
TJ2-4	76.7	-5.3	7.6	0.3	0.0	-0.3	0.4	-	-	-	-	-	-
TJ2-5	76.9	-3.0	-37.0	-0.5	0.2	0.1	0.6	-	-	-	-	-	-
TJ2-6	101.5	-3.8	0.2	-0.3	0.1	-0.3	0.5	-	-	-	-	-	-

付録

BV0000	93.6	3.5	3.2	0.2	0.3	0.7	0.8	-	0.4	0.5	0.8	1.0	-
BV000	88.7	6.8	-6.4	0.8	0.9	1.9	2.2	-	1.3	1.3	2.6	3.2	-
BV00	84.5	9.6	-15.0	1.5	1.5	2.9	3.6	-	2.2	2.1	4.2	5.2	-
BV01	78.6	6.6	-17.3	0.5	0.1	0.8	1.0	-	0.8	0.2	1.3	1.5	-
BV02	74.9	8.9	-25.7	0.2	0.0	0.5	0.5	-	0.3	-0.2	0.9	0.9	-
BV04	54.5	9.6	-32.7	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.1	-
BV08	47.0	7.8	-17.5	0.1	0.1	0.0	0.1	-	0.1	0.1	0.1	0.2	-
BV11	75.3	10.4	-18.0	1.1	1.2	2.3	2.8	-	1.7	1.9	3.6	4.4	-
BV13	62.2	11.8	-36.0	0.0	0.0	0.0	0.1	-	0.1	0.0	0.2	0.2	-
BV17	56.0	6.0	-21.6	0.1	0.1	0.1	0.2	-	0.2	0.2	0.2	0.4	-
BV20	84.6	1.5	-9.5	-0.1	0.1	-0.1	0.2	-	-0.1	0.1	-0.2	0.2	-
BV23	65.7	-0.2	-11.3	0.1	0.1	0.0	0.1	-	0.2	0.1	0.0	0.2	-
BV25	52.7	1.7	-13.8	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.1	0.0	0.1	-
BV29	43.3	2.7	-7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.1	0.0	0.0	0.1	-
BV31	88.0	3.1	-8.7	0.1	0.1	0.4	0.5	-	0.2	0.2	0.6	0.7	-
BV34	70.4	3.5	-20.9	0.5	0.5	1.4	1.6	-	0.9	0.9	2.4	2.7	-
V0000	99.4	4.0	0.8	0.0	-0.6	-0.2	0.6	-	0.1	-0.9	-0.2	1.0	-
V000	96.8	9.8	-2.3	0.2	-1.2	-0.1	1.2	-	0.3	-1.8	-0.1	1.8	-
V01	84.3	21.0	-12.3	0.3	-1.1	-0.6	1.3	-	0.5	-2.0	-0.7	2.2	-
V04 薄	88.0	24.6	-17.5	1.2	0.5	2.4	2.8	-	1.9	0.2	3.7	4.1	-
V04 中	81.5	32.0	-23.4	1.5	0.9	3.1	3.6	-	2.3	0.8	4.6	5.2	-
V04 濃	68.9	45.3	-37.9	1.9	1.8	4.6	5.3	-	2.9	2.7	6.7	7.8	-
V05	65.1	41.0	-16.2	0.0	0.2	-0.5	0.5	-	0.0	0.4	-0.8	0.9	-
V06	59.2	35.7	-17.9	0.1	0.3	-0.2	0.3	-	0.2	0.5	-0.3	0.6	-
V09	38.3	17.3	-18.7	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.1	0.0	-0.1	0.2	-
V12	74.0	28.9	-18.8	0.2	-0.4	-0.5	0.6	-	0.3	-0.6	-0.8	1.0	-
V15	64.9	30.9	-23.0	0.1	0.1	-1.3	1.3	-	0.2	0.0	-2.1	2.1	-
V17	49.0	19.2	-26.2	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.1	0.0	0.0	0.1	-
V20	94.1	1.5	-3.1	0.3	-0.1	0.5	0.6	-	0.5	-0.2	0.7	0.9	-
V22	83.1	4.3	-9.3	0.7	0.0	1.5	1.6	-	1.1	-0.2	2.2	2.4	-
V25	64.1	8.2	-14.9	0.2	0.2	0.1	0.3	-	0.3	0.3	0.2	0.5	-
V28	55.2	6.2	-13.6	0.0	0.1	0.0	0.1	-	0.1	0.1	0.0	0.2	-
V91	87.6	8.9	-0.8	0.0	0.0	-0.4	0.4	-	0.1	-0.1	-0.6	0.6	-
V93	81.8	11.4	-5.2	0.1	0.0	-0.4	0.4	-	0.2	-0.1	-0.7	0.7	-
V95	74.0	14.7	-3.4	0.2	0.0	-0.9	0.9	-	0.4	-0.2	-1.4	1.5	-
V99	42.3	8.0	-2.0	0.1	0.1	-0.8	0.8	-	0.2	0.1	-1.3	1.3	-
RV0000	98.3	3.7	1.0	0.0	-0.5	-0.3	0.6	-	0.2	-0.8	-0.4	0.9	-
RV000	99.3	8.9	1.1	-0.2	-2.4	-0.2	2.4	-	-0.1	-3.5	-0.1	3.5	-
RV00	97.8	12.6	-0.4	0.1	-1.4	-0.4	1.4	-	0.2	-2.1	-0.4	2.1	-
RV02	92.9	34.0	-5.8	0.1	-5.2	-0.4	5.2	-	0.5	-7.7	0.1	7.7	-
RV04	69.6	68.8	1.8	-1.4	-2.9	-3.1	4.5	-	-1.4	-3.7	-4.2	5.8	-
RV06	65.5	78.6	-19.6	-0.9	-1.7	-1.7	2.5	-	-0.9	-2.4	-1.7	3.1	-
RV09	56.9	65.7	-3.0	-0.1	-0.4	-0.5	0.6	-	-0.1	-0.5	-0.9	1.1	-
RV10	94.5	21.2	-2.1	0.1	-2.0	-0.3	2.0	-	0.2	-2.9	-0.3	3.0	-
RV11	91.9	18.8	4.1	0.3	-1.7	-0.2	1.7	-	0.6	-2.7	-0.1	2.8	-
RV13	75.7	56.5	2.4	0.0	-1.2	-2.7	3.0	-	0.3	-1.9	-4.2	4.6	-

付録

RV14	66.7	64.0	8.7	0.3	-0.4	-3.9	4.0	-	0.8	-0.8	-6.6	6.7	-
RV17	53.7	53.2	-9.2	0.0	-0.1	-0.2	0.2	-	0.0	-0.1	-0.2	0.3	-
RV19	49.9	53.1	-2.3	-0.1	-0.2	-0.2	0.3	-	-0.1	-0.3	-0.3	0.4	-
RV21	87.8	41.0	1.7	0.2	-3.7	-2.0	4.2	-	0.7	-5.6	-2.6	6.2	-
RV23	83.6	48.0	5.3	0.9	-3.3	-3.9	5.2	-	2.1	-5.9	-5.2	8.2	-
RV25	64.5	62.4	9.0	-0.3	-0.6	-1.6	1.7	-	-0.3	-0.8	-2.4	2.6	-
RV29	56.9	58.7	15.2	-0.1	-0.7	0.0	0.7	-	0.1	-1.1	-0.3	1.1	-
RV32	82.3	29.1	4.3	0.1	-0.2	-1.0	1.0	-	0.2	-0.4	-1.5	1.6	-
RV34	70.9	45.2	-2.8	0.0	-0.1	-0.1	0.1	-	0.0	-0.2	-0.1	0.2	-
RV42	86.4	29.1	18.2	0.9	-2.3	-0.8	2.6	-	1.5	-3.8	-1.2	4.3	-
RV52	91.0	21.6	-9.1	0.4	-2.9	0.4	2.9	-	0.7	-4.5	0.9	4.6	-
RV55	73.1	47.2	-12.4	0.0	-0.4	-0.1	0.4	-	0.0	-0.7	-0.1	0.7	-
RV63	80.0	30.6	-14.2	0.3	-0.9	0.0	1.0	-	0.5	-1.4	0.1	1.5	-
RV66	57.3	44.6	-17.3	0.0	0.1	-0.4	0.4	-	0.1	0.2	-0.7	0.7	-
RV69	43.6	26.0	6.3	-0.1	-0.2	-0.4	0.4	-	-0.2	-0.2	-0.6	0.7	-
RV91	91.3	10.3	-0.4	0.0	0.1	-0.4	0.5	-	0.0	0.0	-0.7	0.7	-
RV93	81.7	18.1	-3.2	0.1	0.0	-0.4	0.4	-	0.2	-0.1	-0.6	0.7	-
RV95	68.9	22.0	-1.9	0.1	0.0	-0.6	0.6	-	0.1	-0.1	-1.0	1.0	-
RV99	38.1	8.6	1.5	0.0	0.1	-0.4	0.4	-	0.0	0.1	-0.6	0.6	-
R0000	101.3	3.0	2.1	0.1	-0.1	-0.3	0.4	-	0.2	-0.2	-0.5	0.5	-
R000	99.9	4.9	3.9	0.1	-0.1	-0.5	0.5	-	0.2	-0.3	-0.7	0.8	-
R00	96.8	10.5	6.2	0.3	-0.4	-0.8	0.9	-	0.4	-0.7	-1.2	1.5	-
R01	95.7	14.1	13.3	0.4	-0.8	-1.2	1.5	-	0.7	-1.4	-1.9	2.4	-
R02	86.7	30.0	21.6	0.7	-1.5	-1.7	2.4	-	1.1	-2.4	-2.8	3.9	-
R05	65.0	56.4	39.4	0.5	-1.1	0.3	1.2	-	0.6	-1.4	0.1	1.5	-
R08	60.1	55.3	39.6	0.4	-0.9	0.1	1.0	-	0.4	-1.3	-0.5	1.4	-
R12	90.3	21.3	19.7	1.1	-2.5	-2.8	3.9	-	1.9	-3.9	-4.4	6.1	-
R17	61.7	55.4	31.0	0.3	-0.9	0.2	0.9	-	0.5	-1.2	0.0	1.3	-
R22	77.6	44.7	21.1	0.5	-1.3	-1.0	1.7	-	0.8	-2.1	-1.8	2.9	-
R24	64.4	56.2	30.0	0.3	-1.1	0.4	1.2	-	0.4	-1.5	0.4	1.6	-
R29	51.1	57.8	23.2	-0.3	-0.7	-2.1	2.2	-	-0.3	-1.0	-3.5	3.7	-
R32	83.3	37.1	18.3	0.5	-1.7	0.2	1.7	-	0.9	-2.8	0.3	3.0	-
R37	54.0	53.9	17.8	-0.1	-0.2	-0.3	0.3	-	-0.2	-0.3	-0.4	0.5	-
R39	50.6	40.3	5.4	0.0	-0.2	-0.2	0.2	-	0.0	-0.3	-0.2	0.4	-
R46	55.5	54.9	17.6	-0.1	-0.4	-0.4	0.5	-	-0.1	-0.5	-0.7	0.9	-
R56	56.7	35.3	6.0	0.0	-0.1	-0.4	0.4	-	0.0	-0.1	-0.7	0.7	-
R59	41.9	37.7	10.2	-0.1	-0.1	-0.4	0.4	-	-0.1	-0.2	-0.6	0.6	-
R85	64.8	46.2	4.8	0.0	-0.1	-0.2	0.2	-	0.0	-0.2	-0.3	0.3	-
R89	44.4	26.1	8.8	-0.1	-0.1	-0.3	0.3	-	-0.1	-0.1	-0.4	0.5	-
YR00	95.3	15.0	25.2	0.3	-1.0	-1.0	1.4	-	0.6	-1.7	-1.6	2.4	-
YR02	82.9	37.4	41.9	0.5	-1.3	-2.2	2.7	-	0.9	-2.2	-3.8	4.5	-
YR04	80.5	35.9	63.9	0.3	-1.0	0.1	1.1	-	0.4	-1.6	-0.1	1.7	-
YR07	69.7	54.3	58.3	0.1	-0.9	-0.4	1.0	-	0.1	-1.2	-0.9	1.6	-
YR09	64.6	56.8	48.9	0.8	-1.8	0.2	1.9	-	1.0	-2.6	-0.4	2.9	-
YR14	79.8	31.9	57.3	0.4	-1.1	-0.5	1.3	-	0.6	-1.9	-0.8	2.1	-
YR16	77.5	41.4	67.1	0.1	-0.8	-0.4	0.9	-	0.3	-1.4	-0.9	1.6	-

付録

YR18	62.7	46.1	43.4	1.0	-1.3	0.4	1.7	-	1.5	-2.0	0.1	2.5	-
YR21	91.3	13.1	46.7	0.4	-1.2	-0.6	1.4	-	0.6	-2.0	-0.9	2.3	-
YR23	78.0	16.6	54.5	0.7	-1.4	0.2	1.6	-	1.1	-2.1	0.1	2.4	-
YR27	64.2	32.2	41.3	-0.1	-0.1	-0.2	0.2	-	-0.2	-0.2	-0.3	0.4	-
YR31	93.5	6.2	48.6	0.2	-0.9	-0.4	1.0	-	0.3	-1.6	-0.6	1.7	-
YR65	83.6	32.7	39.4	0.5	-1.4	-2.6	3.0	-	0.8	-2.4	-4.4	5.1	-
YR68	70.9	47.6	53.4	0.2	-0.7	-0.4	0.8	-	0.1	-1.1	-1.1	1.5	-
YR82	97.3	13.4	29.6	-0.4	-4.8	-2.0	5.2	-	-0.3	-7.2	-2.6	7.6	-
Y000	97.7	-9.6	24.2	-0.9	4.5	-7.3	8.6	-	-1.0	5.2	-9.2	10.6	-
Y00	98.3	-12.4	32.4	-1.1	5.1	-9.7	11.0	-	-1.1	6.1	-12.5	13.9	-
Y02	100.3	-15.3	68.5	-0.1	0.1	-0.6	0.6	-	-0.1	0.2	-1.0	1.1	-
Y04	95.4	-16.3	78.7	-1.7	3.3	-4.9	6.2	-	-2.2	4.2	-8.3	9.6	-
Y06	100.5	-16.7	86.0	-2.5	5.1	-7.2	9.1	-	-2.7	5.7	-11.1	12.8	-
Y08	96.2	-0.3	82.1	-0.2	-1.5	-0.3	1.6	-	-0.3	-2.2	-1.4	2.6	-
Y11	100.7	-13.7	53.6	-1.2	3.7	-8.9	9.7	-	-1.2	4.6	-12.5	13.4	-
Y15	94.8	0.1	72.6	-0.2	-0.6	-1.2	1.4	-	-0.2	-1.0	-2.0	2.3	-
Y17	88.9	17.3	71.8	0.4	-1.7	-0.3	1.7	-	0.6	-2.7	-0.7	2.9	-
Y18	90.3	9.7	80.7	0.5	-2.7	0.0	2.7	-	0.8	-4.4	-0.3	4.5	-
Y19	89.2	13.6	80.7	0.5	-3.2	0.7	3.3	-	0.9	-5.0	0.6	5.2	-
Y23	95.1	5.8	41.0	0.3	-0.9	-0.5	1.1	-	0.6	-1.5	-0.7	1.8	-
Y26	82.8	8.4	58.7	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.1	-0.1	0.0	0.1	-
Y28	76.1	1.1	25.9	0.4	0.5	0.5	0.8	-	0.7	0.8	0.9	1.4	-
Y32	92.9	6.0	39.0	0.4	-1.0	-0.6	1.2	-	0.6	-1.7	-0.9	2.0	-
Y38	87.8	22.7	66.9	0.4	-1.6	-0.5	1.7	-	0.7	-2.6	-1.1	2.9	-
YG00	99.9	-17.9	51.6	0.0	0.2	-0.8	0.8	-	-0.1	0.4	-1.3	1.4	-
YG01	100.6	-26.7	63.6	-1.4	3.7	-6.3	7.5	-	-1.6	5.0	-10.6	11.9	-
YG03	88.6	-30.5	64.9	-1.0	2.4	-2.3	3.5	-	-1.2	3.2	-3.5	4.9	-
YG07	82.9	-54.0	55.7	-1.5	4.0	-2.8	5.1	-	-1.9	5.6	-4.6	7.5	-
YG09	70.8	-58.2	41.9	-1.1	3.1	-2.0	3.9	-	-1.4	4.4	-3.2	5.6	-
YG11	98.4	-25.8	32.7	0.0	0.4	-1.1	1.2	-	0.0	0.7	-1.8	2.0	-
YG13	84.6	-35.5	58.7	3.5	10.2	0.6	10.8	-	5.7	13.8	-0.8	15.0	-
YG17	72.2	-30.7	39.4	-0.2	0.3	-0.3	0.4	-	-0.2	0.4	-0.4	0.6	-
YG21	99.0	-16.1	54.4	-0.1	0.2	-0.7	0.8	-	-0.1	0.4	-1.2	1.3	-
YG23	83.8	-32.7	61.9	3.1	9.5	2.3	10.3	-	5.2	12.7	2.6	14.0	-
YG25	78.1	-31.5	57.9	-0.3	0.5	-1.0	1.2	-	-0.5	1.1	-2.1	2.4	-
YG41	94.9	-28.3	21.0	-0.1	0.5	-0.9	1.1	-	-0.1	0.8	-1.7	1.8	-
YG45	69.9	-35.7	23.3	0.1	0.8	-2.3	2.4	-	0.3	1.4	-4.4	4.7	-
YG61	91.4	-13.5	20.1	0.0	-0.3	-0.1	0.3	-	0.1	-0.5	-0.1	0.5	-
YG63	70.5	-20.2	27.2	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	-0.1	-0.1	0.1	-
YG67	57.5	-21.2	24.9	-0.1	0.1	-0.1	0.2	-	-0.1	0.1	-0.1	0.2	-
YG91	85.0	-4.3	24.0	0.2	0.5	0.5	0.8	-	0.4	0.8	0.8	1.2	-
YG93	75.6	-11.2	35.2	0.0	-0.1	0.0	0.1	-	0.0	-0.1	0.0	0.1	-
YG95	65.6	-3.2	44.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.1	0.0	0.1	-
YG99	44.4	-4.3	19.6	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	0.0	-0.1	0.1	-
G00	96.0	-22.3	5.9	-0.1	0.3	-0.5	0.6	-	-0.1	0.4	-0.8	0.9	-
G03	79.5	-54.2	30.5	-0.4	1.5	-1.6	2.2	-	-0.5	2.3	-2.9	3.7	-

付録

G05	66.5	-59.8	33.9	-1.1	3.2	-1.6	3.7	-	-1.3	4.2	-2.3	5.0	-
G07	59.1	-40.2	28.1	-0.2	0.5	-0.7	0.8	-	-0.2	0.8	-1.2	1.5	-
G12	86.5	-29.6	23.3	0.0	0.2	-1.0	1.0	-	0.1	0.3	-1.7	1.8	-
G16	58.6	-47.8	15.7	-0.3	1.1	-0.5	1.2	-	-0.3	1.4	-0.7	1.6	-
G19	59.9	-53.1	21.0	-0.4	1.3	-0.5	1.5	-	-0.5	1.7	-0.8	1.9	-
G20	99.5	-12.1	21.7	0.0	0.4	-0.7	0.8	-	0.1	0.6	-1.1	1.3	-
G24	75.9	-23.6	27.7	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.1	0.0	-0.2	0.2	-
G29	45.0	-16.5	5.9	0.0	0.1	-0.1	0.1	-	-0.1	0.1	-0.1	0.1	-
G46	59.0	-21.3	15.9	0.0	0.1	-0.1	0.1	-	-0.1	0.1	-0.1	0.2	-
G85	66.2	-15.7	19.3	0.2	0.3	0.4	0.5	-	0.4	0.6	0.7	1.0	-
G99	48.5	-7.8	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.1	-
BG000	96.0	-8.5	-2.0	-0.1	0.2	-0.3	0.4	-	-0.1	0.3	-0.4	0.5	-
BG02	82.0	-29.8	-23.5	-0.2	0.5	-0.3	0.6	-	-0.3	0.7	-0.4	0.8	-
BG05	70.8	-36.3	-27.0	-0.2	0.8	-0.5	1.0	-	-0.3	1.2	-0.7	1.4	-
BG09	54.0	-29.7	-14.8	-0.2	0.3	0.0	0.3	-	-0.2	0.4	0.0	0.4	-
BG11	94.2	-18.1	1.8	-0.1	0.4	-0.6	0.8	-	-0.2	0.6	-0.9	1.1	-
BG15	72.0	-51.3	-0.4	-0.6	2.2	-1.3	2.7	-	-0.7	3.0	-2.1	3.7	-
BG18	58.5	-23.8	-6.9	0.0	0.1	0.0	0.1	-	0.0	0.1	0.1	0.1	-
BG32	87.4	-37.1	1.4	-0.1	0.8	-0.9	1.2	-	-0.2	1.3	-1.5	2.0	-
BG45	79.4	-38.2	-13.2	-0.3	0.8	-0.7	1.1	-	-0.3	1.2	-1.1	1.7	-
BG49	54.3	-39.7	-7.4	-0.2	0.7	-0.5	0.9	-	-0.3	1.1	-1.0	1.5	-
BG57	65.0	-30.8	-9.2	-0.1	0.3	0.1	0.3	-	-0.1	0.4	0.2	0.5	-
BG70	100.2	-3.4	0.2	-0.1	0.2	-0.2	0.3	-	-0.2	0.4	-0.4	0.5	-
BG75	56.1	-14.0	-6.5	-0.1	0.2	0.0	0.2	-	-0.1	0.2	0.0	0.2	-
BG90	93.6	-3.0	7.5	-0.1	-0.1	-0.1	0.2	-	-0.2	-0.2	-0.1	0.4	-
BG96	51.5	-8.0	10.0	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	0.0	-0.2	0.2	-
BG99	48.7	-5.6	12.3	0.1	0.1	0.0	0.1	-	0.1	0.1	0.1	0.2	-
B00	94.5	-17.1	-8.4	-0.2	0.3	-0.3	0.5	-	-0.3	0.4	-0.3	0.6	-
B02	77.1	-24.4	-28.3	0.0	0.4	0.6	0.7	-	0.0	0.5	1.2	1.3	-
B04	69.3	-26.8	-39.0	-0.3	0.6	-0.1	0.6	-	-0.3	0.7	-0.1	0.8	-
B06	56.8	-13.8	-45.5	-0.2	0.3	0.1	0.4	-	-0.2	0.4	0.2	0.5	-
B12	85.7	-19.2	-25.2	-0.1	0.1	-0.1	0.2	-	-0.1	0.0	0.0	0.1	-
B14	62.6	-15.4	-35.4	-0.1	0.2	0.2	0.3	-	-0.2	0.2	0.3	0.4	-
B18	46.2	10.4	-43.3	-0.1	-0.2	0.4	0.5	-	-0.2	-0.2	0.6	0.7	-
B21	86.2	-10.2	-19.5	0.2	0.0	0.6	0.6	-	0.2	0.1	0.8	0.8	-
B23	66.7	-0.9	-36.9	0.0	0.0	0.6	0.6	-	0.1	-0.1	1.2	1.2	-
B24	70.7	-5.5	-45.0	-0.1	0.2	-0.1	0.2	-	0.0	0.1	0.0	0.1	-
B28	48.2	23.4	-63.7	-0.1	-1.3	1.7	2.2	-	-0.2	-2.4	3.2	4.0	-
B29	42.3	38.2	-69.4	-0.4	-3.6	4.0	5.4	-	-0.6	-6.9	7.5	10.2	-
B32	89.8	-13.4	-23.9	2.9	1.7	6.6	7.4	-	4.6	2.8	9.9	11.2	-
B34	74.7	-8.4	-22.9	0.2	0.2	0.6	0.7	-	0.4	0.3	1.2	1.3	-
B39	42.6	6.4	-24.1	0.0	0.0	0.0	0.1	-	0.1	0.0	0.0	0.1	-
B41	91.8	-8.7	-12.1	0.1	-0.4	0.0	0.5	-	0.3	-0.7	0.2	0.8	-
B45	71.9	-8.3	-28.2	0.1	0.2	0.2	0.3	-	0.3	0.4	0.4	0.6	-
B52	83.0	-16.2	-14.4	-0.1	0.2	-0.1	0.3	-	-0.1	0.3	-0.2	0.3	-
B66	57.9	11.4	-47.1	0.3	-0.5	1.7	1.8	-	0.6	-0.9	3.1	3.3	-

付録

B79	41.5	29.0	-46.5	-0.1	-2.2	2.9	3.6	-	-0.1	-4.1	5.4	6.8	-
B95	72.9	-10.6	-22.4	0.3	0.1	0.7	0.7	-	0.5	0.2	1.2	1.4	-
B99	42.9	-2.1	-13.3	0.0	0.0	0.1	0.1	-	0.1	0.0	0.1	0.1	-
E00	99.1	7.3	14.3	0.4	-1.3	-1.1	1.7	-	0.6	-2.0	-1.6	2.6	-
E02	91.0	24.0	23.5	0.6	-1.5	-2.2	2.7	-	1.2	-2.8	-3.7	4.8	-
E04	68.3	25.7	7.5	0.0	-0.2	-0.4	0.4	-	0.1	-0.2	-0.7	0.7	-
E07	53.7	42.4	21.5	-0.1	-0.1	-0.2	0.3	-	-0.1	-0.2	-0.4	0.5	-
E09	49.6	35.8	21.3	-0.1	-0.1	-0.2	0.2	-	0.0	-0.2	-0.3	0.3	-
E15	65.0	27.3	27.3	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	-
E17	59.1	28.6	18.6	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.1	-
E18	46.7	18.9	8.9	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.1	0.0	-0.1	0.1	-
E19	52.4	31.9	18.6	-0.1	-0.2	-0.1	0.3	-	-0.2	-0.3	-0.2	0.4	-
E21	89.7	9.8	29.4	0.0	-0.3	-0.3	0.5	-	0.1	-0.5	-0.5	0.7	-
E25	60.7	16.6	17.7	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.2	0.0	0.0	0.2	-
E29	38.8	13.3	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-0.1	-0.1	0.0	0.1	-
E35	68.4	16.7	35.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-0.1	0.0	-0.1	0.1	-
E39	54.7	25.6	25.6	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.1	-0.1	0.0	0.2	-
E40	95.7	1.1	6.3	-0.3	0.0	-0.1	0.3	-	-0.3	0.0	-0.1	0.3	-
E43	80.2	3.2	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-0.1	0.0	0.0	0.1	-
E44	57.3	5.6	22.1	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	0.0	-0.1	0.1	-
E47	45.8	11.0	14.4	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-
E51	96.7	5.6	21.0	0.3	-1.1	-0.7	1.3	-	0.4	-1.8	-1.0	2.0	-
E53	89.9	3.7	27.3	0.0	-0.5	0.1	0.6	-	0.1	-0.9	0.2	1.0	-
E55	74.8	7.3	33.2	0.0	0.0	0.1	0.1	-	0.0	0.0	0.1	0.1	-
E59	43.8	9.9	12.9	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.1	0.0	0.0	0.1	-
E70	84.2	6.4	7.2	-0.1	0.0	-0.1	0.2	-	-0.3	0.1	-0.1	0.3	-
E74	63.6	9.8	8.6	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.2	0.0	0.0	0.2	-
E81	91.1	-2.7	18.8	-0.3	0.1	-0.1	0.3	-	-0.4	0.2	-0.2	0.5	-
E87	45.7	3.2	17.8	-0.2	0.0	0.0	0.2	-	-0.3	0.0	0.0	0.3	-
E93	87.2	24.3	21.4	0.8	-2.0	-2.7	3.4	-	1.1	-3.6	-4.2	5.6	-
E95	87.5	18.2	28.1	0.0	-1.5	0.5	1.6	-	0.1	-2.6	0.8	2.7	-
E97	77.0	19.9	36.1	-0.2	-0.1	-0.2	0.4	-	-0.4	-0.2	-0.4	0.6	-
E99	57.5	28.0	35.4	0.0	0.0	0.0	0.1	-	-0.1	0.0	-0.1	0.1	-
C1	94.7	-1.0	0.2	-0.2	0.1	-0.1	0.3	-	-0.2	0.2	-0.1	0.3	-
C4	69.0	-1.2	-6.2	0.0	0.1	0.0	0.1	-	0.0	0.1	0.0	0.1	-
C7	46.0	-0.4	-7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-0.1	0.0	0.1	0.1	-
C10	36.5	0.8	0.0	0.0	-0.2	0.0	0.2	-	0.0	-0.3	0.0	0.3	-
N1	89.7	-0.2	1.4	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	0.1	-0.1	0.2	-
N4	66.7	-1.1	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.1	-	-0.1	0.0	0.0	0.1	-
N7	39.2	-0.7	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-
N10	36.1	1.5	0.3	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	0.0	-0.1	0.1	-
T1	90.3	0.2	3.4	0.0	0.0	-0.2	0.2	-	0.0	0.0	-0.3	0.3	-
T4	66.1	-0.9	3.0	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	-	-0.1	-0.1	-0.1	0.2	-
T7	41.7	0.1	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-
T10	30.7	1.3	1.1	0.0	0.1	-0.1	0.2	-	0.1	0.3	-0.2	0.4	-
W1	95.8	0.2	5.1	0.0	0.0	-0.2	0.2	-	0.1	0.0	-0.2	0.2	-

付録

W4	80.6	-0.4	6.9	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.1	-0.1	-0.1	0.2	-
W7	43.8	0.8	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-
W10	39.2	-0.2	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-
100	38.0	2.4	0.8	-0.1	0.0	-0.1	0.1	-	-0.1	-0.1	-0.2	0.2	-
110	40.8	1.3	-2.0	0.0	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	-0.1	-0.1	0.1	-
FRV1	81.7	72.1	-10.7	-1.0	-5.8	-0.4	5.9	-	-0.6	-7.5	0.3	7.5	-
FYR1	93.7	36.1	54.0	-0.3	-7.2	-2.8	7.7	-	0.2	-10.1	-3.7	10.7	-
FY1	101.0	-1.8	58.2	-0.6	-2.7	-5.2	5.9	-	-0.4	-4.3	-8.3	9.4	-
FYG1	103.8	-26.2	52.6	-0.5	2.0	-7.2	7.4	-	-0.6	2.8	-11.4	11.8	-
FV2	52.9	34.6	-61.6	0.6	-1.9	5.0	5.4	-	1.2	-2.5	8.2	8.7	-
FYG2	74.6	-57.7	47.0	-1.7	4.9	-3.1	6.1	-	-2.1	6.5	-4.6	8.3	-
YBG2	82.7	-29.2	-20.3	-0.2	0.5	-0.3	0.6	-	-0.2	0.6	-0.4	0.8	-
YB2	63.4	-0.6	-55.3	0.2	-1.5	3.1	3.5	-	0.5	-2.9	5.9	6.6	-

3. マンガ原画の整理

① 作業フロー（共通）

理想的な到達点：全ての原画が制作年代順にエピソード単位、タイトル単位でまとまっており、かつ1枚単位で貸出・返却を管理できる状態

必要な下準備：定本となる刊行物をそろえ、確認リストを作成

→何の原画なのか、いつの原画なのかを確かめ、抜けがないかどうかをチェックするためである

* 初出調査を行い完全な作品リストを作ることが望ましいが、資料へのアクセス状況によっては調査が困難な場合も多い

整理用の物品調達²

- ・中性紙の箱
- ・中性紙封筒
- ・ラベルシール
- ・ノンバッファ紙（ピュアガード）
- ・OPP袋（ポリプロピレン製の透明袋）

特に脆弱な原画³の保管のためには以下の物品を追加で準備

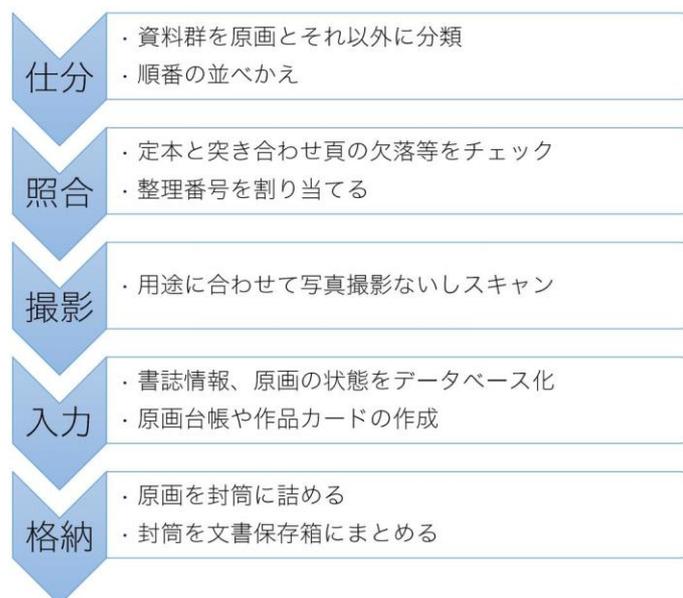
- ・中性紙マットに窓加工を施したもの（オーダー）
- ・中性紙ボード（オーダー）
- ・原画固定用の三角コーナー（コーナーピタック 50mm）
- ・中性紙の額装用テープ（パーマセル PH）

² 整理作業の条件はまちまちなのでこれらの物品が必須というわけでもなく、またこれで十全というわけでもない。本事業の参加施設の中でも対応にはばらつきがあるが、比較的丁寧に整理・保存を行う場合の標準的なやり方を採用する場合に必要な物品を提示している。一般的な文具類は省略している。

³ パステルや色鉛筆等の画材が定着していないため間紙が直接触れると問題がありそうなもの、経年劣化が激しいものを指す。

付録

作業の大まかな流れ



② 簡易な整理・保存（個人向け）

何の原画なのかがはっきりわかっている場合、話数単位・タイトル単位でまとめること、頁を順番通りに並べること、以上の三点が満たすことを整理目標にするとよいだろう。

前述の酸性化対策の意味でも原画同士の癒着や部品の剥落といった問題に対応する意味でも中性紙（ノンバッファ紙）の間紙を挟んだり、原画を1枚ずつOPP袋に入れたりといった措置は有効だが、個人で行うには費用的にも作業量的にも負担が大きいことは否定できない。各施設で行われている整理の事例を適宜参考にしつつ、無理のない範囲で採り入れていくことになるだろう。

同様に全ての原画を中性紙素材の封筒や箱に詰めなおすことは難しいかもしれない。その場合も可能な範囲で対応することになる。何らかの優先順位をつけて大事なものだけ丁寧に保管するといった方法もありうるだろう。また少なくとも温湿度変化の激しい環境での保管を避けたり、カビ・害虫対策として換気や湿気取りを置くなど、なるべく良好な保存環境を守ることを心がけたい。

付録

③ 通常の整理・保存（施設向け）

(1) 仕分

・本編原画とカラー原画、カット原画⁴、その他の資料⁵に分類。

→原稿のサイズ感や全体のボリューム感を把握する。

量が膨大であったり、未整理のものが混在している場合には、封筒や箱の現状を仕分リストにまとめた方が後の作業が円滑。

例) 仕分の基準と仕分リスト

A=初出時の掲載号や収録単行本まで判明している原画

B=作品タイトルはわかるが掲載号などは不明な原画

C=書誌情報がはっきりしていない原画

D=その他（原画以外、色紙や書き損じや下書きも含む）

以上の基準で分類し、封筒に識別用の名前をつけて整理する。

* 作者名/作品名/話数/発表年/その他わかりやすい情報を組み合わせて封筒名とする。

（あくまでサンプルなので、各自使いやすいうようにアレンジしてよい）

封筒番号	封筒名	枚数	箱番号	備考
A1	杉浦ゆきお「面影の女」2001年、『漫画サンデー』No.17～50		SA1	
A2	杉浦ゆきお「面影の女」95年『漫画サンデー』No.2～5		SA1	
A3	杉浦ゆきお「面影の女」2003年、『漫画サンデー』No.1～14		SA1	
.
.

⁴ 雑誌の次回予告のために描かれた予告カットなど原稿用紙よりもサイズの小さいものを指す。カラー、モノクロ両方を含む。

⁵ 原稿に付随する原稿以外のものとしては、下絵、下書き、メモ、刷り出し等がある。

付録

・この時点で既に定本が決まっているか詳細な作品リスト（初出リスト）がある場合には、所定の順序（例：定本の収録順）に並べ替えを行う。ストーリーマンガ作品であれば1話分の封筒を話数順に並べて、タイトル単位でまとめる等の作業を行うことになる。

・この段階でカビが認められる場合には速やかに隔離措置をした方がよい。この点は以下の作業でも同様。

(2) 照合

・定本となる単行本、文庫本と突き合わせて、ページの抜けがないかどうかをチェックする。

・原画 ID（もしくは整理番号）を振る。

例) 原画 ID の生成規則（米沢嘉博記念図書館の場合）

定本の収録順に本編原画を並べ直して、1話分ずつ封筒に入れたのちに、中性紙の箱に入れ箱番号と封筒番号⁶をつける⁷。

原画 ID = 箱番号-封筒番号-定本番号⁸-頁数

001 - 01 - 001 - 009

前半部分が保管場所の住所に相当、後半部分が原画の素性を表す。

→出納のしやすい形で番号を設定することが望ましい。

⁶ 前項で紹介した仕分リストの箱番号、封筒番号とは必ずしも一致しない。

⁷ 中性紙封筒（A3サイズ）にはB4サイズの原画が約40枚入り、内寸45.0×33.0×6.0cmの中性紙の箱には封筒入りの原画を約80枚入れた。1作品が40頁以上の場合は封筒を分ける。これは作品カード同梱の場合の目安。

⁸ 定本とするものに便宜的に番号を割り当てる。例えば三原順の白泉社文庫版全20巻を出版順に並べ、以下のように番号を振る。001『はみだしっ子1』、002『はみだしっ子2』、003『はみだしっ子3』、004『はみだしっ子4』、005『はみだしっ子5』、006『はみだしっ子6』、007『三原順傑作選'70s』、008『三原順傑作選'80s』、009『ルーとソロモン1』、010『ルーとソロモン2』、011『X Day』、012『ムーン・ライティング』、013『Sons1』、014『Sons2』、015『Sons3』、016『Sons4』、017『ピリーの森ジョディの樹1』、018『ピリーの森ジョディの樹2』、019『夢の中悪夢の中』、020『三原順作品集 LAST PIECE』。

・原画を1枚ずつOPP袋に入れて管理する方式の場合、この時点で原画IDシールを作成して袋の右上部分に貼り付ける⁹。この原画IDシールを次の工程で原画と共に撮影（スキャン）することで管理用の画像を作成する。管理用の画像を出力して作品カード¹⁰にも用いる。

(3) 撮影

・原画のスキャニングや撮影には、管理の目的と二次的な利用の目的の二つがあり、その目的に応じて必要な解像度が異なる。

→管理のためだけなら低解像度でもよい¹¹が、印刷用データとして用いる場合、デジタルデータそのものを用いる場合には400dpi相当以上で画像を作成する。

例) 各施設での解像度とファイル形式

	使用機器	解像度	ファイル形式
京都 MM	デジタルカメラ		RAW+JPG
米沢嘉博記念図書館	オーバーヘッドスキャナ (ScanSnap SV600)	300dpi	JPG
増田まんが美術館	フラッドヘッドスキャナ	1200dpi	PSD
北九州 MM	フラッドヘッドスキャナ ¹²	600dpi	TIFF

上部から撮影、取込を行う場合は、ずれが生じないように工夫をする。

(撮影台の固定、原画を置く場所の目印をつけておく、等)

撮影モードや露出補正、ホワイトバランス等の調整も適宜行う必要がある。

⁹ 原稿がB4サイズ相当の場合OPP袋のサイズは16.5号[280mm×430mm]を主に使用。

¹⁰ 詳細は(5)格納の項目で述べるが、出納管理のための工夫。

¹¹ 単純にデータ管理だけのことであれば、スマートフォンなりiPadなりでも十分かも知れない。とりわけ個人で行う場合は、専用のスキャナを用意して高解像度の画像データを作成するのは難しいため、こうした簡便な方法がよいだろう。

¹² 資料状況に応じて(破損した原画や冊子体の資料、あるいは原画同士が癒着している場合など、フラッドヘッドスキャナにかけることが不可能なものについてのみ)オーバーヘッドスキャナも一部使用している。

付録

1200dpi での高解像度スキャンでは、原画 1 枚あたり 10～15 分程度の読取時間が必要とされる。

- ・画像データのファイル名を原画 ID 等へ書き換えて保存する。
→データのミラーリング等バックアップ体制も併せて考えるべき
(1200dpi の画像ファイルは 1 点あたり 0.6GB 弱、原画 1500 枚分を保存するのに 1TB 程度の保存領域を想定する必要がある)

例) 画像 ID の生成規則 (増田まんが美術館の場合)

原画台帳の入力項目から原画の個体識別が可能な画像 ID を割り当てる。

画像 ID = 作品 ID - 巻数 ID - カテゴリ ID - 話数 ID - 原画 ID 007 - 001 - 001 - 001 - 001
--

作品 ID : 作品タイトルごとに割り当てられた番号

(例えば 007 は「釣りキチ三平」を意味する)

巻数 ID : 巻数ごとに割り当てられた番号

(001 = 1 巻、002 = 2 巻)

カテゴリ ID : 本編 = 001

(本編以外をさらに細かく区分することも可能)

話数 ID : 話数ごとに割り当てられた番号

(001 = 1 話、002 = 2 話)

原画 ID¹³ : 各話の冒頭から順に割り当てられた番号

(001 = 1 枚目、002 = 2 枚目)

¹³ 米沢嘉博記念図書館の原画 ID とは別物。ここでいう原画 ID とは、米沢嘉博記念の原画 ID 生成規則における下 3 桁部分の頁数に相当する。ここでは真 ID 等と呼び変えた方が適当かもしれない。できれば全体の中で 1 枚ずつの原画の個体識別を可能にする番号という意味で原画 ID という言葉を用いたい。

ただし、米沢嘉博記念図書館の ID は定本がある場合の付与法である。定本の無い状態で ID をつける必要のある場合も多いだろう。より普遍的な ID の付与法は今後の課題である。

付録

(4) 入力

・原画台帳方式（増田まんが美術館）

作品 1 話を A4 規格 1 枚とした冊子（紙ベース）原画台帳を作成、台帳の作成年月日や作品発表時期、原画状態、原画活用履歴を記録する。Excel 版は 1 行に原画 1 枚として管理 ID を付与、冊子台帳の情報を記録する。

台帳の入力項目は以下の通り。

作家 ID	複数作家の原画を整理するためには必要。 作家ごとに番号を割り当てる。
作品 ID	作品タイトルごとに番号を割り当てる。 古い順に並べるのが一般的。
巻数 ID	各タイトルの何巻に当たるか ¹⁴ 。
カテゴリ ID	本編原画かそれ以外かを識別するもの。
話数 ID	各巻の何話目に当たるか。
原画 ID	各話の何ページ目に当たるか。
画像 ID	画像 ID = 作品 ID - 巻数 ID - カテゴリ ID - 話数 ID - 原画 ID 上記項目を組み合わせて生成された識別番号。
原画枚数	1 枚ずつ管理する場合は 1 と記入。 複数枚を一括管理する場合はその中に含まれる枚数。
原画サイズ	縦横の長さを計測。
色数	モノクロ、2 色、カラーのいずれかに分類。
画材	紙の種類、画材の種類等わかる範囲で記入。
状態①	ページの書き込みの有無等を記入。
状態②	指示書き込み等の有無を記入。
状態③	染み、黄ばみ等汚損の有無を記入。
備考	裏面の状態を含めその他の原画情報を記入。

¹⁴ 整理すべき原画が単一の作家のみなのであれば、作家 ID と作品 ID を省略して定本とする単行本等に巻数 ID を割り当てるだけでも十分と考えられる。

付録

・作品カード方式（米沢嘉博記念図書館）

画像データを A4 コピー用紙にプリントアウトし作品カードとする。

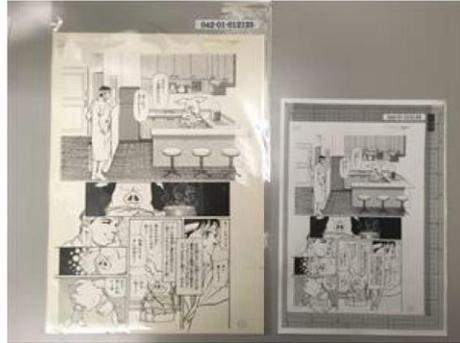


図7：原画（左）と作品カード（右）

原画の貸出時は、ID 番号付き OPP 袋から原画を抜き出し、替わりに対応する作品カードを入れて管理する。これにより、原画 ID だけでなく原画の絵柄を参照できるため、返却時の戻しまちがいを無くす。箱には「貸出原画あり」の印をつけておくことで、箱を開けずとも貸出状況がわかるようにする。

原画 ID、貸出先、担当者、貸出日、返却日などを記入するリストを作り、封筒に貼る。

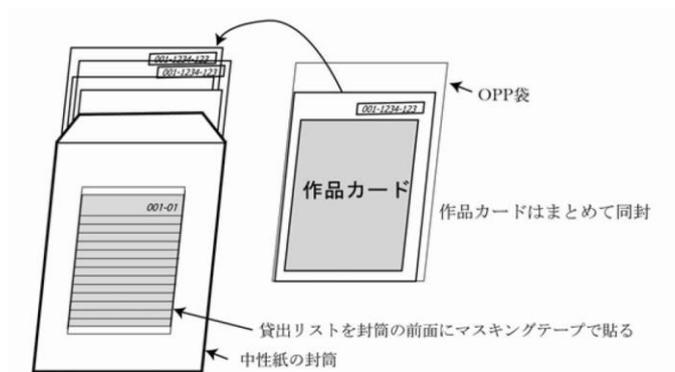


図8：貸出リスト付封筒（左）と作品カード（右）

付録

- ・文化庁メディア芸術データベースへの入力を前提としたメタデータ収集
やり方は原画台帳方式と似ているが、冊子体の台帳は作らず、表計算ソフトを用いて電子データで管理し、画像ファイルは別管理する。

以下のような項目を入力するのが望ましい

マンガ原画作品名	単行本のタイトルと巻数
マンガ原画作品名ヨミ	カナで入力（ハイフンなどは入れず）
順序	話数を入力 例：1話
順序ソート	話数の数字部分だけ入力 例：1
枚数	原画の枚数を記入
初出	初出掲載雑誌の書誌情報を入力 雑誌名、発行年月日、巻号（表示号数、巻号、通巻）
初出 ID	文化庁メディア芸術データベースに既に登録されている初出掲載雑誌の ID を参照
収録	収録単行本の奥付情報を入力 書名、発行年月日、出版社
収録 ID	文化庁メディア芸術データベースに既に登録されている収録単行本の ID を参照
作画者・共著者	作者名を入力
作画者・共著者ヨミ	作者名をカナ入力
著者典拠 ID	文化庁メディア芸術データベースに既に登録されている作者名の ID を参照
大きさ	原稿の大きさを計測し、数値を入力
言語区分	例：日本語
色数	原稿の色数に準じてモノクロ、2色カラー、カラーの3つから選ぶ
状態	原画の状態に特筆すべき点があれば記入。 (通し話数と定本該当ページ数、写植の有無、汚損の有無等も入力)

付録

執筆時期	特定されていれば記入
画材	特定されていれば記入
マンガ作品 ID	文化庁メディア芸術データベースに既に登録されている作品タイトルの ID (システム上では一括入力できる)

毎回必ず全ての項目を入力しなければならないわけではないので、必要に応じて省略する場合もある。

記録すべき状態異常の例：折れ、破れ、切り貼り、汚れ、シミ、セロテープ糊染み、濡れ痕、カビ痕、写植はがれ など

*本項での説明は、過年度のプロジェクトにおける文化庁メディア芸術データベース（開発版）に準拠したものであるため、現行バージョン（ベータ版）では原画についての採録項目等は異なるものになる可能性があることに留意。

(5) 格納

・ OPP 袋方式 (モノクロ原画)

撮影 (ないしスキャン) の終わった原画を 1 枚ずつ原画 ID 番号入りのラベルシールを貼った OPP 袋に入れる。(原画は基本的に左下隅に寄せて入れる)

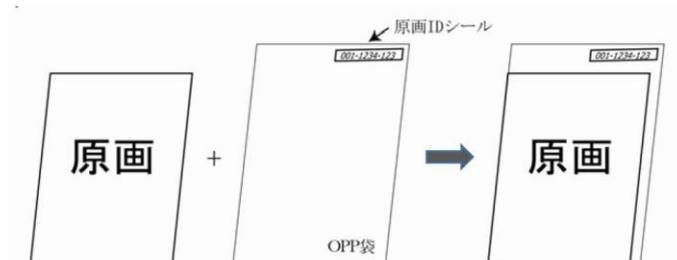


図 9 : OPP 袋に入った原画のイメージ

中性紙封筒¹⁵に 1 話分ずつの原画を対応する作品カード一式¹⁶と共に入れる。一般的な長さのものであれば問題ないが、頁数が多い場合には封筒を分ける必要がある。



図 10 : 原画の入った封筒 (左) と対応する作品カード一式 (右)

¹⁵ A3 サイズのものを使用した場合、原画 40 枚分程度が入られる。

¹⁶ 作品カード一式は封筒内の原画の対応物をまとめて 1 つの OPP 袋に入れた上で封筒の中に入れる。

原画の入った封筒を中性紙箱に収納¹⁷する。

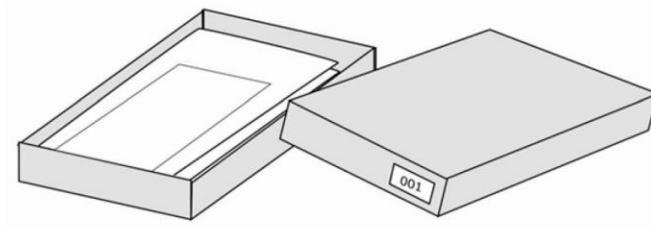


図 11：中性紙箱



ここでは箱が 10 個積み重ねられているが、棚の荷重性能によっては危険なので適宜状況にあわせて対応する必要がある。

図 12：中性紙箱が納められた棚

OPP 袋方式の利点としては、写植の剥落等に対応しやすい点が挙げられる。基本的には平置きで動かさないことが望ましいが、移動の過程で部材が剥がれたりした場合にも複数の原画からの脱落物が混在することを避けられる¹⁸。

¹⁷ 内寸 45.0×33.0×6.0 cm の箱の場合、原画入封筒（A3 サイズ）が 2～3 封が入る（B4 サイズ原画枚数で 80 枚程度、作品カードも同梱の場合）。

¹⁸ 現時点ではポリプロピレンの原画に対する悪影響は確認されていないが、これが本当に問題ない方法なのかどうかは改めて検証する必要がある。将来的には別の保管方法を考える必要も出てくるかもしれない。

付録

- ・ OPP 袋方式（カラー原画、カット類）
 - ◎イラスト保管のため、新たに用意したもの
 - ・リングファイル（A4 30 穴、B4 36 穴）
 - ・不活性ポリプロピレン製 リングファイル用リフィル(A4 30 穴、B4 36 穴)
 - ・リフィル専用の間紙（A4 サイズ、B4 サイズ）
 - ・スキャンの時に使用する紙製スケール（カラー用、モノクロ用を作成）



図 13 : リングファイル（A4 30 穴、B 4 36 穴）



図 14: 不活性ポリプロピレン製リングファイル用リフィル (A4 30 穴、B4 36 穴)



図 15 : リングリフィル用の間紙（中性紙）（A4 サイズ、B4 サイズ）

付録

例) 三原順のイラスト、カット類

初出調査が進んでいたため、原画サイズと作品シリーズの初出順で新たに原画 ID 番号を振った。

ID = 箱番号-ファイル番号-発表年-発表順 062 - 01 - 750 - 010

* 発表年は西暦の下 2 桁を 3 桁で表す

* 発表順の番号は 10、20、30 と 10 番飛ばしに番号を振る。新たなイラスト原画が発見された時に、番号の途中に入れ込むことができる。

(ア) サイズごとに仕分

イラスト原画はサイズが揃っていないカラー（4 色）とモノクロ 1 枚物のイラストである。A4 サイズ以内、B4 サイズ以内、A3 サイズ以内、B3 サイズ以内の 4 つの大きさを仕分けた。サイズで分けることにより原画の保管場所がコンパクトになる。

A4 サイズ以内	A4 サイズリングファイル（A4 サイズ 30 穴） ファイルに入れたのち A3 サイズの中性紙箱へ
B4 サイズ以内	B4 サイズリングファイル（B4 サイズ 36 穴） ファイルに入れたのち A3 サイズの中性紙箱へ
A3 サイズ以内	A3 サイズの中性紙箱
B3 サイズ以内	B3 サイズの中性紙箱（新聞用もんじょ箱）

(イ) シリーズごとに分類

例えば三原順作品のイラスト分類であれば、「はみだしっ子シリーズ」「ルーとソロモンシリーズ」「短編」とした。シリーズ作品の中でさらに初出年代順に並べた。

付録

(ウ) リングファイルに収納

不活性ポリプロピレン製 リングファイル用リフィルに専用の間紙を入れ原画 ID 順に収める。



図 16 : A4 リングファイル収納時のイメージ

A3 サイズの中性紙箱には A4 ファイルが 2 冊、B4 ファイルが 1 冊入る。A3 以上に大きいものは B3 の中性紙箱に収める。

(エ) 原画 ID シールを作り OPP 袋に貼る

モノクロ原画の場合と同様の作業。

(オ) スキャン

サイズがまちまちなのでモニター上の画像では大きさを確認しにくい点には注意。

また作品カードをモノクロコピーした場合、カラーかモノクロか判別できないので、スケールに文字を入れた。



図 17 : カラーイラストスキャニング時のイメージ

(カ) トレーシングペーパー¹⁹のかけ替え

原画サイズに合わせて中性紙（ピュアガード）をカットし、上下を折りたたんで原画を覆う。この時、セロハンテープは使用しないこと。



図 18 : トレーシングペーパーがかかった状態

¹⁹ 原画表面の保護等の目的でトレーシングペーパーがかけられていることがしばしばあるが、2章で述べた通り原画に対して悪影響が懸念されている。このため、より負荷の小さい形へ改める必要がある。



図 19 : 中性紙（ピュアガード）にかけ替えた状態



図 20 : 裏側の状態

(キ)入力

イラストの種類として雑誌の表紙用、トピラ絵用、単行本のカバー用、総トピラ用、付録やプレゼント用、予告カットなど分かるものはデータベースに入力するため資料を作成。

原画破損、トレーシングペーパーの有無、目立つ汚れ、原画の切り貼り等についても入力。

原画のサイズは cm 表記で小数点以下まで入力。

付録

(ク) 格納

モノクロ原画と同様に作品カードを作り原画と共に保管する。

箱のフタに、「箱番号」「作家名」「作品名」を記入したカードを作りカードホルダーに入れ、貼る。イラストの箱にはカードに赤いマークをつけて分かりやすくした。



図 21 : 原画と共に納められた作品カード (カラー)

例) 脆弱なイラスト類の保管方法

<用意するもの>

- ・中性紙のブックマット (オーダー)
- ・中性紙の平置き用トレー (オーダー)
- ・中性紙の箱 (既製品のもんじょ箱) に入らない原画用のブックマット (オーダー)
- ・マウント用ストリップ (原画をマットに固定する、強いていえば三角コーナー的なもの、アートコーナーピタック No.50)
- ・中性紙に中性糊を塗布したテープ (パーマセル PH)

パステルや色鉛筆などの画材が定着していないイラストはピュアガードをかけると画材が擦れて落ち、状態が悪くなる。また、アクリル絵の具で描かれ紙が圧着する可能性のある原画などを保存するため、直接画面に触れない保管方法を検討した。

⇒薄い画用紙に描かれたものはブックマットをオーダー。

イラストボードを用いたものは厚みがあるので、周りに厚い中性紙でガードを作り、ずれないように平置きトレーをオーダー。

(ア) ブックマット方式

用紙が薄い原画は、原画サイズにあわせ窓を空けた下敷き付のマット²⁰にストリップで固定し、1mm厚の中性紙ボードで挟んだ。

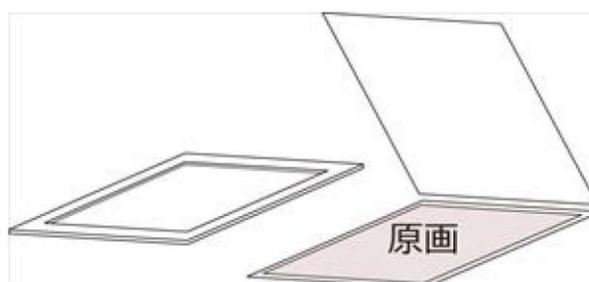


図 22 : 窓付きのマット (左) と 2 枚のボード (右)

²⁰ 中性紙製のブックマット状のもの、サイズはモノクロ原画のサイズに合わせて作った中性紙箱に丁度収まるサイズに調整している。

(イ) 平置きトレー方式

イラストボードが丁度収まり、画面に触れないよう周囲に厚いガードがついたトレーを注文制作。

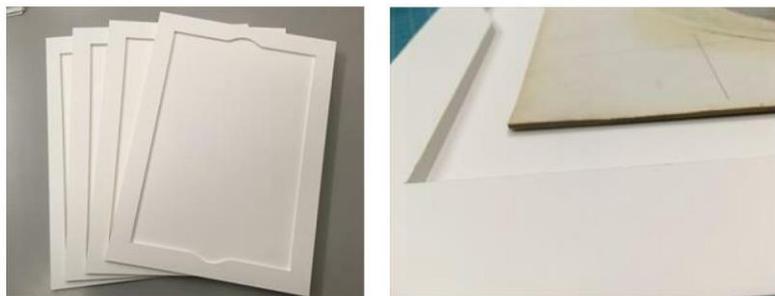


図 23 : 平置きトレー全体像 (左) と角の部分 (右)



図 24 : 原画が納められた状態

(ウ) 大型ブックマット方式

サイズが大きく (27.5×75.0 cm)、パステルを使用していたイラスト原画が折りたたまれた状態で封筒に入っていた。これを伸ばして保管するため、(ア) と同じく 1mm厚の中性紙 2 枚とマットでブックマット状のものを作り中性紙の封筒を繋げたものに入れた。



図 25 : 既に挟み込まれた状態で作品カードが添えられている (中央)

・間紙方式

原画 1 枚 1 枚の間に間紙（中性紙素材＝ピュアガード）を入れ、原画間の癒着防止を図る。その後、1 話ごとに中性紙封筒へ入れ、単行本 1 巻分ごとに中性紙箱²¹に保管する。



図 26：中性紙間紙（ピュアガード 45kg）を挟み込む



図 27：中性紙封筒（ピュアガード 120kg）に原画をまとめる



図 28：中性紙箱（アーカイバルボード）に封筒をまとめる

²¹ 中性紙箱の大きさには既製品でもいくつか種類があるので、管理しやすいものをそれぞれ選ぶことになる。ただ一般的に原画の束はそれなりに重いので、あまり大きな箱に入れると持ち運びが大変である。

4. マンガ原画の受入

施設がマンガ原画の寄贈や寄託を受け入れる場合の条件はまちまちで統一的な規定が存在するわけではないが、当事者間の合意内容を書面で残しておくことは必要である。また受入時には、預かった後の権利関係の条件（二次的な利用に際して一々許諾を取る必要があるのかどうか、利益が生じた場合に分配をどうするのか、別施設への移管を認めるかどうか、等）を確認しておくべきである。受け入れた原画をある程度自由に利用できないとそのまま死蔵されることになりかねないので、これは当事者双方にとって好ましい事態ではない。

■ 原画寄贈に関する覚書（サンプル）

原画寄贈に関する覚書（案）

京都精華大学国際マンガ研究センターを運営する学校法人京都精華大学（以下「甲」という）と、〇〇〇〇（本名=〇〇〇〇、以下「乙」という）は、乙が執筆、管理するマンガ作品の原画（以下「本原画」という）のうち、甲乙が合意したものを甲へ寄贈するにあたり、以下のとおり合意するものとする。

第1条（本原画の扱いについて）

乙は、本原画について、以下各項の条件のもとで甲に寄贈するものとする。

1. 寄贈後、甲には、乙からの原画返却の要請に対応する義務は生じないものとする。
2. 本原画は、甲が管理する施設における展示や研究者向けの閲覧に活用されるほか、第三者が管理する他の施設（博物館等）の展示への一時貸し出し、画像データのデータベース上へのアップロード等、公衆に対し無償で恒久的に公開されることがある。
3. 甲は、乙から原画閲覧の要請があった場合は、遅滞なく閲覧に供するものとする。ただし、展示や研究、貸出等の状況により即座に対応できない場合は、甲はその旨および閲覧可能な日時を乙に返答するものとする。
4. 本原画は、将来的に甲より第三者へ移管する場合があります。当該第三者は、原画の取り扱いについて知見を有する信頼できる機関に限られるものとし、甲は移管に先立ち乙にその旨を連絡する。
5. 甲は、本原画の保存、管理を十分な注意をもって行う。ただし、甲は本原画の経年劣化につき修復の義務を負わず、また本原画の破損、紛失が生じた場合でも、甲に悪意又は重大な過失なき限り、甲は乙に対し補償・修復の義務を負わないものとする。
6. 本条第1項及び第2項の定めにかかわらず、乙が本原画の貸与を希望した場合、甲は本原画を無償にて貸与する。乙は、貸与を受けた本原画を、利用態様を問わず、自ら又は第三者をして自由に利用することができる。貸与時期、貸与方法、運送費用負担、貸与期間中に生じた事故への対応等の詳細については甲乙別途談話に協議して都度決定する。本項により貸与した本原画について、貸与期間中に生じた破損、紛失等については、甲は前項の補償・修復の義務を負わないものとする。
7. 本原画の所有権は〇〇〇〇年〇月〇日をもって寄贈により甲に移転し、以後、本原画は占有改定の方法により甲に引き渡される。乙は同日以後、本原画について従前どおりの管理を行えば足り、甲乙協議のうえ順次、甲に引き渡すものとする。

1

第2条（著作権）

1. 甲は、寄贈された本原画の利用において、本原画に含まれる著作権を侵害しないよう十分な注意を払うものとする。ただし第1条第2項に該当する場合についてはあらかじめ承諾があったものとする。
2. 甲が、本原画の二次使用（図版使用、グッズ等の作成）を行う場合は、甲は必ず事前に著作権者へその旨を通知し、使用条件等を協議のうえ承認を得るものとする。
3. 【乙が著作権者である場合】前項につき、乙が死亡した場合は下記に連絡をとり、著作権継承者を確認の上、承諾を得るものとする。連絡先情報に変更があった場合は速やかに甲に通知する。

連絡先
名 前：〇〇〇〇
住 所：〇〇〇〇
電 話：〇〇〇〇
メールアドレス：〇〇〇〇
乙との関係：〇〇〇〇

第3条（誠実協議）

本契約に定めのない事項及び本契約の解釈につき疑義が生じたときは、甲乙が誠実に協議のうえ解決するものとする。万一本契約に関して紛争が生じた場合は、京都地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とする。

この覚書は、2通を作成し、甲、乙それぞれが記名押印の上、各1通を保持するものとする。

〇〇〇〇年〇月〇日

甲：京都府京都市左京区岩倉木野町137
学校法人 京都精華大学
理 事 長 〇〇〇〇

乙：東京都××区△△△△丁目〇-〇
〇〇〇〇

以上

*本サンプルは京都精華大国際マンガ研究センターで使用している覚書である。

5. マンガ原画の活用

施設が作家本人やプロダクション、出版社から原画を借用する際には一定の手続きに従って文書を取り交わすことになる。さらに寄贈を受け入れて自ら管理している原画に関しては、逆に貸出をする側として同様の書面をやり取りしなければならない。ここでは各種書類のサンプルを提示する。

① 借用書

施設として公式に発行する書面。借用する原画の数量や期間、責任もって取り扱う旨の制約、責任者の公印と実際に原画を取り扱う担当者の氏名・連絡先など、必要最小限の項目で簡潔に作成したもの。借用原画が事前に確定している場合は原画の受領時に先方へお渡しする。現場で選定や協議が必要な場合は、「仮受領書」（後述⑤）をお渡しした上で、後日貸主へお送りする。

② 借用原画の詳細

文字ベースの一覧表や、単行本スキャン画像などからサムネイルを作成しはめこんだものなど、原画の性質や貸主の意向に即して、具体的で見やすい詳細一覧を作成し、「借用書」とともに貸主へお渡しする。

③ コンディションレポート

借用原画 1 点 1 点の、借用時の状態を記録したもの。原画に当初からある汚損を記録し、その後の額装作業・展示期間・巡回移送などの行程で事故がなかったどうかのチェックに用いる。単行本等からのスキャン画像を元に原画カードをあらかじめ作っておき、貸主とともに原画の状態を確認し共有しつつ記載するのが一般的。その際、保護用のトレーシングペーパーなど額装・展示の妨げになるものの扱い方や、写植の脱落など軽微な自然損耗にどう対処するかなど、貸主の意向を確認しておくことが望ましい。

④ 覚書

プロダクションや出版社の意向や規定に基づき、借用書に記した項目のほかに、万一の場合の弁済額や借用・許諾謝礼の額と支払方法などを記した覚書を取り交わすことがある。原画を実際に借用し受領するのに先立って取り交わしておくことが原則である。原画の具体的な一覧が盛り込まれているわけではなく、また、返却後も相互に保存すべき書面であるため、「借用書」や「借用原画の詳細」に替わるものでは必ずしもなく、両方を発行することが一般的。

⑤ 仮受領書

本来は原画の借用にうかがう前に、借用原画をすべて確定しておくことが望ましいが、作家から直接借用する場合など、事前の交渉・確認を密にするよりも当日現場で交渉・確認の方が貸主の負担が少なく、貸主もそれを望む場合においては、借用当日は受領した原画の概要と枚数、受領担当者の氏名と捺印からなる簡便な受領書（付録 3 参照）を発行し、後日「借用書」その他一式を発行して貸主にお送りする形をとることがある。

⑥ 損害保険

原画の借用にあたっては、その全工程すなわち、貸主の下で原画を受領してから、自館への輸送・額装や設営等の作業・展示公開・展示解体作業・貸主の下への輸送を経て、貸主に受領されるまでの間に起きるあらゆる不測の事態に備えた損害保険をかけることが原則である。美術輸送業者を用いて輸送する場合は輸送業者を通じて、それ以外の場合は保険代理店に直接依頼して発注する。保険の手配には万一の場合の弁済額の基準となる、原画 1 点ごとの「評価額」が必ず必要であるが、マンガ原画においては美術品市場が確立されていないため、基本的には作家・プロダクションないしその代理人たる出版社の意向に基づいて設定する。

⑦ 返却確認書

原画の返却時には、本来は「借用書」を貸主より回収させていただくことが原則であるが、借用が長期にわたる場合など、「借用書」がすぐに見当たらない場合もある。その場合は返却した原画の内容を簡潔に記した書面に自署（可能ならば捺印も）いただき、確かに返却した旨の書面を頂戴することでそれに代える。

付録

〔貸与者名〕殿	2017年〇月〇日
	〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〔捺印〕 (展覧会担当：〇〇〇〔=展覧会担当者名〕)
借 用 書	
企画展「〇〇〇」展（2017年〇月〇日（〇）～2017年〇月〇日（〇）、於・〇〇〇〇ミュージアム）における展示のために、貴殿所蔵の下記作品を借用いたします。 当方の不手際により万が一作品に損害を与えてしまった場合は、協議の上、下記評価額を元に一部または全部を賠償いたします。	
記	
1 借用作品 []…評価額 ※詳細は別紙「〇〇〇展」：〇〇〇作品借用原画一覧（評価額付）参照	
・ 〇〇〇「〇〇〇」原画 [〇〇〇円]	
・ 〇〇〇「〇〇〇」原画 [〇〇〇円]	
・ 〇〇〇「〇〇〇」原画 [〇〇〇円]	
	計 3 点
2 借用期間 2017年〇月〇日（〇）～2017年〇月〇日（〇）〔予定〕	以上

付録

■ 仮受領書（サンプル）

	平成〇〇年〇〇月〇〇日
_____先生	
仮 受 領 書	
下記の資料をたしかに受領いたしました。	
記	
○ _____	〇〇点
○ _____	〇〇点
○ _____	〇〇点
企画展「 _____ 」 展示用資料として借用	
	合計〇〇点
	〇〇〇〇ミュージアム
	□□ □□ 印
※正式な借用書は後日発行し郵送いたします。	

付録

■ 返却関係書類 (サンプル)

返 却 資 料 受 領 書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇〇〇ミュージアム
館長 〇〇〇〇 殿

下記の貸出資料について、返却を確認しました。

住所 _____

氏名 (自署) _____

記

借用品名	数量	備考
-----	〇〇点	見開きページは1点に換算・詳細リスト添付
-----	〇点	詳細リスト添付
	合計〇〇点	

(以上)

<p>2017年〇月〇日</p> <p>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇殿</p> <p>返 却 確 認 書</p> <p>[貸与者名] [捺印]</p> <p>企画展「〇〇〇」展（2017年〇月〇日（〇）～2017年〇月〇日（〇）、於・〇〇〇〇〇〇〇ミュージアム）における展示のために貸与していた下記マンガ原画の返却を確認しました。</p> <p>記</p> <p>1 貸与作品</p> <ul style="list-style-type: none">・ 〇〇〇「〇〇〇」原画 [〇〇〇円]・ 〇〇〇「〇〇〇」原画 [〇〇〇円]・ 〇〇〇「〇〇〇」原画 [〇〇〇円] <p>計 3 点</p> <p>以上</p>
--

■ 契約書関係（サンプル）

覚 書

〇〇〇〇〇ミュージアム（以下「甲」という）と、〇〇〇〔＝貸与者名〕（以下「乙」という）は、甲が主催する「〇〇〇展」（2017年〇月〇日～〇月〇日、於・〇〇〇〇〇ミュージアム）について、以下のとおり合意する。

第1条（協力依頼事項）

甲が主催する「〇〇〇展」の開催に関する企画・準備・運営について、乙は次の各号の協力を行うものとする。

- （1）乙が所有するマンガ原画の貸与

第2条（借用）

原画等の借用・返却に関しては、甲乙間にて別途、借用書および返却確認書をその都度発行するものとする。

- 2 甲乙間の原画等借用期間は、借用書に記載するものとする。

第3条（損害賠償）

甲の事由により、乙が管理する所有物に損害を発生させた場合、甲は損害賠償を行なうものとする。

- 2 前項の賠償額については、借用書に記載するものとする。

第4条（協力謝礼金）

甲は、「〇〇〇展」開催に関する第1条の協力依頼事項に対し、乙に〇〇〇円（税込）の謝礼金を会期終了時までに支払うものとする。

第5条（その他の事業）

「〇〇〇展」の将来的な巡回等の事業可能性については、甲乙で別途協議するものとする。

第6条（協議）

本覚書に取り決めのない事項については、甲乙は誠意をもって協議の上、これを解決するものとする。

この覚書は、2通を作成し、甲乙それぞれが記名押印の上、各1通を保持するものとする。

2017年〇月〇日

甲：〒〇〇〇-〇〇〇 〇〇〇
〔借用施設名〕
〔借用施設長名〕〔捺印〕

乙：〒〇〇〇-〇〇〇 〇〇〇
〔貸与者名〕〔捺印〕

賃貸借契約要綱

この要綱は、物品の賃貸借に関する契約の約定事項を定めるものである。

(総則)

第1 貸借人及び賃貸人は、契約書及びこの契約要綱に基づき、法令を遵守し、この契約を履行しなければならない。

2 賃貸人は、契約書記載の賃貸借期間（以下「賃貸借期間」という。）中、契約書記載の物品（以下「物品」という。）を賃借人に賃貸するものとし、賃借人は、その賃貸借料を支払うものとする。

3 賃貸人及び賃借人は、この契約の履行に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

4 契約書及びこの契約要綱に定める請求、通知、報告、申出、承諾及び解除は、書面により行なわなければならない。

5 この契約は、日本国の法令に準拠するものとする。

6 この契約に係る訴訟については、賃借人の事務所の所在地を管轄する裁判所をもって合意による専属的管轄裁判所において行うものとする。

(権利義務の譲渡等)

第2 賃貸人及び賃借人は、この契約により生ずる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、あらかじめ、相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。

2 賃貸人及び賃借人は、この物品を第三者に譲渡し、貸与し、または質権その他の担保の目的に供してはならない。ただし、あらかじめ、相手方の承諾を得た場合は、この限りでない。

(賃貸人の請求による賃貸借期間の変更)

第3 賃貸人は、天候の不良その他賃貸人の責めに帰すことができない事由により、賃貸借期間の開始日（以下「使用開始日」という。）までにこの物品を納入することができないと

付録

きは、その理由を明示した書面により、賃借人に賃貸借期間の変更を請求することができる。

(賃借人の請求による賃貸借期間の変更)

第4 賃借人は、特別の理由により、賃貸借期間を変更する必要があるときは、賃貸借期間の変更を賃貸人に請求することができる。

2 賃借人は、前項の場合において、必要があると認められるときは、契約金額を変更し、又は賃貸人に損害を及ぼしたときは必要な費用を負担しなければならない。

(物品の引渡し)

第5 賃借人は、この物品を契約書等で指定された場所（以下「借入場所」という。）において引き渡し、賃借人の使用に供さなければならない。

(賃貸借料の支払)

第6 賃借人は、契約締結後、速やかに賃貸人に対して賃貸借料を支払わなければならない。

2 賃貸借料の支払は銀行振込により行う。これに伴う振込手数料は賃借人が負担するものとする。

(危険負担)

第7 賃借人及び賃貸人の双方の責めに帰することのできない事由により、この物品が滅失又は毀損等し、この契約の全部又は一部を履行することができなくなった場合は、賃貸人は、当該部分についてこの契約の履行の義務を免れるものとし、賃借人は、その代金の支払いの義務を免れるものとする。

(一般的損害)

第8 賃貸借期間中に、この物品に生じた損害その他賃貸借に関して生じた損害については、賃借人がその費用を負担する。ただし、第7に規定する損害を除く。

2 賃借人は、賃借人が故意又は重大な過失によってこの物品に損害を与えた場合は、その

賠償を賃借人に請求することができる。

3 前項の損害賠償金額は、賃借人と貸貸人との間で協議して定めるものとする。この場合において、第9による動産総合保険で補填される額は、損害賠償額から控除するものとする。

(損害保険)

第9 賃借人は、賃貸借期間中、賃借人の負担によりこの物品に対して動産総合保険契約を、損害保険会社と締結し、この契約の存続期間中これを更新しなければならない。

(物品の保管及び使用方法)

第10 賃借人は、保管施設において、この物品を保管又は使用するものとし、これ以外に使用するには、あらかじめ貸貸人の承諾を得なければならない。

(物品の管理責任等)

第11 賃借人は、この物品を善良なる管理者の注意義務をもって管理、使用しなければならない。

2 この物品に損傷等が生じたときは、賃借人は、直ちに貸貸人に報告しなければならない。

(物品の譲渡等の禁止)

第12 賃借人は、この物品を第三者に譲渡し、又は使用させ、その他貸貸人の権利を侵害するような行為をしてはならない。ただし、あらかじめ、貸貸人の承諾を得た場合は、この限りでない。

(物品の返還等)

第13 賃借人は、この契約が終了したときは、この物品を通常の使用による損耗を除き、原状に回復して返還するものとする。ただし、貸貸人が認めた場合は、現状のままで返還できるものとする。

2 賃借人は、この契約が終了したときは、速やかにこの物品を返却するものとし、荷作りや運送等の費用は、賃借人の負担とする。

(事情の変更)

第 14 この契約の締結後、経済情勢の変動、天災地変、法令の制定又は改廃その他不測の事情の変更により、この契約の内容が著しく不当となったと認められる場合は、貸貸人と賃借人とが協議して、この契約の内容を変更することができる。

(契約期間の変更及び延長)

第 15 契約期間の変更及び延長については、契約期間中に双方協議の上、決定することができるものとする。

(賃借人の解除権)

第 16 賃借人は、貸貸人が次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

一 物品の権利または物品そのものを他人に譲渡したとき。

二 この契約に違反し、その違反によりこの契約の目的を達することができないと認められるとき。

三 第 18 の規定によらないでこの契約の解除を申し出たとき。

2 前項の規定によりこの契約が解除された場合においては、賃借人は既に履行した期間を除いた部分に相応する年数分の貸貸借料を賃借人に返還しなければならない。

(協議解除)

第 17 賃借人は、第 16 第 1 項の規定によるほか、必要があるときは、貸貸人と協議の上、この契約を解除することができる。

2 賃借人は、前項の規定によりこの契約を解除したことによって貸貸人に損害を及ぼしたときは、その損害を賠償しなければならない。この場合における賠償額は、賃借人と貸貸人とが協議して定める。

(貸貸人の解除権)

第 18 貸貸人は、次の各号のいずれかに該当するときは、この契約を解除することができる。

一 賃借人がこの契約に違反し、その違反によってこの契約の履行が不可能となったとき。

付録

二賃借人の責めに帰すべき事由により、この物品が滅失又は毀損し、使用不能となったとき。
三天災その他避けることのできない事由により、この契約を履行することが不可能又は著しく困難となったとき。

(個人情報の取扱)

第19賃貸人及び賃借人は、この契約による業務に関して知り得た個人情報を他人に知らせ、又はこの契約を履行する以外の目的に使用してはならない。

2 賃借人は、この契約による業務に従事する者に対し、在職中及び退職後においても、この契約による業務に関して知り得た個人情報を他人に知らせ、又はこの契約を履行する以外の目的に使用してはならないこと、その他個人情報の保護に関して必要な事項を周知させなければならない。

3 前項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(補則)

この契約要綱に定めのない事項は、必要に応じて賃借人と賃貸人とが協議して定める。

付録

【別添資料】

※第16条の2 残余賃借料返還について

契約要綱に記載しております上記につきまして、基本的な考え方は次のとおりです。

①賃借料積算

1年の賃借料5万円 × 20年間 = 1,000,000円 (契約初年度に一括払い)

②契約解除(第16条の2による)発生による返還表

	解除年	残余賃借料		解除年	残余賃借料
1年	2016年	950,000円	11年	2026年	450,000円
2年	2017年	900,000円	12年	2027年	400,000円
3年	2018年	850,000円	13年	2028年	350,000円
4年	2019年	800,000円	14年	2029年	300,000円
5年	2020年	750,000円	15年	2030年	250,000円
6年	2021年	700,000円	16年	2031年	200,000円
7年	2022年	650,000円	17年	2032年	150,000円
8年	2023年	600,000円	18年	2033年	100,000円
9年	2024年	550,000円	19年	2034年	50,000円
10年	2025年	500,000円	20年	2035年	0円

③発生時による返還額の例示

契約期間=2016年(平成28年)3月1日~2036年(平成48年)2月29日の20年間

【例】 2017年3月1日付けで契約解除が発生した場合



付録

2. 『マンガ原画アーカイブ』に関する調査 関連資料

2.1. 調査票

2019/08/05

2019年度文化庁メディア芸術連携促進事業
「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進事業」事務局

(主管) 京都精華大学国際マンガ研究センター／京都国際マンガミュージアム
(協力) 明治大学米沢嘉博記念図書館
(協力) 北九州市漫画ミュージアム
(協力) 一般財団法人パピエ
(協力) 横手市増田まんが美術館
(協力) 東洋美術学校

『マンガ原画アーカイブ』に関する調査ご協力をお願い

本調査は、2019年度文化庁メディア芸術連携促進事業「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進事業」の一環として実施するものです。事業の中心的課題であるマンガ関係者のネットワークの構築を目指し、将来的に「マンガ原画アーカイブネットワーク」の構成員となりうる施設（マンガ・アニメ関連施設および美術館、博物館等）に対してマンガ原画受入の可能性を探ることが本調査の目的です。

※「メディア芸術」とは
デジタル技術を用いられてつくられたアート（インタラクティブアート、インスタレーション、映像など）、アニメーション・特撮、マンガ、ゲームの総称。

マンガ原画は長らく雑誌・単行本の間生成物と認識され、それ自体固有の価値を見出されてきませんでした。現在に至るまで、版元ないし作家自身の手により廃棄される、時には読者プレゼントやグッズ作成のために二次的に流用される、といった形で既に多くの原画が失われてきました。

これに対し、近年は文化資源としてのマンガの価値が見直されはじめ、秋田県横手市増田まんが美術館（<http://manga-museum.com/>）に代表されるように、日本国内の公立美術館でもマンガ原画を収集する施設が出てきました。また、ロンドンの大英博物館で開催された「The Citi exhibition Manga」のように、マンガ原画を用いた美術館・博物館での展示企画も国内外を問わず数多く実施されています。

その一方で、手塚治虫のような有名作家の一部の原画は、美術品としてオークション等を通じて数千万円の高値で取り引きされるなど、海外流出への懸念も高まっています。さらに、これまで原画の保管を担ってきた作家本人やその家族からも、物量の多さから原画を預けたいという声が複数寄せられています。

付録

このようにマンガ原画の収集・保存は、緊急性の高い課題として現在われわれの目の前に突き付けられているのです。そこで、文化庁事業として京都精華大学を中心にマンガ原画のアーカイブ事業を過去4年にわたって実施してきました。この過程で、仮に国が主体となってマンガ原画の収集・保存を行うとしても、膨大な量のマンガ原画を一元的に集約・管理するような収蔵施設は現実的でないという課題が、改めて浮き彫りになりました。

こうした経緯から、全国の関連施設が協力するネットワークの形成とそのための中核機能を担う「マンガ原画アーカイブセンター」の構築によって、マンガ原画の散逸という当面の課題に対応するべきであると、私たちは考えるに至りました。

以上の趣旨をふまえ、ご多用のところまことに恐れ入りますが、そのネットワーク形成に向けた本調査にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上

※「調査票」にご記入のうえ、同封の返信用封筒にて **9月17日(火)** までに、
ご返送いただけますよう、お願い申し上げます。

問い合わせ先（事務局）
メディア芸術コンソーシアム JV 事務局京都事務所

付録

調査票

1. マンガ原画（およびその関連史資料）の収蔵・展示等に関心がある。

YES→質問 2 へ

NO→その理由を教えてください。

【

2. マンガ原画（およびその関連史資料）を既に収蔵している、または収蔵計画がある。

YES→質問 3 へ

NO→質問 4 へ

3. 3-1：収蔵している作家名・作品名やおよその分量について教えてください。

【

3-2：受入の経緯について教えてください。

【

3-3：原画の利活用例を教えてください。

【

4. 将来的にマンガ原画（およびその関連史資料）の収蔵を行いたいと考えている。

YES→質問 5 へ

NO→その理由を教えてください。

【

5. 5-1：マンガ原画（およびその関連史資料）を収蔵する理由・目的を教えてください。

【

付録

5-2 : 収蔵を行ううえでの課題（空間、予算、専門人材、その他）について教えてください。

【

6. こうした取り組みについてのご希望、ご質問等ございましたらご自由にお書きください。

【

氏名 : _____

所属・役職 : _____

連絡先 : _____

付録

2.2. 調査結果

【前提】

調査結果の結果の概要については本編 3.5 シンポジウムの項目で既に紹介した通りであるためここでは割愛する。シンポジウム当日の資料は次項、付録 4.1 報告「マンガ原画アーカイブに関するアンケート調査報告」参照のこと。

前項の調査票からもわかる通り、今回の調査では施設・団体の正式な意思決定なのか、担当者個人の所感なのかを明確に区別しない聞き方をしている。そのため、これ自体からはマンガ原画の取り扱いおよびマンガ原画アーカイブネットワーク（仮称）への関心の有無を大雑把に把握することしかできず、あくまで予備調査として考えるべきである。また今回は各回答の公開の可否についての同意確認を行っていないため、施設名が特定できる形で個別の回答（一次データ）を開示することは基本的に避ける。

【総論】

右に示した表 1 は①マンガ原画の展示あるいは収蔵に関心がある施設および②マンガ原画の収蔵に前向きな施設を都道府県別に集計した結果を示す。

この結果を地方毎にブロック化してみた場合（表 2）、相対的に関心の高い関東、中国、中部と相対的に関心の低い近畿、九州・沖縄の間ではかなり施設数に差があることがわかる。ただし、積極的に関心はないとしつつも地元ゆかりの作家がいれば等の条件付きで受入可能性を示唆する回答も少なくないため、①②共に潜在的にはもう少し大きく見積もってもよいかも知れない。

表 2

	①施設数 小計	②施設数 小計	①都道府県 平均施設数	②都道府県 平均施設数
北海道	14	3	14	3
東北	30	15	5	2.5
関東	67	50	9.6	7.1
中部	62	39	6.9	4.3
近畿	23	12	3.3	1.7
中国	37	25	7.4	5
四国	14	9	3.5	2.6
九州沖縄	24	7	3	0.9

表 1

	①展示・ 収蔵に関 心あり	②収蔵に 前向き
北海道	14	3
青森	3	0
岩手	8	6
宮城	5	2
秋田	4	1
山形	5	1
福島	5	5
茨城	3	3
栃木	5	2
群馬	4	3
埼玉	9	7
千葉	7	5
東京	29	20
神奈川	10	10
新潟	5	4
富山	5	4
石川	2	4
福井	6	3
山梨	3	3
長野	12	5
岐阜	6	3
静岡	11	4
愛知	12	9
三重	1	1
滋賀	5	1
京都	7	6
大阪	6	3
兵庫	4	1
奈良	0	0
和歌山	0	0
鳥取	3	3
島根	4	1
岡山	11	6
広島	12	10
山口	7	5
徳島	3	2
香川	3	3
愛媛	4	3
高知	4	1
福岡	6	2
佐賀	2	0
長崎	3	1
熊本	1	0
大分	3	1
宮崎	3	1
鹿児島	2	1
沖縄	4	1
計	271	160

付録

【Q1 マンガ原画（およびその関連史資料）の収集・展示に関心がある。】

YES : 271 件 (42%)

NO : 363 件 (55%)

未回答 : 18 件 (3%)

【Q1 NO→その理由を教えてください。】（一部抜粋）

- ・「マンガ原画」という枠組みでは当館の収集方針に合致しない。ただし、「〇〇ゆかりの美術」という収集テーマがあるため、〇〇ゆかりの漫画家の場合、収集対象になる可能性がある。
- ・当館は一般的な意味での作品収集を行っていないため。※常設されている大型インスタレーション作品をコレクションと呼んでいます。収蔵庫はなし、また施設自体が観光目的で、研究・収集・保存の活動は行っていません。
- ・作品収集に関しては 当館の方針に概当しないため。
- ・当館の収集方針には含まれないため。同じ課内の館で担当されているため。
- ・現段階において当館の収集方針の俎上になく、また専門的知識のある学芸員もいないため。
- ・当館の収集方針と合わない。（現在のところ）
- ・地域ゆかりの作家関連がある場合は収蔵する可能性もある。
- ・当市には、既に「漫画ミュージアム」が整備されているため。
- ・現時点では展示に値する郷土のマンガ作家が少ないため、展示の予定はない。
- ・当館の収蔵に適さないと考えるため。
- ・館の収集対象と異なり、専門の学芸員もいないため、展示活用が難しい。
- ・郷土の資料を収蔵しているため。
- ・マンガの原画等に適した収蔵施設を有しないため。
- ・配架スペースがない。（ただし分量による）

【Q2 マンガ原画（およびその関連史資料）を既に収蔵している、または収蔵計画がある。】

YES : 55 件 (8%)

NO : 502 件 (77%)

未回答 : 95 件 (15%)

【Q3-1 収蔵している作家名・作品名やおよその分量について教えてください。】

- ・浦沢直樹・20世紀少年など 5枚 A4大
- ・山川惣治 絵物語原画7タイトル 336点、ポスター、単行本 36件 78点 肉筆画 2件 18点
- ・岡本一平、楠勝平など 分量は不明
- ・岡本一平
- ・マンガ原画ではなく雑誌掲載のためのイラスト等。分量については、これから整理をするので不明。

付録

- ・井上洋介《絵本 EE オトコ『週刊漫画 TIMES』原画》1964年、3点組 井上洋介《リング『COM』原画》1969年、12点組 赤瀬川原平 『『漫画主義』No.1-4』ポスター 1968年、『『漫画主義』NO.6』ポスター 1969年
- ・森薫《中央アジアの衣服と布（原画）》2面
- ・現在寄託を受けている。この史代「この世界の片隅に」マンガ原画 430点、資料 29点
- ・北沢楽天筆 柏谷義三氏戯画。画帳も？（未整理）
- ・横山隆一の即興図（フクチャン鰻釣りの図）
- ・田山花袋宛の池田永治の絵ハガキ（本人の絵の印刷）3通。うち1通は、昭和4年の第6回日本漫画展覧会出品作品を掲載したものである。
- ・原信天…漫画原画約70点ほか、作品画集、下絵など所蔵
- ・定義に合うか分かりませんが（関連史資料）北沢楽天・下川凹天 作品、資料 10数件。※日本画作品、色紙、書簡（絵入）
- ・関連史資料として・『暁斎百鬼画談』（水木しげる作品、『tactics』、『地獄少女』等で使用された）・暁斎筆《横たわる美人と猫》・《美人観蛙戯図》（『ONE PIECE』のカラー口絵に影響が見られる）
- ・北沢楽天等の時事新報掲載漫画約450点、時事漫画1,000点、他
- ・マンガ作品の原画資料ではありませんが、漫画家の制作した絵画、イラストを収蔵しています。やませたかし、松本零士、秋竜山など27作家
- ・マンガの源流といえる田中比佐良や長原孝太郎作品 田中比佐良は個展ができる分量
- ・山根青鬼・山根赤鬼「のらくろ」 田河水泡さんにゆかりのある作家からの年賀状 約10枚程度
- ・めぐろしんいち氏 「まんが野口英世の母シカ物語」 約10点 麻生弥氏 企画展パネル原画 他 約18点
- ・北沢楽天「時事漫画」 約500点
- ・池辺鈞「協会楼上の御免祝」1点 やくみつる「マンガで振り返る 横綱貴乃花光司一代記」1点 作者不明23点（大正期か）
- ・関連する兵士、抑留、引揚関連のマンガ約40点を収蔵 作家は、水木しげる、ちばてつや、森田拳次、古谷三敏ほか
- ・榎その・「**号」にケイサイ分 すべて
- ・やまさき拓味 30点程 ノグチアキラ1点
- ・大津市職員が作画した大津絵マンガの連載10話分ほど
- ・オリジナルアニメーション「GENJI FANTASY ネコが光源氏に恋をした」 みかん箱約8箱分（未整理）
- ・ちばてつや 赤塚不二夫 北見けんいち 森田拳次 高井研一郎 山内ジョージ 横山考雄 古谷三敏 上田とし子 山口太一 林静一 バロン吉元
- ・アトム、鉄人28号、のらくろ、ちびまる子ちゃん、鬼太郎、コナン等のキャラクター玩具の

付録

補足資料として刊本、雑誌、付録を数点のみ収蔵

- ・中沢啓治氏「はだしのゲン」等 約 9500 枚
- ・いがらしゆみこ
- ・聖戦必勝態勢昂揚肉筆漫画 北沢楽天など 16 点。 鉄腕アトム 手塚治虫 1 点 鉄人 28 号 横山光輝 2 点 絵本 など
- ・麻生豊 ノンキナトウサン・只野凡児・むすこの時代・かっちゃん 等原画、その他麻生豊関係資料 全 377 点
- ・いがらしみきお 2 点
- ・マンガ原画そのものの収蔵はほとんどないが、企画展の開催や寄贈いただく機会があり、原画の収蔵を行っていく可能性が非常に高い。以下に、現在当館で展示あるいは所蔵しているものを記載します。1) 清家雪子『月に吠えらんねえ』既刊全巻、講談社、2014 年～ 2) 清家雪子「月に吠えらんねえ」、連載誌『月刊アフタヌーン』掲載号一部 3) 清家雪子、自筆色紙 2 点 4) 清家雪子『月に吠えらんねえ』、デジタル作画動画、書き下ろし四コマなど 5) 阿部智里（原作・監修）、松崎夏未（漫画）『鳥に単は似合わない』既刊 2 巻ほか、特装版付属特別小冊子 2 巻、講談社、2018～2019 年 6) 阿部智里サイン入り、松崎夏未、自筆色紙 1 点 7) 萩原朔太郎著、山川直人（漫画）『猫町』装丁夜話、2019 年より、中表紙原画 1 点（*寄贈。受入準備中）
- ・田河水泡『のらくろ』色紙 3 枚
- ・麻生豊「ノンキナトウサン」巻 1～6 原画
- ・中垣ゆたか「町田家、あさって、しあさって」約 4400 点 西村宗「サラリ君」約 6800 点
- ・登録済 36 点 清水麗、岡本一平など 1 コマ原画中心
- ・1. 藤子不二雄Ⓐ「フータくん」1 枚 2 山根赤鬼「ゆかいな町の風船や」9 枚 3 里中満智子「大伴家得・坂上下嬢」1 枚 4. 今市子「ウグイス嬢」「七山長者とおろろ」各 1 枚
- ・あさのあつこ、原田マハなどの原作をマンガ化したゲラなど。
- ・竹宮恵子 原画 54 点
- ・ちばてつや「菊池寛似顔絵」（額入り）×1 点 ウノかまきり「菊池寛似顔絵」（額入り）×1 点
- ・未整理のため作家名・作品名・分量不明（さほど多くはないと思われる）
- ・鈴木光明。作画グループ自筆回覧誌（原画を本にとじたもの）など
- ・富永一朗氏原画約 100 点
- ・いがらしゆみこ作品。「キャンディキャンデ」他。代表作数点
- ・やなせたかし作 漫画現存するもの全て 5000 点（調査中のため点数は未確定）
- ・長谷川町子
- ・宮崎駿 風の谷のナウシカ
- ・作家：青山剛昌 作品：名探偵コナン、まじっく快斗、YAIBA 等 約 6 千点
- ・藤子・F・不二雄 『ドラえもん』はじめ作品多数 約 4 万枚
- ・子供向けの歴史マンガ、少量
- ・長新太

付録

【Q3-2 受入の経緯について教えてください。】（一部抜粋）

- ・企画展の開催にともなう寄贈
- ・地元ゆかりの作家として当館で展覧会を開催した後、所蔵者からご寄贈いただいた。
- ・購入、寄贈など
- ・雑誌編集社より寄贈を受けた。
- ・古文書類として一括受入
- ・子孫からの寄贈
- ・本人よりの寄託
- ・購入あるいは寄贈
- ・遺族から寄託を受けた。
- ・プロダクションより 展示目的で収蔵
- ・本人からの寄贈、遺贈

【Q3-3 原画の利活用例を教えてください。】（一部抜粋）

- ・未活用
- ・展覧会への出品、グッズの制作
- ・展示
- ・複写したものをパネル化。特別展で実物展示。
- ・とくに活用した事例はありません。
- ・美術館等への貸出
- ・常設展示
- ・企画展での展示など、原画はデジタル化されておりデータでの活用が多い。
- ・展覧会、絵はがき、ミュージアムグッズ
- ・展示、展示関連書籍への掲載

【Q4 将来的にマンガ原画（およびその関連史資料）の収蔵を行いたいと考えている。】

YES : 139 件 (21%)

NO : 414 件 (63%)

未回答 : 99 件 (15%)

【Q4 NO→その理由を教えてください。】（一部抜粋）

- ・当町出身の日本画家や洋画家が残した挿絵や表紙絵を収蔵しているので、原画の収蔵について関心はあるが、①当町出身のマンガ家がないこと、②空間・予算・人材が完全に不足しているため、収蔵することは現状考えていない。
- ・収蔵スペースがないから

付録

・1の理由と同じ。ただし、〇〇県の歴史・文化を語るうえで必要と判断した場合は受け入れる可能性もある。

- ・現状ではなんとも言えない。
- ・県内に他の施設があるため
- ・収蔵場所がない。(収蔵庫はすでに一杯)
- ・館の収集分野でないため
- ・マンガを十分に研究し、活用するための態勢が整わないと考えるため。
- ・関心はあるが、収蔵についての検討が十分なされていない。
- ・町に関連したマンガがあれば検討したい。
- ・当館収蔵品のスペースが限られており、新たに原画等の収蔵は難しい。また、保管に必要な設備や費用など、対応できない点があるため。

【Q5-1 マンガ原画（およびその関連史資料）を収蔵する理由・目的を教えてください。】（一部抜粋）

- ・過去にマンガ・アニメ関連の企画展を複数行っており、公立美術館がその文化的意義を発信することが重要と考えているため。また、「〇〇ゆかりの作家による優れた作品」を収集方針の一つとしており、〇〇ゆかりのマンガ家も多く、その原画もこれに該当すると考えられるため。
- ・当館のは、〇〇の顕彰を目的としており、マンガの中での〇〇の描かれ方は現代における〇〇像を表すものとして資料的価値のあるものと考えられるため。
- ・漫画史的な収蔵資料の強化、展示への使用
- ・出身のマンガ家から要望が出ている。
- ・マンガもハイ・アートに分類されそうだから
- ・絵本や雑誌、ポスターなど原画による展覧会は当館の特色のひとつであり、連動して収集方針のひとつの柱となっているため。
- ・展示の企画等で活用する可能性があるため
- ・地元出身の作家の資料や活動全般の保存
- ・郷土ゆかりのテーマ、作者の資料として
- ・記録のため
- ・マンガ文化は日本を代表する近代文化であると共に世界中で注目されている文化である インバウンドを含む来館者に対して魅力ある展示ができるので、収蔵を考えていきたい。
- ・郷土に関係するものであれば郷土の文化として意義があるため
- ・これまでマンガ原画は収蔵されておらず収蔵資料を多様化させるためにも収蔵したい。
- ・当館の収蔵方針に合ったものがあれば収蔵したい。
- ・一つの文化と考える為、残すべき物だと思っているから。また、高齢層に多く見られる「低俗なもの」と言うイメージが資料保存や展示活用に良くない影響を及ぼしていると思うが、若い世代の為にも考えていかなければならない問題だと思う。

付録

- ・ビジュアルで分かりやすく展示に適しているため。
- ・弊館の設置目的等に合致する資料であれば、収蔵に協力し、保管・活用する為。
- ・積極的に収集する予定はないが、地域に根ざした博物館として地元作家のマンガ原画や当地を舞台としたマンガ原画は展示への活用が考えられるため寄贈の希望があれば受入を検討したい。

【Q5-2 収蔵を行ううえでの課題（空間、予算、専門人材、その他）について教えてください。】

(一部抜粋)

- ・空間、予算、人材全てが足りていない。
- ・数量的に少ない為特に問題はないが、若干の古い漫画に関する専門人は必要かと思われる。
- ・まだ具体的な収蔵段階に至っておりません。予想されるのは購入か寄贈か、またボリュームなどの問題（予算と空間）
- ・まとまったコレクションがないと活用できない。保管場所がない。購入予算がない。
- ・収蔵庫の空きスペースが少ない事
- ・専門学芸員の育成
- ・保存・活用のノウハウ、方針（人員体制含）等を策定していく必要がある
- ・収蔵スペース、調査研究する人材
- ・収集予算がほとんどない。収蔵庫に余裕がない
- ・作家調査が進んでいないこと。美術品購入予算に限りがあること。
- ・マンガ原画等は紙資料が中心となるので、適切な温湿度を維持した収蔵環境が必要となるが、当館はそうした収蔵に適した収蔵庫を十分に持ち合わせていない。
- ・収蔵庫のキャパシティ・市の施設であるため、マンガを収蔵することで市民にどの程度還元できるのか。
- ・現状の収蔵庫区分の中で、どこに位置づけるか検討が必要
- ・利活用に結びつけるアイデアがなかなか思いつかない
- ・まずはマンガ家（特に市内）の調査を実施し、基礎的情報を集積したい
- ・標記全てに加えて、資料収集実務に即した具体的な収集方針・基準の策定

【Q6 こうした取り組みについてのご希望、ご質問等ございましたらご自由にお書きください。】

(一部抜粋)

- ・著作権者についての情報の整備的なことを行ってほしい。
- ・どのような保存方法が適しているのでしょうか。 インク、ホワイト、セロハンテープ、西洋紙等いわゆる文化財とは異なる材質が使われていると思われます。
- ・マンガ・アニメーション等の横断的なデジタル所蔵目録が整備・公開されることを期待します
- ・収蔵の予定はないが企画展で借用する可能性はあり、アーカイブのネットワーク形成はすばらしい。
- ・マンガ原画を収蔵するための保存科学上や調書作成（情報記述）上の問題点や課題について検

付録

討する（あるいは明確化か）シンポジウムなどが開催されることを希望します。

- ・マンガ原画に限らず、特に現存作家の資料受入には課題が多いと思います。
- ・当館での収集や保管等は難しいが、巡回企画展等があれば検討したい
- ・(164) マンガ原画の散逸を防ぐ取り組みは重要だと思います。
- ・寄贈の話などがあつた時に相談できるネットワークがあるとありがたいと思います。
- ・E-mail で回答できると便利
- ・「マンガ原画アーカイブ」構築後、この施設をどのように活用していくのかという構想はあるのでしょうか。原画散逸の阻止、国内での保存が主な目的なのか、その次の段階として、収集された原画の有効活用（公開等）も考えているのか。
- ・個別の収集網のリンクがほしい(例：浮世絵検索)
- ・どこまでが対象資料なのか、(当館収蔵品も対象なのか否か) ※漫画家による日本画作品、色紙、書筒など
- ・いずれマンガ原画も収蔵対象となっていくと思われるが、当該分野を系統的に収集するための方針を構築することが前提であり、まず、そのための実務が可能な学芸員の育成が重要であろう。
- ・本件に限ったことではないが理想と現実のギャップは大きい。
- ・近年行われている、マンガの展覧会について、具体的な実績等、まとまった情報が、ございましたら頂きたいです。また、どの時代の、どの作家からマンガ原画として収集するにふさわしいか、明らかになっている範囲で教えていただければ有難いです。
- ・現在この分野の所蔵者情報等を持ち合わせていないので、寄贈申し出と受け入れ館のマッチングをおこなう組織があるとありがたい。
- ・マンガ雑誌は劣化しやすそうですが、どのように保管しますか。
- ・マンガ原画収集・保存・研究のネットワーク形成に際し、それに携わる専門的人員が不安定な雇用形態にならないことを望みます。ものだけではなく、それを取り扱う人の知識やスキルが蓄積され継承されてこそその事業と考えます
- ・お力にはなれませんが、散逸を防ぐ為の努力は、とても大切だと思います。
- ・こうした分野について専門性を持った機関が、国内の様々な地域で活用できるよう、資料収集や情報発信をしてもらえれば良いのではないかと。
- ・博物館は社会ニーズにあわせて成長していかなければならない。そのためには新しい取り組みを考えていくことが大切である。
- ・貴重な資料を散逸させず、かつ将来的な研究活動を担保するためにも、専門の機関を設け、そこへ一任すべきとも思う。
- ・史料の散逸については、大いに危機感をもっています
- ・受け入れ、展示の際の著作権を取り扱いに関する取り決めのフォーマットなどあれば教えていただきたく存じます。
- ・世界から注目を集めるマンガ文化について、映画フィルムのように、収集及びアーカイブを作ることには必要だと思います。同様にアニメーションについても動きがあれば良いと思います。地方

付録

博物館でも資料借用、展示を企画するハードルが下がっていきます。

- ・低予算で企画展など可能でしたら関心があります。
 - ・こちらで言われるマンガ原画は文学で言うなら手書き原稿ということになると思いますが、手描き原画ではないデジタルの原画の価値や取り扱いがどうなるのかに興味があります。
 - ・あまり「地元ゆかり」にとらわれず全国の志ある文学館・美術館・資料館で分担して保管していくのはよい提案と思います。
 - ・ささいなことと思われることから重要なことまで、広範にわたって、様々な情報の共有をお願いしたいです。(他館がどのように考えているか、など。調査結果をぜひ公開してほしいです。
 - ・マンガ資料のアーカイブが構築され、広く資料が活用されることを望みます。
 - ・権利関係が難しいでしょうが、どうせならば、デジタルアーカイブ化を望みます。
 - ・メディアアートに限らず、貴重な資料を保存すること、またその人材について理解されるような取り組みが必要。
 - ・保存方法などで何か新しい方法があればご教示いただきたい。
 - ・展示に活用したい時など、資料が公的な場所に収蔵されていると依頼もしやすい。ぜひ、散見せずに一カ所で保管される施設、設備ができてほしい。
 - ・他館ではどのような保管をしているのか知りたい
 - ・原画の整備に際しては、その膨大な量にどのように対応するのか、現状ではイメージしづらい。
- 増田まんが美術館などの活動を参考にしたいが、そこへ出向く旅費すらままならない状況である。マンガを取り巻く環境、それに携わる館スタッフの置かれた現状などについては多くの課題を感じている。文化庁の本事業の中で関係者が意見交換や研修を受けるなどできないか、ご検討いただきたい。
- ・たいへん有意義な取り組みだと思えます。膨大な量があると思えますので、100年後を見据えた、実現可能な収集基準を早急に確立していただけることを希望します。

3. 合同シンポジウム「マンガが先か!?原画が先か!? 「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて」資料

3.1. 報告「マンガ原画アーカイブに関するアンケート調査報告」

2019年度文化庁メディア芸術連携促進事業
「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進」
「国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」
【シンポジウム】マンガが先か!?原画が先か!? –「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて–

マンガ原画アーカイブに関する アンケート調査報告

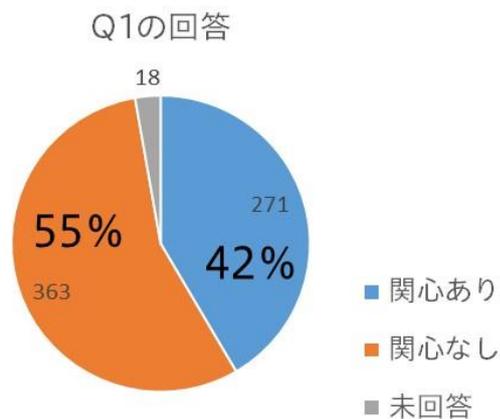
原画アーカイブ事業アンケート部会担当
日高利泰（京都大学非常勤講師）

調査概要

方法	調査票を返信用封筒とともに郵送
時期	8/26発送、9/17回答締め切り
対象	日本博物館協会（総合、郷土、美術、歴史）、 美術館連絡協議会、全国文学館協議会の加盟館 および京都MMの案内発送先施設 ⇒重複を除き計1174件
内容	マンガ原画の収集・展示への関心の有無 アーカイブネットワークへの関心の有無 およびその理由について マンガ原画を扱う上での課題等
回収	10/7到着分まで集計⇒652件（回収率56%）

Q1 マンガ原画（およびその関連史資料）
の収集・展示等に関心がある。

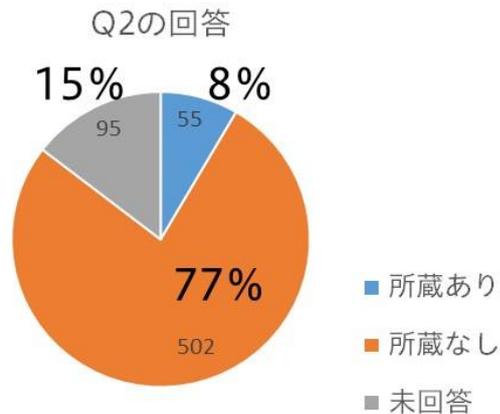
YES	271件
NO	363件
未回答	18件



関心がない理由としては
収集方針にそぐわないが300件超で最多
このほか設備が不十分、ゆかり作家の不在等があげられる

Q2 マンガ原画（およびその関連史資料）を既に
 収蔵している、または収蔵計画がある。

YES	55件
NO	502件
未回答	95件



関心はない（Q.1でNO）が収蔵しているケース：7件

Q3 収蔵作家、受入経緯等について記述

3-1：収蔵している作家名・作品名やおよその分量に
 ついて教えてください。

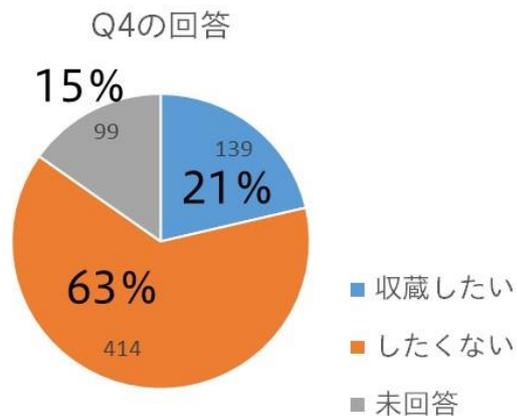
3-2：受入の経緯について教えてください。

3-3：原画の利活用例を教えてください。

⇒マンガを専門とする施設以外でもイベント等の機会
 にマンガ家による色紙、ポスター原画等の寄贈を受け
 る場合がある。

Q4 将来的にマンガ原画（およびその関連史資料）の収集を行いたいと考えている。

YES	139件
NO	414件
未回答	99件



既に収集の重複34件を除いて
今は持っていないが将来的に収集を行いたい：105件

Q5 収集を行う場合の目的や課題について記述

5-1：マンガ原画（およびその関連史資料）を収集する理由・目的を教えてください。

5-2：収集を行ううえでの課題（空間、予算、専門人材、その他）について教えてください。

Q6 本事業への要望、質問等について記述

⇒（低予算での）巡回展や研修会等へのニーズ

既に収集している施設でも課題は多い

調査結果まとめ

Q1およびQ2

マンガ原画の収集・展示に関心あり：271件

マンガ原画を既に収集：55件

関心があり既に収集（重複）：48件

⇒既に収集もしくは収集・展示に関心あり：278件

収集はしていないが今後の収集・展示に関心：223件

調査結果まとめ

Q4

将来的にマンガ原画を収集したい：139件

既に収集しかつ今後も収集したい（重複）：34件

⇒今後新たにマンガ原画を収集したい：105件

マンガ原画の展示のみに関心：118件 (= 223 - 105)

マンガ原画の収集に前向きな施設：160件 (= 105 + 55)

調査結果まとめ

日本国内の主要な博物館・美術館・文学館等の文化施設
約1200館のうち

⇒マンガ原画の収蔵・展示に関心：約300館
マンガ原画の収蔵に前向き：約150館

マンガ原画に対する関心が高いことはわかったが、大規模な受入がただちに可能な訳ではない点には留意すべき

⇒全国規模でマンガ原画の受入支援体制の整備が必要

*マンガ原画アーカイブセンター（ナショナルセンター）
およびマンガ原画アーカイブネットワーク構想

3.2. 報告「三原順原画の整理と活用」

2019年度文化庁メディア芸術連携促進事業

マンガが先か!?!原画が先か!?!
—「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて—

第1部「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進」事業報告

三原順原画の整理と活用

2019年12月17日(火) 13:15～14:15

会場: DNP 五反田ビル

ヤマダトモコ(明治大学 米沢嘉博記念図書館)

三原順原画の整理と活用



原画全 6337点整理済
(スキャンおよびカード作成、データベースへの予備入力)三原順原画

モノクロ5784点
イラスト・カット478点
ネーム・プロット等原画相当資料75点

明治大学 米沢嘉博記念図書館



蔵書数 約14万冊
整理済 約13万冊
マンガ原画 約1400点
アニメ原画 約50箱分

雑誌収蔵庫



1階展示室



2階閲覧室



外観



**明治大学 米沢嘉博記念図書館
1階企画展示コーナー**

おしぐちたかしコレクションから見る海外マンガ展開催中 ～2020年1月27日(月)

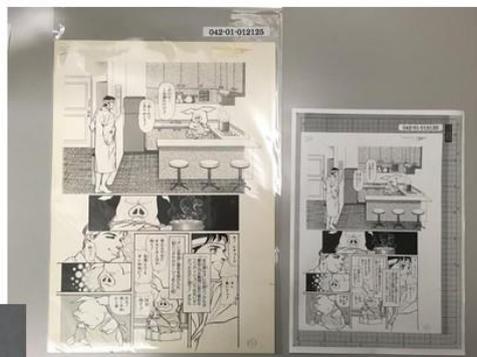
本事業

- ・文化庁のマンガ原画アーカイブに関する事業(通称:原画PJ)
(文化庁メディア芸術連携促進事業 連携共同事業内の事業)
- ・京都精華大学が中心となって、いくつかの連携施設とともに進めている
- ・今年度は、実際のアーカイブセンター形成を推進するための作業を進める年

本事業内での当館のこれまでの活動

- ・(全年度)マンガ原画のアーカイブ化の実践
マンガ原画の(収集)、整理保存、利活用について考察
- ・(2017年度)保存修復部会を立ち上げて連携各館を訪問し意見交換
- ・(本2019年度)マニュアル作成部会に参加

実践①：三原順原画の整理作業



原画全展整理済(スキャンおよびカード作成、データベースへの予備入力)

実践②：鈴木光明原画の整理作業



・本年度中に原画約1400点全点の整理を終了予定
(スキャンおよびカード作成、データベースへの予備入力)

三原順

『SONS』より

『はみだしっ子』より



没後20年展 **Jun Mihara**
三原順復活祭

期間: 2015年 **2月6日(金)-5月31日(日)**
 開催時間: 月・金 14:00-20:00、土・日・祝 12:00-18:00
 休 日: 毎週火・水・木曜日(祝日は開館)
※本展覧会とは別料金で観覧できる別展覧会あり。
 ※観覧料は別途要。詳しくは各展覧会場にてお問い合わせください。
 ※URL: <http://www.mitsugi.ac.jp/mihara/>

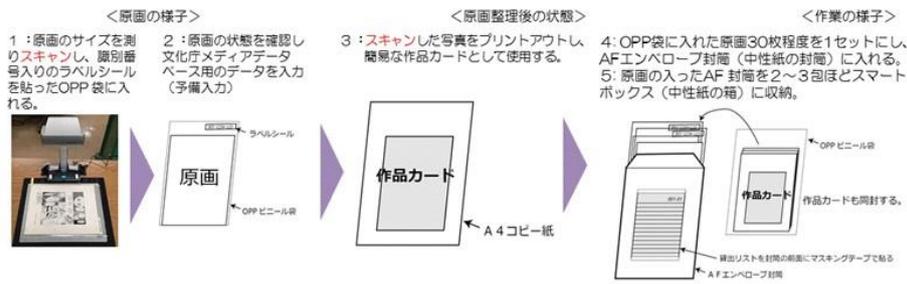
明治大学 米沢嘉博記念図書館 1階展示コーナー | 入場無料





1~2年目 モノクロ原画の整理 3年目 カラー原画と原画相当資料の整理

マンガ本編原画(主にモノクロ原画) 整理作業の流れ

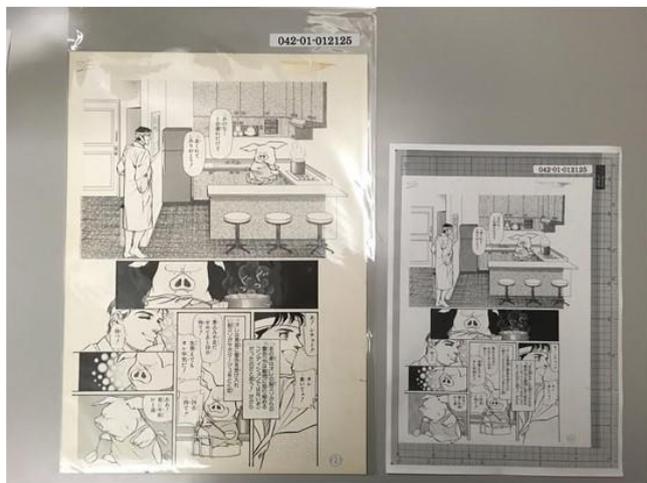


マンガイラストカット原画(主にカラー原画) 整理作業の流れ

- ・手順3までは本編原画の流れと同じ。
- ・カラー原画はサイズがまちまちなので、B4サイズまではリングファイルに収納。
それより大きなものは、本編減が同様中性紙の箱に収納。
今回は、新聞サイズ(B3)の箱までを準備した。



作業後の原画と作品カードの状態

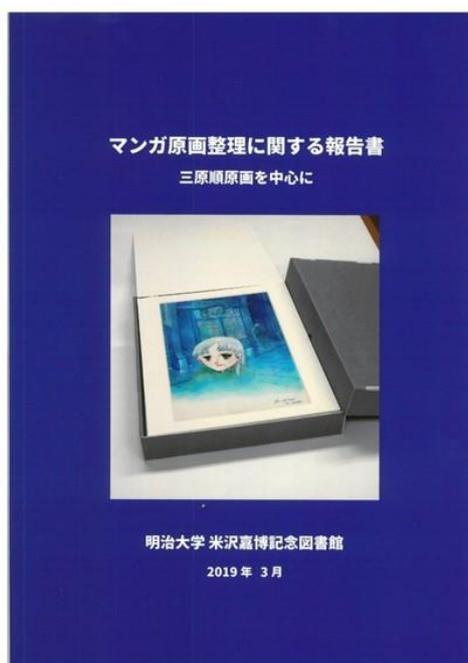


IDがふられOPP袋に入ったモノクロ用本編原画(左)と作品カード(右)

4年目

三原順原画の所在調査

当館マンガ原画整理に関する報告書作成



付録



5年目

全原画およびデータ
所有者にすべて返却

三原順原画
整理点数

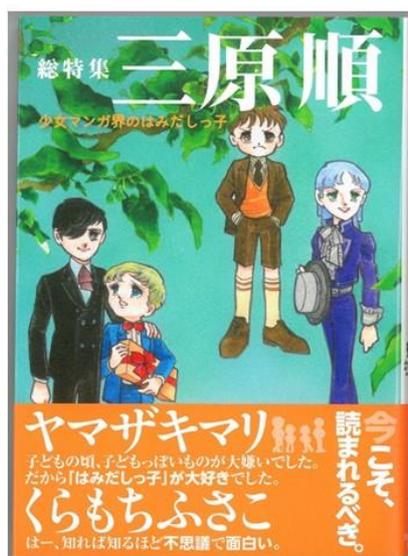
6337点

モノクロ5784点
イラスト・カット478点、ネーム・プロット
等原画相当資料75点

データも所蔵者の方に受け渡し済み

※2018年までのデータは当館にも保管

三原順原画の利活用例 2015-17年



2015年
『総特集 三原順』
河出書房新社

2冊のイラスト集
新装版
グッズ作成
上記2件/復刊ドットコム

2016年
LaLa40周年展
白泉社
「ルーとソロモン」出展

2017年
舞台はみだしっ子
スタジオライブ
※チラシ 広報画像に整理中原画
データを使用



三原順原画の利活用例 2018年



↑舞台はみしっ子②
チラシとグッズ

大阪でのギャラリー
展示とグッズの様子→



舞台はみだしっ子②

スタジオライブ
2018年11月2-4日(東京)、6-21日(大阪)
※チラシ・グッズ制作用画像使用

『三原順 原画展

Four Seasons～三原順の四季～』

エムデコ
スタジオコートギャラリー
日程: 2018年10月30日(火)～11月4日
(日)

※原画出展
※チラシ・グッズ制作用画像使用

教育目的での利用

※東洋美術学校保存修復科の授業へ
マンガ原画の状態の参考例として公開

三原順原画の利活用例 2019年



カラー原画展
札幌のご友人所蔵の原画18枚のお披露
目をメインに原画整理作業を紹介



三原順原画の利活用例 2019年



「三原順の音楽&グッズ展」開催

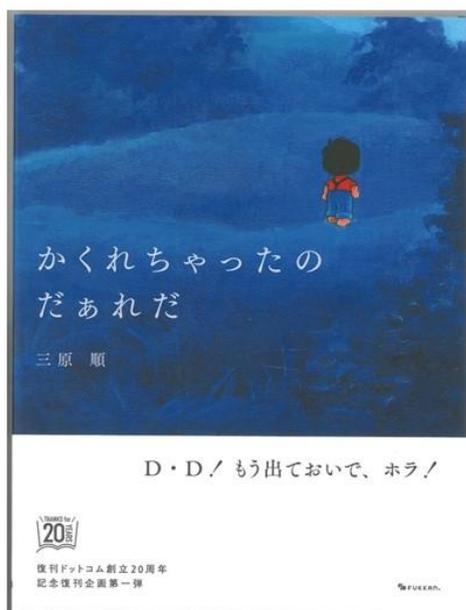
※パンフレット内の調査記事には、アーカイブ事業無くしては書けなかった部分もあり



舞台はみだしっ子③

※上記イラストは札幌調査によって確認できた原画

三原順原画の利活用例 2019年



復刊ドットコム20周年記念企画
三原順絵本
「かくれちゃったのだあれだ」
再復刊 10月30日

復刊ドットコムの最初の復刊本は
三原順の絵本

復刊時は初刊行時の写真データ
を使っの復刊

今回の再復刊では、整理作業に
よって確認できた原画から再デー
タ化しての復刊

3.3. 報告「マンガ原画修復について」

2019年度 文化庁メディア芸術連携促進事業 合同シンポジウム

マンガ原画の健康診断

～ アルコールマーカーに対する微小域耐光性試験(MFT) ～

マンガ原画支持体・画材研究部会

東洋美術学校：小野慎之介

PAPIER：米澤伸弥、菊田樹子、原正人

研究の背景

マンガ原画の資料的、芸術的価値が再認識される中で、博物館施設に収蔵される作品も増えており、その長期保存対策の構築が急務となっている。特に大量に遺された紙資料としての肉筆原画に対しては大掛かりな修復処置が必要となる前に、劣化要因（温湿度、光や照明、空気汚染、生物被害、災害など）をコントロールする「**予防保存対策**」の導入が必要不可欠である。

そのためにも、原画の**保存状態を可視化する迅速な評価手法**の開発が求められている。

☞ マンガ原画の健康状態を診断する「**聴診器**」の必要性

昨年度の取組み

肉筆のマンガ原画の多くは「紙」に描かれており、インクやトーン、ホワイト、写植といったマンガ制作に欠くことのできない画材も、全てこの紙（支持体）の上に存在している。マンガ原画を後世に遺すことの出発点は、この物質としての紙をどのように長期的に管理していけるのかを考えることでもある。

残念ながら多くのマンガ原画には「酸性紙」が使用されており、長期的には紙の物理的強度低下が避けられない。そこで、それぞれの原稿用紙がどの程度の物理強度（引張強度、耐折強度、セルロース重合度、酸化度など）を保持しているかを非破壊で予測するためのPLS回帰モデルを構築した。

昨年度の取組み

市販のマンガ用原稿用紙や不要になった古い原画、新たに抄いた酸性紙などを準備し、これに強制劣化試験を実施することで強度の異なるサンプルを用意した。



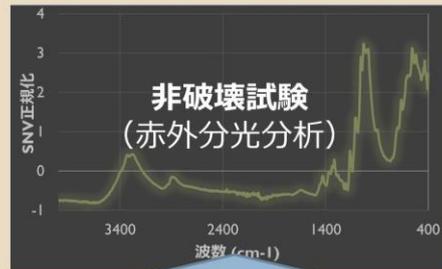
連携機関に集めて頂いた原画



恒温恒湿槽による強制劣化試験

昨年度の取組み

非破壊試験の結果と破壊試験の結果の関係性を多変量解析の手法(PLS)を用い調査した。その結果、両者には良い相関があることが分かり、非破壊試験の結果から破壊試験の結果(紙の強度)を予測できる可能性が見出された。



非破壊試験
(赤外分光分析)

非破壊試験の結果から
破壊試験の結果を予測



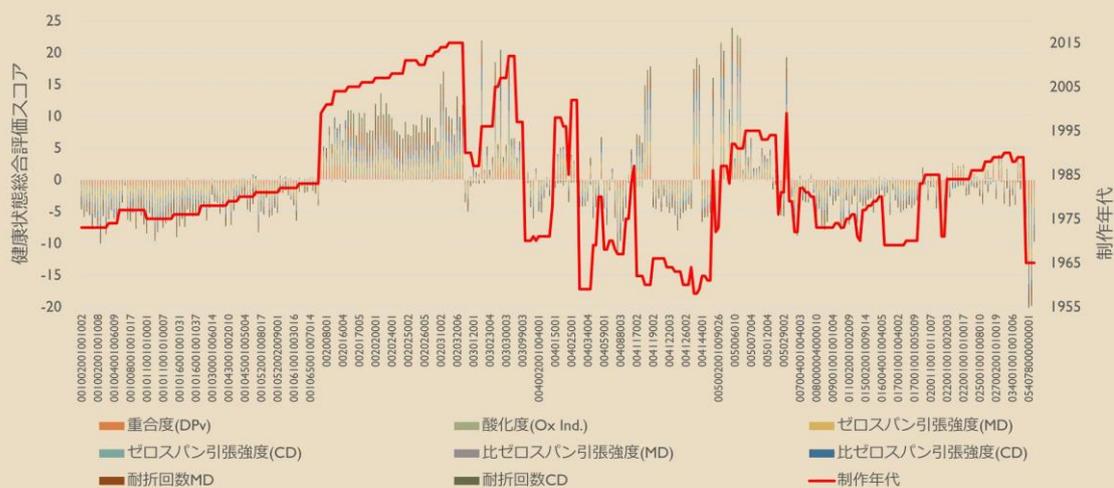
破壊試験
(セルロース重合度の計測)

昨年度の取組み

実測値と予測値



昨年度の取組み



紙の強度を非破壊で予測する「聴診器」の開発

本年度の取組み



谷ロジロー「神々の山嶺」4巻 屏絵, 2006
©PAPIER 2019

- カラー原画の「耐光性」はどの程度か？
- 展示環境における最適照度(lx)と展示期間とは？
- 耐光性を非破壊で予測できるのか？



「色に対する聴診器」

耐光性（耐候性）試験について



物質が「色をもつ」という現象は、照射された可視光線を部分的に吸収していることに由来します。

しかし光を浴び続けると徐々に分子構造が壊され、「変色や褪色」が引き起こされます。

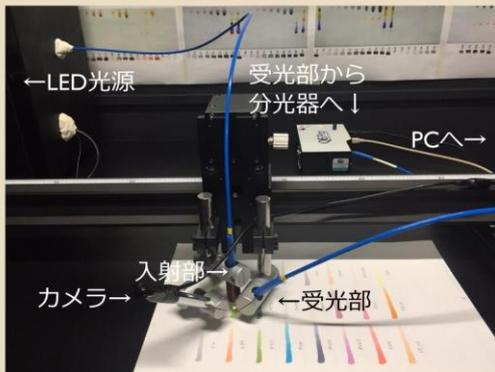
Microfading Tester(MFT)について

LED光源を直径0.4mmに集光し800,000lxの照度で試料表面に照射!!

集光した反射光を30秒間隔で記録し変色の様子をその場測定 (in situ)

MFTは非常に小さな領域で実行可能な耐光性試験

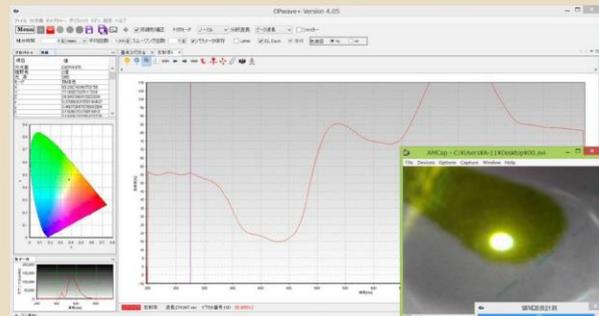
Microfading Tester(MFT)について



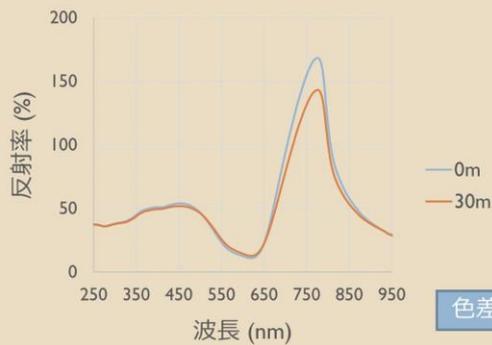
MFT計測のためのセットアップ

MFTの計測画面

MFTは**非常に小さい照射面積($\Phi=0.4\text{mm}$)**で耐光性試験が実施でき、褪色の様子を**リアルタイムに確認できるシステム**である。光源には太陽光に近い分光分布を持つキセノンランプなどが使われるが、今回はLED (0.8Mlx)を使用し、近年の展示環境に近い状況でMFTを実施した。



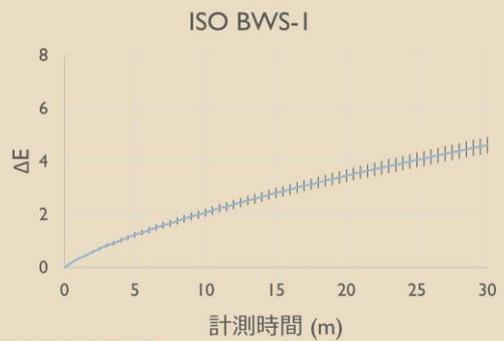
Microfading Tester(MFT)について



色差を計算

MFTの結果得られた分光反射スペクトルデータをCIE $L^*a^*b^*$ 表色系に変換し、色差 ΔE を算出する。

ISOブルーウールスタンダードI級の色差変移



色差 ΔE は、変色度合いを示す指標

Microfading Tester(MFT)について

CONTROL OF DAMAGE TO MUSEUM OBJECTS BY OPTICAL RADIATION CIEI57 : 2004

光に対する応答度	高応答度 (High responsivity)			中応答度 (Medium responsivity)		
BWSの級数	1	2	3	4	5	6
知覚できる色差までの積算照度(Mlx・h) ※UVを含む	0.22	0.6	1.5	3.5	8	20
知覚できる色差までの積算照度(Mlx・h) ※UVを含まない	0.3	1	3	10	30	100
限界照度(lx)	50			50		
年間積算照度 (lx・h / yr)	15,000			150,000		

※「知覚できる色差」とは、ここでは $\Delta E=1.6$ 程度を指す。

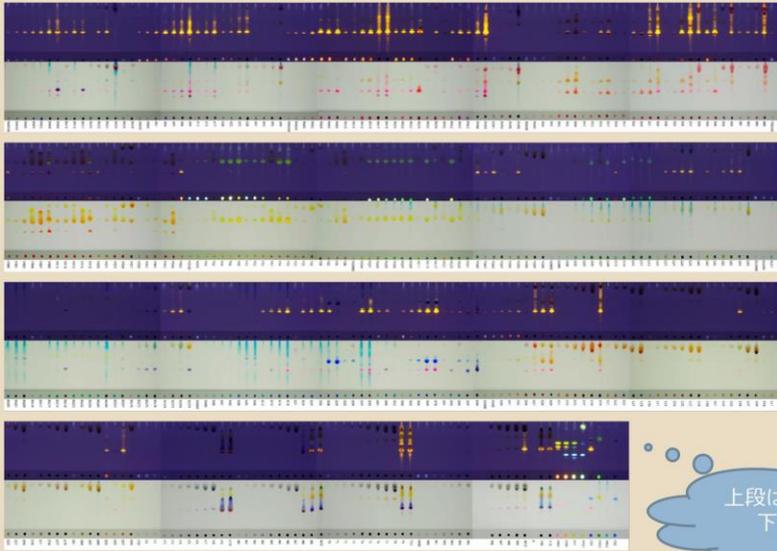
例えば、ブルーウール1級を500lxの環境に置けば600h(75日)程度でこの色差に達する計算になる。

Microfading Tester(MFT)について



谷口ジロー 「The Back of Beyond」 article 2 : オーニ
ロジ p.38, 1986 ©PAPIER 2019

Microfading Tester(MFT)について

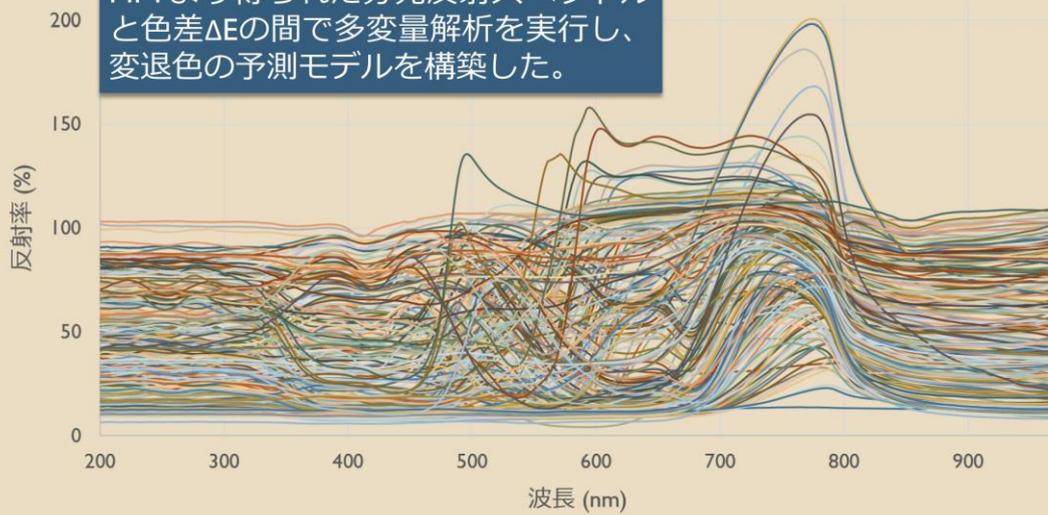


コピック全358色
に対する薄層クロ
マトグラフィー
(TLC)の結果から、
色材の組み合わせ
の異なる217色を
抽出しMFTを実行
した。
このデータを使い
予測モデルを構築
した。

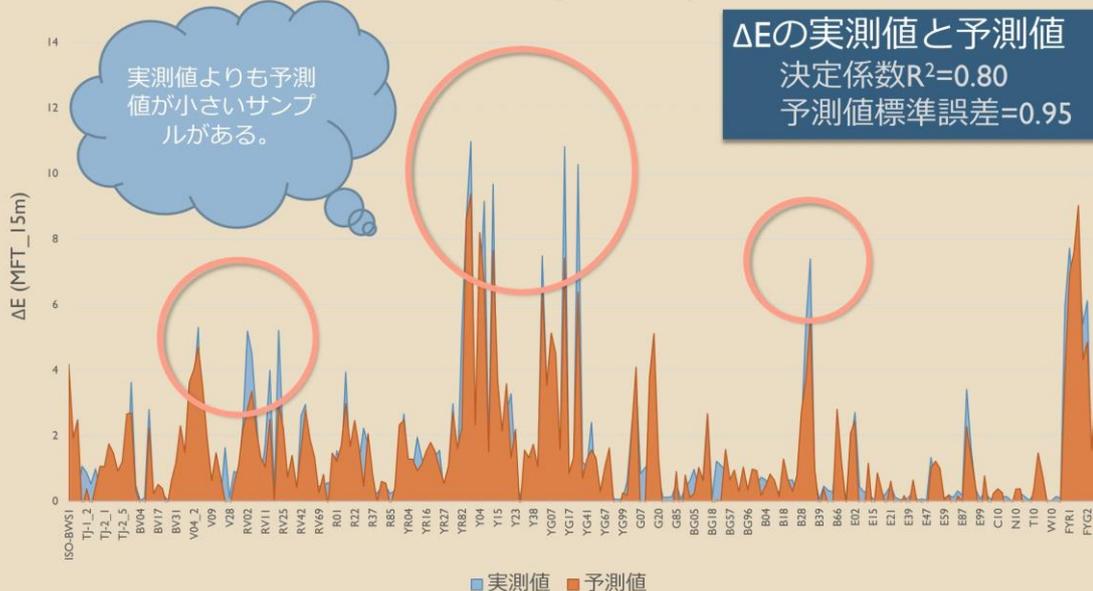
上段は蛍光画像 (EX:365nm)
下段は可視反射画像

Microfading Tester(MFT)について

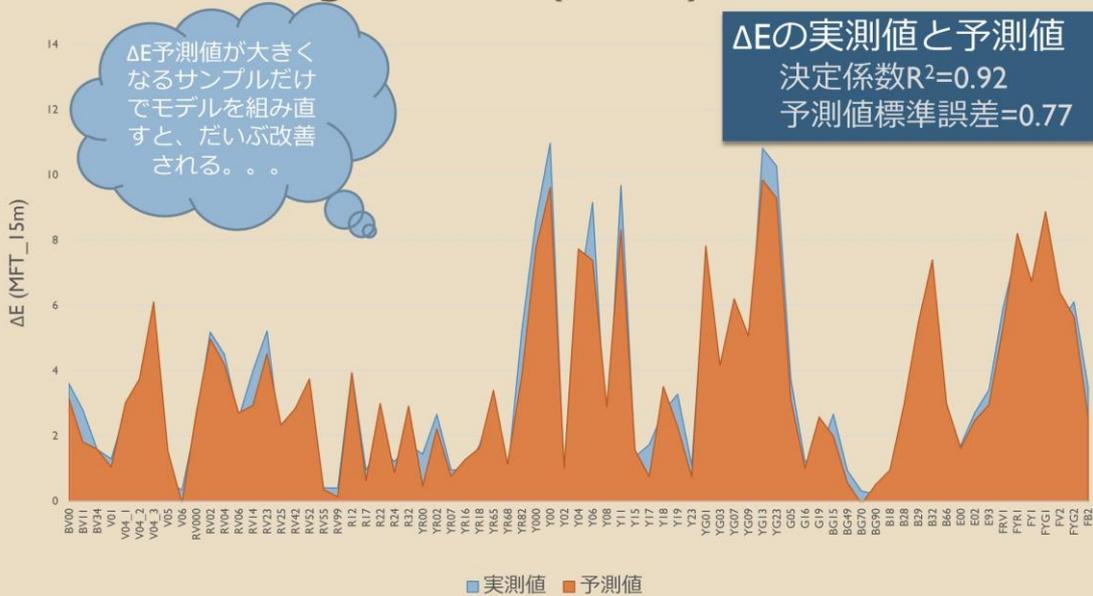
MFTより得られた分光反射スペクトル
と色差 ΔE の間で多変量解析を実行し、
変退色の予測モデルを構築した。



Microfading Tester(MFT)について



Microfading Tester(MFT)について



まとめ



谷口シロー「神々の山嶺」4巻 屏絵, 2006
©PAPIER 2019

- 調査したカラー原画には光に対して非常に敏感（高応答度）なものがあつた。
- 展示環境の照度(lx)を調整し、展示期間における積算照度(lx・h)をモニタリングする必要がある。
- 分光反射スペクトル(370-960nm)からの ΔE の予測は、特に ΔE の値が大きくなる色材について予測値が小さく見積もられる危険性があつた。
☞ 高 ΔE 試料で予測モデルを組み直す
- MFTによる ΔE の実測が有効である。

マンガ原画の「修復」について

資料がどこにあるかで「修復」は変わる



3.4. 報告「マンガ原画アーカイブネットワーク」／「マンガ原画アーカイブセンター」の構想

文化庁 2019年度メディア芸術連携促進事業
「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進」

**「マンガ原画アーカイブネットワーク」／
「マンガ原画アーカイブセンター」の構想**

「マンガ原画アーカイブネットワーク」検討部会

文化庁メディア芸術連携促進事業

マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進

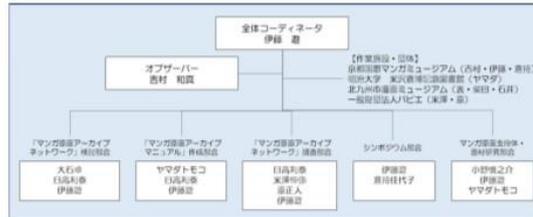
事業概要

- 1) マンガ原画のアーカイブ〈収集〉〈保存・整理〉〈活用〉
将来的な発展的原画アーカイブについてのマイルストーンを作成し、関係機関先との認識を共有する。
- 2) 連携機関のネットワーク構築とハブとなる拠点形成を確立する。
横手市増田まんが美術館内に設置を検討している「マンガ原画アーカイブセンター(仮称)」の活用について協議していく。

事業体制等

〈各連携先の役割〉

- ・京都国際マンガミュージアム: 原画の〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉
- ・明治大学 米沢嘉博記念図書館: 同上
- ・北九州市漫画ミュージアム: 同上
- ・一般財団法人パピエ(谷ロジロ-版權管理団体): 同上
- ・横手市増田まんが美術館: ハブ拠点形成想定施設
- ・東洋美術学校: マンガ原画の支持体・画材研究



「主な工程」

2018年度

2019年度

- マンガ原画の〈収集〉〈整理・保存〉作業
- 「マンガ原画アーカイブセンター」の構想



- 事業内容
- 1) 連携機関が所蔵している原画の〈収集〉〈整理・保存〉作業
 - 2) 各機関の協働による「マンガ原画アーカイブネットワーク」(仮)構築に向けた企画
 - 3) 「マンガ原画アーカイブマニュアル」(仮)の作成および公開の準備
 - 4) 多方面からの連携検討
 - 5) シンポジウムの開催
 - 6) マンガ原画支持体・画材研究

- 最終目標
- ・「マンガ原画アーカイブセンター(仮称)」の開設化
 - ・連携機関をつなぐネットワークの構築
 - ・持続可能な専門人材の育成

期待される成果・目標

- 1) 「マンガ原画アーカイブマニュアル(仮称)」の作成・公開による新たに参画するアーカイブ施設への提供が可能となる。
- 2) 手法モデルの提示とともに実験結果を報告・検証を重ねることで、より実情に近いメニュー開発を可能にする。
- 3) 価値が定まらない原画の金銭的高騰が現実となった状況に対し、文化的指標に基づく適正なマーケット形成を牽引する。
- 4) センターの実装を核とする「マンガ原画アーカイブネットワーク(仮称)」構築を実現する。
⇒今年度(2019年度)目標「マンガ原画アーカイブセンター(仮称)」の活用方法について検討し、ネットワークを構築する。
⇒将来ビジョン:メディア芸術領域における「マンガ原画アーカイブ」の機能を担保すべく、人・物・情報を総合的に集約するための拠点を整備する。

横手市増田
まんが美術館
YOKOTE MASUDA
MANGA MUSEUM

「マンガ」をテーマにした全国初の美術館

マンガという
文化を体感!!

横手市
増田まんが美術館

マンガウォール

入場料 / 無料
(特別企画展は有料)

開館時間 / 10:00~18:00

休館日 / 第3火曜日

多目的トイレ
コインロッカー
エレベーター

名台詞ロード

横手市増田
まんが美術館
YOKOTE MASUDA
MANGA MUSEUM

原画の息づかいを伝え、常に変化し続ける

知れば知るほど
マンガはもっと
楽しくなる!!

常設展示室






- 3 -

横手市増田
まんが美術館
YOKOTE MASUDA
MANGA MUSEUM

大規模収蔵

矢口高雄	42,000 点
小島剛夕	62,000 点
高橋よしひろ	40,000 点
能條純一	17,000 点
東村アキコ	16,000 点
土山しげる	40,000 点
倉田よしみ	15,000 点

原画収蔵数
230,000 点以上
(2019年3月現在)



©矢口高雄

- 4 -

横手市増田
まんが美術館
YOKOTE MASUDA
MANGA MUSEUM

マンガの蔵展示室へ

- 5 -

横手市増田
まんが美術館
YOKOTE MASUDA
MANGA MUSEUM

貴重な原画を収集する、現役の「蔵」

原画収蔵数は
23万枚以上!!

マンガの
蔵展示室

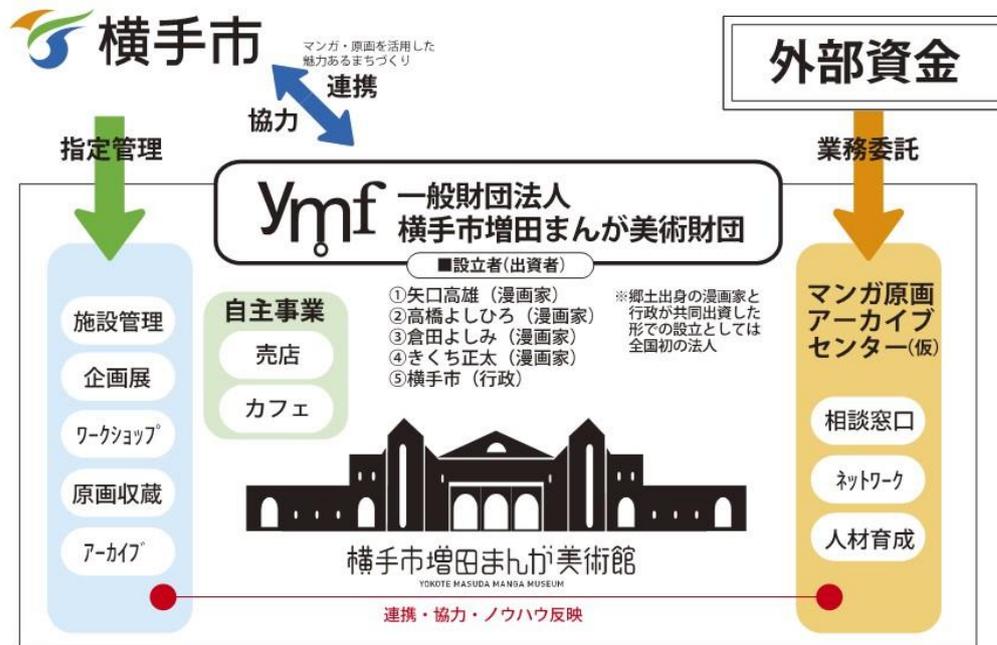
原画保存の様子をガラス越しに確認できる「マンガの蔵展示室」

大型タッチモニター

ヒキタシステム

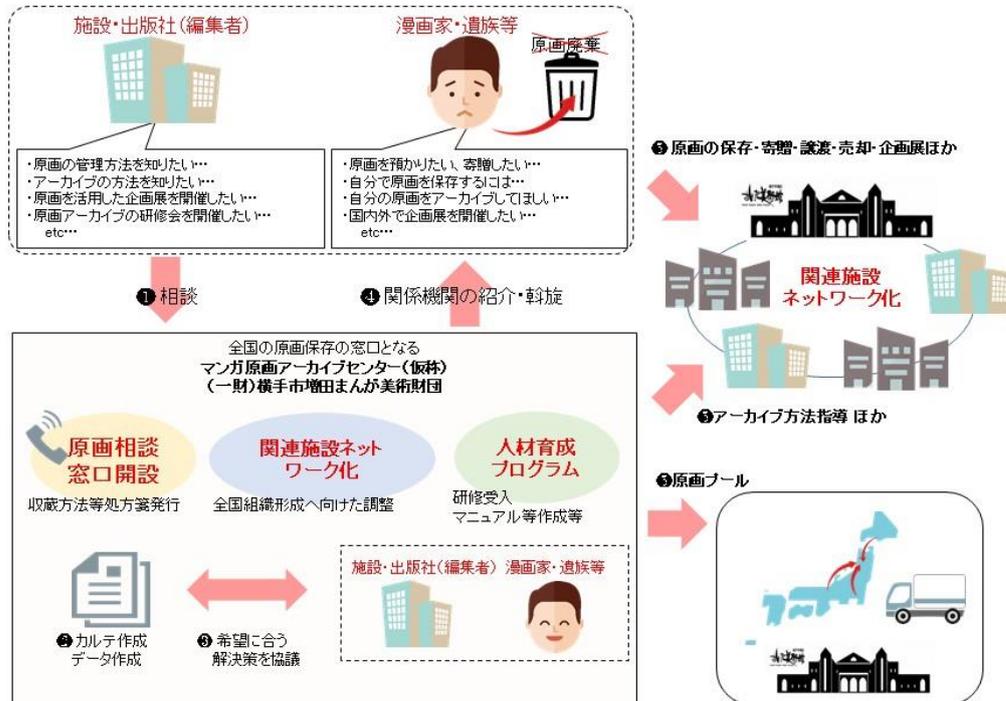
- 6 -

「マンガ原画アーカイブセンター（仮称）」実装化イメージ



- 7 -

マンガ原画アーカイブセンター（仮称）業務の流れ



- 8 -

「マンガ原画アーカイブセンター（仮称）」の業務概要

原画相談
窓口開設

- ①原画相談受付（電話、FAX、メール等）
- ②大手出版社を中心とした窓口開設説明
- ③漫画家協会等団体に対する窓口開設説明
- ④相談カルテ作成
- ⑤相談に対する処方箋発行
- ⑥原画移設対応（版權者）
- ⑦緊急対応を要する原画調査
- ⑧原画プールへの移管調整

関連施設
ネットワーク化

- ①関連施設リスト化
- ②協力施設リスト化
- ③アンケート調査分析（前年度調査の分析）
- ④新規アンケート調査実施（前年度対象施設以外）
- ⑤ブロック会議の開催、調整
- ⑥原画移設対応（施設調整）

人材育成
プログラム

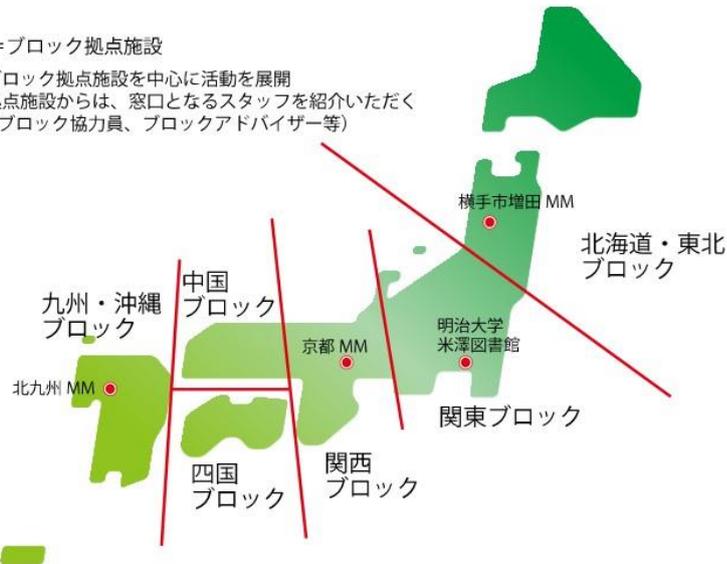
- ①研修内容の構築
- ②研修マニュアルの作成
- ③アーカイブ研修受入調整（財団及び希望者との調整）

- ①独自ホームページ、活動内容パンフ等を活用したアーカイブセンターの開設告知及び業務内容宣伝

ネットワークのブロック化（イメージ）

●=ブロック拠点施設

- ・ブロック拠点施設を中心に活動を展開
- ・拠点施設からは、窓口となるスタッフを紹介いただく（ブロック協力員、ブロックアドバイザー等）



- 【想定される活動】
- ①センター設立及び活動内容説明会（アンケート調査反映）
 - ②ネットワーク会議（年1回の全体会議は東京開催）
 - ③移動アーカイブ研修会 ほか

3.5. シンポジウムチラシ

日時：2019年12月17日(火) 13:00 - 17:00 (開場 12:30) 

会場：大日本印刷株式会社 DNP 五反田ビル
(東京都品川区西五反田3-5-20)

定員：先着130名
主催：文化庁

マンガが先か!?
原画が先か!?

「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて
近年マンガのアーカイブに対する注目度が高まる

「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進」
「国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」

2019年度文化庁メディア芸術連携促進事業
「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進」

連携団体：横手市、一般財団法人横手市増田まんが美術館、明治大学、明治大学米沢嘉博記念図書館、北九州市漫画ミュージアム、一般財団法人パピエ、東洋美術学校

企画：京都精華大学国際マンガ研究センター／
特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト／
熊本大学文学部 コミュニケーション情報学科現代文化資源学コース
運営：メディア芸術コンソーシアム JV 事務局

プログラム

13:00 - 13:15

趣旨説明

13:15 - 14:15

第1部「マンガ原画に関するアーカイブ及び拠点形成の推進」事業報告

- ・マンガ原画アーカイブに関するアンケート調査報告(日高利泰)
 - ・「マンガ原画アーカイブネットワーク」/
「マンガ原画アーカイブセンター」の構想(横手市・大石卓)
 - ・マンガ原画修復について(東洋美術学校・小野慎之介)
- 司会＝京都精華大学国際マンガ研究センター・伊藤遊(事業コーディネーター)

14:15 - 14:30

休憩

14:30 - 15:30

第2部「国内外の機関連携によるマンガ史資料の連携型アーカイブの構築と人材育成環境の整備に向けた準備事業」事業報告

- ・マンガ史資料アーカイブに関するアンケート調査報告
(北九州市漫画ミュージアム・表智之)
 - ・「共同保管倉庫(複本プール)」の構想と展望
(特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト・橋本博、
明治大学図書館図書館総務事務室・柴尾晋)
 - ・マンガ史資料のパッケージについて(熊本大学大学院・松岡星)
- 司会＝熊本大学/
特定非営利活動法人熊本マンガミュージアムプロジェクト
鈴木寛之(事業コーディネーター)

15:30 - 15:45

休憩

15:45 - 17:00

ディスカッション テーマ:マンガが先か? 原画が先か?

- 「マンガのアーカイブ」のネクストステージに向けて—
ディスカッサント＝赤松健・森川嘉一郎・伊藤遊・鈴木寛之
- 司会＝京都精華大学・吉村和真

問い合わせ先

メディア芸術コンソーシアム JV 事務局京都事務所
〒604-8241 京都市中京区三条通新町西入釜座町 22
ストークビル三条烏丸 407 号室
TEL : 075-212-0560

近年、「マンガのアーカイブ」に対する注目度が高まっています。国内外でマンガを収蔵する美術館や図書館が増える一方、海外ではマンガが高額な値段で売買されることもあり、「浮世絵の二の舞になるのでは」とマンガの国外流出を心配する声も聞こえてきます。特に今夏は大英博物館で大規模なマンガ展が開催されたことも話題になりました。

しかし、ここで言う「マンガ」とは一律の意味に収まりません。雑誌と単行本の違いだけでなく、紙の原画とは別にデジタルの作画データもあり、メディアとしての形態も違えば、商品なのか美術品なのかといった価値付けの観点も異なります。一口に「マンガを収蔵する」とか「マンガを展示する」と言っても、その対象や方法は実にさまざまです。

こうした問題意識をふまえ、本事業では「原画」と「刊本」のプロジェクトに区別してアーカイブの実践と課題の抽出を進めてきました。いささか挑発的なタイトルによる今回のシンポジウムでは、約5年間におよぶ両プロジェクトの活動実績を一体的に総括すべく、具体的な手法から理念的な枠組みにいたるまでを議論し、今後の「マンガのアーカイブ」が目指すべき姿を展望します。

本報告書は、文化庁の委託業務として、メディア芸術コンソーシアムJV事務局が実施した2019年度「メディア芸術連携促進事業」の成果をとりまとめたものであり、第三者による著作物が含まれています。転載複製等に関する問い合わせは、文化庁にご連絡ください。